



GSA

<https://nihon-u-gsa.com>

日本大学大学院芸術学研究科

NIHON UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF ART 2022-2023

芸術の新たな地平を切り拓く。



近年の芸術は、各分野がそれぞれ深化し、より高度な専門性が要求されるようになっていきます。

同時に、各分野のクロスオーバーする部分も大きくなるとともに、これまでの芸術の各領域を超えてマルチプル化しています。単独分野の研究を超えて、各分野が複雑にかかわり合うようになってきており、単独の芸術の深化をはかるだけでは十分といえない領域が多くなってきています。

本研究科は、以上のような芸術の現状を視野に置きながら、芸術の理論と歴史の研究と想像力を養い、併せて専門および学際的課題を含む応用領域の研究を行うことを目的としています。

このような理念を基に、博士前期(修士)課程は昭和26年に設置した文芸学専攻に加えて、平成5年に映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の4専攻を設置し、芸術の理論と高度な表現力を涵養することを主眼に構成しています。また、平成7年に開設された博士後期課程芸術専攻では、さらに自立した研究活動と高度な活動に従事するのに必要な表現能力と豊かな学識を持った人材の育成を目標としています。

Recently each field of art has become increasingly specialized, and students must acquire a higher level of knowledge and skills.

At the same time, each field of art has spread beyond its traditional range and borders between fields have become blurred.

The graduate school of art provides an opportunity to study the theory and history of art and to develop creativity while also developing skills in other applied areas.

Based on these ideas, the Literary Arts Master Course started in 1951 and the four other master courses (Image Arts, Fine Arts and Design, Musical Arts, and Performing Arts) became available in 1993. The doctoral course that started in 1995 offers an even higher level of research and study, and educates students to acquire deep knowledge and artistic expression.

【芸術学研究科 教育研究上の目的】

21世紀の芸術は、すべての領域における融合を必然としている。芸術の現状を視野に置きながら、芸術の理論と歴史の研究と想像力を養い、併せて専門及び学際的課題を含む応用領域の研究を行っている。専門分野の更なる研究と創作等を行うとともに、隣接領域の芸術と触れ合い、広い視野をもって芸術を理解することで、幅広い知識と技術を持った、次代の芸術をリードする人材を養成する。

The Message from Masashi Kimura, Head of the Graduate School of Art



木村 政司

日本大学大学院芸術学研究科長

学ぶ人たちへのメッセージ

日本大学大学院芸術学研究科は、昭和26年の文芸学専攻に始まり、平成5年の映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の増設へと、芸術研究の領域を広げてきました。そして平成7年には、博士後期課程芸術専攻を創設し、当研究科が目的とする総合的な芸術研究の場を整えました。今、芸術は文化となり、領域を超えた共存と融合の時代へと変貌しています。メディアという言葉のもつ意味にも、人間の欲求によって劇的に変化し、「コミュニケーション」においてかつてなかった革命が次々と起こっています。学部8学科を基礎とした5つの芸術学研究科は、自らが求める研究・創作のために芸術領域を超えた「知識と創造」にチャレンジし、発明・発見を大いに引き起こすことができる場といえるでしょう。芸術学研究科が提供するの、研究・創作の場です。みなさんは、アーティスト的な感性を身につけ、美意識を高めて、美しさを共感・共有できる研究・創作活動に情熱をもって打ち込んでください。あなたが未来の芸術研究をリードし、人々に感動を提供する存在になることを心から期待しています。

Nihon University Graduate School of Art began with the master's course in literary arts in 1951, and in 1993 four other master's courses were added, in image arts, fine art and design, musical arts, and performing arts. In 1995, a doctoral course for the arts was founded, providing a program for comprehensive research in the arts.

Art in this era constantly transforms culture and transcends the boundaries of field or genre. Even the meaning of the word "media" has changed and continues to evolve rapidly to reflect human needs and unprecedented revolutions in "communication" are occurring one after another.

The five graduate school courses, supported by eight faculties, offer you a space where you can invent and discover art beyond the "knowledge and creation" that you have already learned, through your own research and creation. The Graduate School of Art allows you to participate and contribute to our rapidly changing culture by providing free space for research and creation. You should be passionate about research and creative activities, and open to developing your artistic sensibilities and aesthetics. I sincerely hope that you will lead the future of art research and become an inspiration.

70年の歴史を持つ
芸術系総合大学院

70年の歴史を重ねる日本大学大学院芸術学研究科は、昭和26年に修士課程文学専攻からスタートしました。専門分野の更なる研究と創作を行うとともに、隣接領域の芸術と触れ合い、広い視野をもって芸術を理解することを目的として、平成5年度より映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の4専攻を増設し、学部8学科を基礎とした大学院として大きな一歩を踏み出しました。更に、平成7年度からは、博士後期課程芸術専攻を開設し、芸術系総合大学院として幅広い知識と技術を持った人を育成しています。

C O N T E N T S

芸術学部 College of Art	芸術学研究科 Master Course	芸術学研究科 Doctoral Course	芸術学研究科 Graduate School of Art	1
学部 【8学科】	博士前期課程 【5専攻】	博士後期課程 【1専攻】		
文芸	文芸学		文学専攻 Literary Arts	4
写真			映像芸術専攻 Image Arts	5
映画	映像芸術			
放送			造形芸術専攻 Fine Art and Design	6
美術	造形芸術			
デザイン			音楽芸術専攻 Musical Arts	7
	音楽芸術			
音楽			舞台芸術専攻 Performing Arts	8
	舞台芸術			
演劇			芸術専攻 The Arts	9
			教員 Faculty Members	10~47
			校舎等案内図 Guide Maps & INDEX	48

(令和3年10月現在)

Literary Arts Course

新しい創造力は、広い視野から生まれる。

文芸学専攻は、他の4専攻設置の科目を含め、幅広い視点から、創作・評論・文芸学・ジャーナリズムに関する研究を行うことが可能です。

授業科目	授業担当
A 理論部門	
文芸学特論Ⅰ	上田 薫 植月恵一郎
文芸学特論Ⅱ	上田 薫
哲学特論	伊藤博明
芸術心理学特論	野村康治
文芸情報学特論	ジュリアン・マニング
マスコミュニケーション論	藤代裕之
メディア論	青木敬士
文芸史特論	松本 洸
芸術社会学特論	山内 淳
文芸表現特論	三宅理一
	浅沼 璞
	山本雅男

【文芸学専攻 教育研究上の目的】

現代文学を研究・創作の両面から考え、隣接ジャンルとの関係で幅広くとらえて文学の未来を探らせる。文学のみならず広義の文化研究の領域でも新研究を求めている。そのためのあらゆる試みを可能にして、文壇・論壇・学界の新しい担い手を養成する。

文芸学専攻

This course was founded in 1951 and many talented people have graduated from it over the past half century. The course offers not only artistic theory and philosophy, but also the study of literature and literary theory. Moreover, students can also study journalism, communication, and creative writing.



文芸学専攻は、昭和26年に設置され、半世紀以上にわたり多くの人材を送り出しています。
文芸学専攻は、芸術学や芸術哲学を基礎とし、文学や文芸理論の研究、文芸作品の研究、作家研究を中心としたカリキュラムが組まれているのが特徴です。さらに、ジャーナリズムやコミュニケーションを対象とした研究・教育を行うとともに、創作実践および創作研究も取り入れていることは、他の文学専攻と異なった特徴のひとつです。

B 研究・創作部門

外国文芸特殊研究	久保陽子 ジュリアン・マニング
日本文芸特殊研究	浅沼 璞 上田 薫 ソコロフ山下聖美
文芸創作特殊研究	青木敬士 楊 逸
外国文芸特論Ⅰ	植月恵一郎 堀 邦維 山内 淳 久保陽子 山本雅男 堀 邦維 山内 淳 久保陽子
外国文芸特論Ⅱ	ソコロフ山下聖美 上坪裕介 谷村順一 清水 正 ソコロフ山下聖美 上坪裕介 谷村順一 清水 正
日本文芸特論Ⅰ	青木敬士 楊 逸
日本文芸特論Ⅱ	青木敬士 楊 逸
文芸創作特論Ⅰ	
文芸創作特論Ⅱ	

C 関連領域部門

芸術学特論	上田 薫 村山匡一郎 渡部葉子
リサーチ特殊研究Ⅰ	志村三代子
リサーチ特殊研究Ⅱ	松本 洸
映画史特論	志村三代子 村山匡一郎
放送史特論 ※	
日本美術史特論Ⅰ	大熊敏之 金子啓明 田口文哉 金子啓明
日本美術史特論Ⅱ	木村三郎 出羽 尚 木村三郎 出羽 尚
西洋美術史特論Ⅰ	
西洋美術史特論Ⅱ	
日本音楽史特論 ※	
西洋音楽史特論	平野 昭
演劇史特論	法月敏彦

D 連携研究部門

連携理論研究Ⅰ	
連携理論研究Ⅱ	
連携表現研究Ⅰ	
連携表現研究Ⅱ	
学位論文・作品	

※は令和3年度開講せず

Image Arts Course

柔軟な感性、深い探究心が、映像芸術の新時代をとらえる。

【映像芸術専攻 教育研究上の目的】

今日の情報環境の中で役割が拡大してきている写真、映画、TV等各専門領域・専門分野の深化・総合化を図る。映像の各分野の歴史研究や作品研究、さらに各メディアの総合化の実験、他の芸術領域との統合を図るなど、高度な創作活動、理論的研究を通じて、より新しく専門的な表現実験に意欲的に取り組む人材、専門的な教育研究に従事する人材の養成と新たな総合的研究領域の形成を図る。



映像芸術専攻

Today image arts are becoming increasingly important forms of artistic expression and sources of information. Not only changes in the media such as photography, film, television and digital gadgets, but also a fusion of digital image processing technologies and communication technologies is expanding the scope of possibilities in audio-visual space. This course aims to develop an overall conceptual framework for image arts, encompassing these image-based media. The main concept of this course is that each image is essential for various media, and artistic images connect people with society. Image is regarded as a technological artistic expression and as a social function of communication. Therefore, education and research in this major requires knowledge of natural science, professional techniques and creative activities.

今日の芸術表現および情報環境の中で、映像の持つ役割は大きくなっています。写真、映画、テレビ、モバイル機器などのメディアの変化とデジタル映像処理技術や通信技術との融合で視聴覚空間は拡張しています。映像芸術専攻は、こうした映像のさまざまなメディアを総合化した理念でとらえています。また、それぞれのメディア領域の本質は映像であるということに基づき、人と社会をつなぐ芸術メディアとしてデザインする研究と創作活動を通じて専門的知識を追究することを目的としています。ことに映像は、技術によって成立する芸術表現であり、社会的機能つまり伝達特性を持っています。本専攻では、それを踏まえ科学的知識、専門的表現技術および創作・研究を重要視しています。

写真・映画・放送の各領域を一つにし、映像分野における芸術創造の研究機関の役割を果たすという構想のもと、映像メディアの本質の構造的な研究と創作を行っています。

授業科目	授業担当
A 理論部門	
映像特論	鳥山正晴
写真史特論	高橋則英
映画史特論	志村三代子
	村山匡一郎
放送史特論 ※	
映像構成特論	相内啓司
	手塚昌明
映像技術特論 ※	
映像音響特論	眞道正樹
映像教育研究 ※	
B 演習・実習部門	
映像表現研究 I	浅井 譲
	齊藤裕人
	鳥山正晴
	松島哲也
写真特殊研究 I	西垣仁美
映画特殊研究 I	古賀 太
放送特殊研究 I ※	
映像メディア特殊研究 I	奥野邦利
映像作品特殊研究 I	西垣仁美
	鳥山正晴
	鈴木康弘
	星野 裕
	中町綾子
映像技術特殊研究 I ※	
映像表現研究 II	浅井 譲
	田中里美
	服部一人
	上倉 泉
	大谷尚子
	松島哲也
	増田治宏
	清水和貴
	原 直久
	近森真史
	青木研次
	花柳貴答
	宮澤誠一
	福田卓郎

写真特殊研究 II	高橋則英
	西垣仁美
映画特殊研究 II	古賀 太
	増田治宏
	村山匡一郎
	山田 均
	兼高聖雄
放送特殊研究 II	横田正夫
映像メディア特殊研究 II	佐藤英裕
映像作品特殊研究 II	西垣仁美
	鈴木康弘
	中町綾子
	野田慶人
	星野 裕
	森中慎也
	安部 裕
	茅原良平
	金 龍郎
	寺脇 研
映像技術特殊研究 II	秋元貴美子
	上倉 泉
	玉木則順
	落合賢一

C 関連領域部門	
芸術学特論	上田 薫
	村山匡一郎
	渡部葉子
リサーチ特殊研究 I	志村三代子
リサーチ特殊研究 II	松本 洸
文芸学特論 I	上田 薫
	植月恵一郎
文芸学特論 II	上田 薫
哲学特論	伊藤博明
芸術心理学特論	野村康治
文芸情報学特論	ジュリアンマニング
マスコミュニケーション論	藤代裕之
メディア論	青木敬士
	松本 洸
文芸史特論	山内 淳
芸術社会学特論	三宅理一
造形特論	大西若人
	山中敏正
建築造形特論	三宅理一
デザイン史特論 I	西川 潔
	小林昭世
デザイン史特論 II	西川 潔
	小林昭世
建築デザイン史特論 I	若原一貴
建築デザイン史特論 II	若原一貴
日本美術史特論 I	大熊敏之
	金子啓明
日本美術史特論 II	田口文哉
	金子啓明
西洋美術史特論 I	木村三郎
	出羽 尚
西洋美術史特論 II	木村三郎
	出羽 尚
音楽芸術特論 I	笠羽映子
音楽芸術特論 II	平野 昭
日本音楽史特論 ※	
西洋音楽史特論	平野 昭
情報音楽特論	岩宮真一郎
音楽心理学特論	大寺雅子
舞台芸術特論	范 旅
演劇史特論	法月敏彦
民俗芸能特論	宮尾慈良
舞踊史特論	丸茂祐佳
	貴 成人
古典劇特論	小田幸子
映像文献原典購読	堀 邦維
D 連携研究部門	
連携理論研究 I	
連携理論研究 II	
連携表現研究 I	
連携表現研究 II	
学位論文・作品・制作	

※は令和3年度開講せず

Fine Art and Design Course

知識の蓄積は、創造の可能性を広げる。

造形芸術専攻では、造形芸術に関する知識の修得とともに、高度な専門領域の研究と技術の修得を行います。

授業科目	授業担当
A 理論部門	
造形特論	大西若人 山中敏正 三宅理一
建築造形特論	大熊敏之
日本美術史特論Ⅰ	金子啓明
日本美術史特論Ⅱ	田口文哉 金子啓明
西洋美術史特論Ⅰ	木村三郎
西洋美術史特論Ⅱ	出羽 尚 木村三郎
デザイン史特論Ⅰ	出羽 尚 西川 潔 小林昭世
デザイン史特論Ⅱ	西川 潔 小林昭世
建築デザイン史特論Ⅰ	若原一貴
建築デザイン史特論Ⅱ	若原一貴
美術教育研究Ⅰ	金澤健一
美術教育研究Ⅱ	金澤健一

【造形芸術専攻 教育研究上の目的】

デザイン、美術、美学美術史の分野における専門家を養成する。創作研究、作品分析研究、歴史研究を多角的に追求し、平面、立体、映像等表現の伝統的及び現代的技法を習得する。芸術の根源的な営為への想像力を馳せる力を養う一方で、文献学の基礎的方法も学ぶ。国際的な視野を持ち、社会との連携も視野に入れつつ、IT時代に即応した先端的表现領域や、造形関連分野境界領域での表現の独創性も追求する。

造形芸術専攻



阿部七菜子「思い出流星群」

The primary goal of this course as an extension of the undergraduate course is to foster artistic as well as intellectual ability. It is assumed that the former is strengthened and given direction by the latter. Although training students in skills and technical knowledge in their respective fields of painting, sculpture, printmaking and design disciplines including communication, industrial and architectural designs – along with the theory of plastic art that encompasses them – is important, creative interactions among these fields is also strongly encouraged. This course aims to endow students with sensitivity to traditional culture as well as to the age of information and globalism, a prerequisite for the creation of visual culture in the future.



Ding Yilun

研究活動を通じて育まれた「知」と、「知」に支援された「感性」の両者を合わせつつ人材の育成こそが、学部課程の発展形としての博士前期課程の主たる教育目標です。より高度な専門性の涵養をめざす一方では、造形専攻を構成する絵画・彫刻・版画・造形理論・及びコミュニケーション、インダストリアル、建築のデザイン各分野が、領域をこえて、創造的な交流をはかるための多様な機会も用意されています。

伝統の知恵と、情報化・国際化という時代の趨勢を、独自のテーマ設定と方法論の構築を通じいかして創造の糧として取り込むか。ここに、視覚文化の優れた担い手の養成をめざす造形芸術専攻の不断の目標があります。

B 演習・実習部門	
造形芸術研究Ⅰ (絵画・版画)	笹井祐子 福島唯史 瀬島 匠 大槻孝之 鞍掛純一 木村政司 森 香織 佐藤 徹 笠井則幸 長瀬浩明
造形芸術研究Ⅰ (彫刻)	
造形芸術研究Ⅰ (デザイン)	
造形理論研究Ⅰ ※	大庭英治 笹井祐子 福島唯史 瀬島 匠 木下 晋 松下サトル 吉岡正人 鞍掛純一 寺内隆子 森 香織 佐藤 徹 長瀬浩明 笠井則幸 大熊敏之 木村三郎 山中敏正 赤木範陸 吉岡正人 作田富幸 八木なざさ 作田富幸 飯田竜太 蔵屋美香 海崎三郎 栗之正臣 肥田不二夫 西川 潔 山本守和 松本 有 大庭英治 木下 晋 吉岡正人 野口玲一 西尾 彩 鷹尾俊一 大槻孝之 池田光宏 肥田不二夫 木村政司 小林昭世 森 香織
造形芸術研究Ⅱ (版画)	
造形芸術研究Ⅱ (彫刻)	
造形芸術研究Ⅱ (デザイン)	
造形理論研究Ⅱ	
絵画特殊研究Ⅰ	
絵画特殊研究Ⅱ	
版画特殊研究Ⅰ	
版画特殊研究Ⅱ	
彫刻特殊研究Ⅰ	
デザイン特殊研究Ⅰ	
デザイン特殊研究Ⅱ	
デザイン特殊研究Ⅲ	
絵画作品研究Ⅰ	
絵画作品研究Ⅱ	
版画作品研究Ⅰ	
版画作品研究Ⅱ	
彫刻作品研究Ⅰ	
彫刻作品研究Ⅱ	
デザイン作品研究Ⅰ	
デザイン作品研究Ⅱ	
デザイン作品研究Ⅲ	
デザイン作品研究Ⅳ	
デザイン実務研究 ※	
C 関連領域部門	
芸術学特論	上田 薫 村山匡一郎 渡部葉子 志村三代子 松本 洸 上田 薫 植月恵一郎 伊藤博明 ジュリアンマニング 鳥山正晴 高橋則英 志村三代子 村山匡一郎
リサーチ特殊研究Ⅰ	
リサーチ特殊研究Ⅱ	
文芸学特論Ⅰ	
哲学特論	
文芸情報学特論	
映像特論	
写真史特論	
映画史特論	
放送史特論 ※	
音楽芸術特論Ⅰ	
日本音楽史特論 ※	
西洋音楽史特論	
情報音楽特論	
音楽心理学特論	
舞台芸術特論	
演劇史特論	
民俗芸能特論	
古典劇特論	
芸術心理学特論	
芸術社会学特論	
造形文献原典購読	
D 連携研究部門	
連携理論研究Ⅰ	
連携理論研究Ⅱ	
連携表現研究Ⅰ	
連携表現研究Ⅱ	
学位論文・作品・制作	

Musical Arts Course

時代に先駆けた音楽人を目指す。

【音楽芸術専攻 教育研究上の目的】

音楽は、芸術文化の中で重要な部分を形成するばかりでなく、社会がますます複雑化し、多様化するにつれて、演劇、舞踊、映画、放送などといった諸分野との結びつきも、さらに密接になってきている。文化の国際化にともなう、まったく新しい形の活動も、めざましい。現実を見据え、いっそう高度な演奏、創作、研究を実践し、あるいは教育に当たることのできる人材を養成する。

音楽芸術専攻

This course is grounded in the artistry built up over time through the many accomplishments of the College of Art in various fields. It aims at a scientific approach to the study of the essence and psychological aspects of music so that the students can attain higher levels of musical sensitivity and methodology. Goals are to conduct research on musical theories and train students to be capable of responding flexibly to the increasingly diverse needs of society.

多様化するニーズに応えるため、より高度な音楽的感性と、技法の向上を具体的に研究することを目的とした授業を行っています。

授業科目	授業担当
A 理論部門	
音楽芸術特論Ⅰ	笠羽映子
音楽芸術特論Ⅱ	平野 昭
日本音楽史特論 ※	
西洋音楽史特論	平野 昭
情報音楽特論	岩宮眞一郎
音楽教育特論	江間孝子
音楽心理学特論	大寺雅子



音楽小ホール

音楽芸術専攻は、芸術学部の各領域の歴史的な蓄積による芸術性を根幹に据えながら、音楽の持つ芸術の本質および心理的側面を科学的に把握し、より高度な音楽的感性と技法の向上を目指します。同時に、理論的な研究を行うことを主眼として、多様化する社会的要求にも柔軟に対応できる人材の育成を目的としています。

B 演習・実習部門

作曲特殊研究	伊藤弘之
声楽特殊研究	齊田正子
器楽特殊研究	田代幸弘
	萩原貴子
	伊藤弘之
音楽学研究	川上 央
音楽教育研究 ※	高久 暁
情報音楽研究	伊藤弘之
音楽理論研究Ⅰ	川上 央
	高久 暁
	大寺雅子
	三戸勇氣
	岩宮眞一郎
音楽理論研究Ⅱ	伊藤弘之
	川上 央
	高久 暁
	大寺雅子
	三戸勇氣
	吉野大輔
	岩宮眞一郎
音楽表現研究Ⅰ	伊藤弘之
	齊田正子
	田代幸弘
	萩原貴子
	佐々木 伸
	楊 麗貞
音楽表現研究Ⅱ	伊藤弘之
	齊田正子
	田代幸弘
	萩原貴子
	佐々木 伸
	楊 麗貞
	松本 明
音楽作品研究	今泉 久
	齊田正子
	楊 麗貞
	今泉 久
指揮研究	

C 関連領域部門

芸術学特論	上田 薫
	村山匡一郎
	渡部葉子
リサーチ特殊研究Ⅰ	志村三代子
リサーチ特殊研究Ⅱ	松本 洸
造形特論	大西若人
	山中敏正
映像特論	鳥山正晴
映像構成特論	相内啓司
	手塚昌明
	眞道正樹
映像音響特論	
放送史特論 ※	法月敏彦
演劇史特論	丸茂祐佳
舞踊史特論	貫 成人
民俗芸能特論	宮尾慈良
日本美術史特論Ⅰ	大熊敏之
	金子啓明
日本美術史特論Ⅱ	田口文哉
	金子啓明
西洋美術史特論Ⅰ	木村三郎
	出羽 尚
西洋美術史特論Ⅱ	木村三郎
	出羽 尚
	山内 淳
文芸史特論	伊藤博明
哲学特論	北岡晃子
音楽文献原典購読	

D 連携研究部門

連携理論研究Ⅰ	
連携理論研究Ⅱ	
連携表現研究Ⅰ	
連携表現研究Ⅱ	
学位論文・作品・制作	

Performing Arts Course

舞台芸術を学び、創造力を育成する。

【舞台芸術専攻 教育研究上の目的】

演劇の実践教育及びその芸術表現を基盤に、戯曲、演出、舞台美術の空間表現と、演技、舞踊など身体表現の教育研究を主眼とする。ことに、映像メディアを活用した身体表現や創作実験の場の提供による表現など創造的研究を行う。従来の西洋演劇を中心とした学問体系のみならず日本の伝統芸能、民族芸術等を基盤として、これらの歴史研究、調査研究を実施し、高度な専門知識と実践的能力を有する人材を養成する。

舞台芸術専攻

The field of "performing arts" covers every artistic form using the human body as a medium of expression. This major gives students opportunities to learn the practical methods of, and to research, dramatic literature, directing, stage design, ethnic/folk performances, and the educational / therapeutic use of the performing arts. It is powerful, authentic expression from the heart that moves people and deepens research. This major welcomes students with brave, frontier spirits.



舞台芸術におけるより高度な研究には、固定概念に捉われず常に社会を観察する洞察力が必要です。先人たちが何を理想とし、また何を創造してきたのか、内外の歴史を知りそれを広く自らの研究領域に活用しなければなりません。言わば「温故知新」の姿勢が必要です。確固たる理論の研究や歴史への理解に加え、常に開拓者の精神で望む創造への挑戦は、理論研究であれ、それに基づく実践的研究であっても本質的に何も違いはありません。社会のニーズにあった研究者の育成はもちろん、専攻での研究成果を活かした様々なシーンで活躍できる優れた表現者の育成も行っています。

舞台芸術における、高度な理論および創造の研究・教育を目標に置いた授業を行っています。

授業科目	授業担当
A 理論・歴史部門	
舞台芸術特論	范 旅
演劇史特論	法月敏彦
舞踊史特論	丸茂祐佳
	貫 成人
民俗芸能特論	宮尾慈良
古典劇特論	小田幸子
応用演劇特論	櫻井 歆
	小沢 徹
アート・マネジメント特論 ※	
B 演習・実習部門	
舞台表現研究	藤崎周平
	加藤みや子
	中野成樹
舞踊特殊研究	丸茂祐佳
	范 旅
戯曲特殊研究 ※	川村 毅
舞台演出特殊研究	神永光規
	藤崎周平
	尾崎弘征
舞台美術特殊研究	大久保恵児
	千早正美
古典演劇特殊研究	原 一平
民俗芸能特殊研究	小林直弥
応用演劇特殊研究	奥山 緑
C 関連領域部門	
芸術学特論	上田 薫
	村山匡一郎
	渡部葉子
リサーチ特殊研究Ⅰ	志村三代子
リサーチ特殊研究Ⅱ	松本 洸
メディア論	青木敬士
	松本 洸
映像特論	鳥山正晴
造形特論	大西若人
	山中敏正
音楽芸術特論Ⅰ	笠羽映子
音楽芸術特論Ⅱ	平野 昭
映画史特論	志村三代子
	村山匡一郎
放送史特論 ※	
映像音響特論	眞道正樹
音楽心理学特論	大寺雅子
演劇文献原典購読	植月恵一郎
D 連携研究部門	
連携理論研究Ⅰ	
連携理論研究Ⅱ	
連携表現研究Ⅰ	
連携表現研究Ⅱ	
学位論文・作品・制作	

※は令和3年度開講せず

The Arts Course

研究心は、さらに高度な芸術を求める。

【芸術専攻 教育研究上の目的】

近年の芸術は、異なった分野・領域の芸術が、先端的なメディア等を介しながらクロスし、さらに密接な関係が成立している。専門の分野をより深く研究することを目的としつつ、どの分野からでも自らの研究に必要な他分野も研究し、新たな表現と理論の開発にも有効に機能するよう、芸術の学問と創作研究を確立し、自立した研究活動と高度な専門的活動に従事するに必要な高度な表現研究能力と豊かな学識を持った人材を養成する。

In recent artistic circumstances, fields of art have expanded beyond their traditional domains and are closely related through advanced media. The five master

芸術専攻

courses (Literary Arts, Image Arts, Fine Arts and Design, Musical Arts and Performing Arts) are united into one doctoral course. Students are able to study more specialized fields and interrelated fields as necessary. In the doctoral course students are encouraged to develop new artistic expression and theories. This course also offers working people the chance to study for doctoral degrees based on Act fourteen of the special law for the establishment of the graduate school. Working people can study during the day or in the late evening. Graduates from the master courses and doctoral course are engaged in educational and research institutions. Some of them continue their research in highly specialized fields, and others develop new fields.

授業科目	授業担当		
A 理論・歴史研究領域		B 表現研究領域	
芸術学特殊研究	伊藤博明 蔵谷美香 村山匡一郎	映像表現特別研究	奥野邦利 齊藤裕人 鳥山正晴 松島哲也 鈴木康弘 中町綾子 野田慶人 星野 裕 森中慎也 宮澤誠一 福島唯史 木村政司 森 香織 楊 逸
映像理論特殊研究		造形表現特別研究	
写真史特殊研究 ※	古賀 太	文芸表現特別研究	
映画史特殊研究	上倉 泉	舞台表現特別研究 ※	
写真技術特殊研究 ※	大熊敏之 小林昭世 西川 潔 山中敏正 木村三郎 大熊敏之 金子啓明	音楽表現特別研究	田代幸弘 萩原貴子 楊 麗貞
映像技術特殊研究			
造形理論特殊研究			
美術史特殊研究			
デザイン史特殊研究 ※	上田 薫 清水 正 山本雅男		
文芸理論特殊研究			
文芸史特殊研究			
舞台芸術理論特殊研究 ※			
演劇史特殊研究 ※			
メディア・コミュニケーション特殊研究	松本 洸 草原真知子 高久 暁 笠羽映子 寺脇 研	C 特定研究領域	
音楽理論特殊研究		芸術研究特別演習	浅沼 環 ソコロフ山下聖美 楊 逸 古賀 太 鳥山正晴 松島哲也 兼高聖雄 大熊敏之 福島唯史 森 香織 伊藤弘之 川上 央 田代幸弘 萩原貴子 高久 暁
音楽史特殊研究			
芸術教育特殊研究			
		学位論文	
		※は令和3年度開講せず	

近年の芸術環境は、異なった分野・領域の芸術が、先端的なメディア等を介させながらクロスオーバーしており、互いに密接な関係を結んでいます。博士後期課程の専攻を1専攻とし、博士前期課程の文芸学専攻、映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の5専攻を総合化したのは、そういった現代の芸術環境があつてのことです。そして、それは自らの専門分野の探究を目的としながら、他分野の研究を視野に入れて、新たな創造理論を構築する場として機能しています。社会人の入学枠を設け(大学院設置基準第14条による教育方法の特例)、昼夜開講制を取り入れたことも大きな特色です。すでに博士前期または修士課程を修了し、教育・研究機関や企業に従事しながら、より高度な芸術の専門領域について研究を継続したり、フィールドを越えて新たな芸術研究に取り組もうとする新進の研究者への門戸が開かれています。

Literary Arts



青木敬士

専任

生年月日
昭和45年08月15日生

略歴
平成05年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成11年04月
日本大学芸術学部助手
平成17年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部准教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
メディア芸術論・SF小説論：印刷された「紙面」と表示される「画面」の二面においてテキスト表現の進化を研究している。また、人工音声合成技術が肉体のしくみに依拠しない声を発するにもかかわらず、人がそこにキャラクターを感じてしまう現象を可視化する創作も行う。人類が自らを含む環境を把握するために、環境から切り離すことができた最初のテクノロジーを「文字」とするならば、ポーカーロイド等の人工音声文化の広がりは、一見「声の文化」的な姿をみせつつも「文字の文化」の本質を具象化するものであり、今後の文学にSF的な世界観の広がりを付与することになると考えられる。その行く末を見据えた研究を続けている。

研究業績
「SF小説論講義——SFが現実追い越されたって本当ですか」江古田文学会、2016年
「世界はゴミ箱の中に」現代図書、2005年
「アミドロイド～合成音声による「朗読」に架空の肉体を与える装置」芸術学部紀要創作編38

社会活動
江古田文学会常任理事
デジタルアーカイブ学会会員
人工知能学会会員



浅沼 璞 (浅沼 博)

専任

生年月日
昭和32年04月15日生

略歴
昭和51年03月
法政大学文学部日本文学科卒業
昭和62年06月
大谷学園専任教諭
平成14年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成15年04月
法政大学文学部日本文学科兼任講師
平成17年04月
武蔵野大学文学部兼任講師
平成26年04月
放送大学東京学習センター兼任勤講師
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
近世における俳諧連歌を中心に研究活動を行っている。わけでも談林俳諧の雄・井原西鶴の独吟連句と浮世草子との相関関係を長くテーマとしてきた。また近現代俳句に関しても「連句への潜在的意欲」という視点から考察を続けている。
近年は中世連歌へ遡行し、これまでの研究のバースペクティブの拡張を試みている。

研究業績
『可能性としての連句』ワイズ出版
『中層連句宣言』北宋社
『「超」連句入門』東京文献センター
『西鶴という方法』鳥影社
『西鶴という鬼才』新潮社
『西鶴という俳人』玉川企画
『俳句・連句REMIX』東京四季出版(第12回日本詩歌句随筆評論大賞受賞)
『塗中録』左右社

社会活動
俳文学会会員
日本近世文学会会員
日本連句協会会員
法政大学国文学会会員
江古田文学会常任理事



上田 薫

専任

生年月日
昭和39年04月07日生

略歴
昭和63年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成02年03月
日本大学芸術学部芸術研究所修了
平成03年04月
日本大学芸術学部助手
平成07年04月
日本大学芸術学部助手
平成10年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成17年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
思想・哲学(アラン論、森有正論、一遍上人論)
ライフワークとしてのアラン研究を続けながら、森有正の「経験と体験」や、一遍上人の「遍歴」というテーマで研究している。

研究業績
著書
「布切れの思考—アラン哲学に倣いて—」
「感性の哲学 アラン」
「コギトへの思索—森有正論—」
共著
「一遍上人と遊行の旅」

社会活動
江古田文学会常任理事

GSA

Faculty Members

Literary Arts

Image Arts

Fine Art and Design

Musical Arts

Performing Arts

The Arts



久保陽子

専任

生年月日

昭和48年07月07日生

略歴

平成08年03月
学習院大学文学部英米文学科 卒業
平成10年03月
学習院大学大学院人文科学研究科イギリス文学専攻博士前期課程 修了
平成13年03月
学習院大学大学院人文科学研究科イギリス文学専攻博士後期課程単位取得満期退学
平成13年04月
東京理科大学 非常勤講師
平成14年04月
中央大学 兼任講師
平成17年04月
学習院大学文学部英米文学科 助教
平成20年04月
日本大学芸術学部准教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

イギリスとアイルランドの文学・文化。主に18世紀以降の女性たちの執筆活動や教育活動、芸術的関わりを含む社会活動について研究。ジェイン・オースティンを始めとするイギリスの家庭小説や結婚を描いた作品、フランス革命に影響を受けたジャコバン派の女性作家の作品、カントリー・ハウスでの地主の生活を描いた作品など。フェミニズムやジェンダー思想、及びアイルランド表象の様々な形を芸術作品に読み込むことを試みている。

研究業績

『西洋文学にみる異類婚姻譚』（共著）、小島遊書房、2020年。
『ジェイン・オースティン研究の今 同時代のテクストも視野に入れて』（共著）、彩流社、2017年。
『イギリスを知るための50章』（3次改訂）、明石書店、2016年。
『イギリスの今 文化的アイデンティティ』（第四版）』（共訳）、世界思想社、2013年。
『二つのケルト その個性と普遍性』（共著）、世界思想社、2011年。

社会活動

イアシル・ジャパン（国際アイルランド文学協会日本支部）会員
日本アイルランド協会 会員
日本オースティン協会 会員



ジュリアン・マニング

専任

生年月日

昭和39年05月16日生

略歴

1986年ロンドン・メトロポリタン大学卒業（近代史および政治哲学）
1992年ロンドン大学東洋アフリカ研究所（SOAS）修士課程修了（日本研究）
1998年シェフィールド大学東アジア研究所（SEAS）修士課程修了（日本研究）
2011年シェフィールド大学東アジア研究所（SEAS）博士課程修了（在日ブラジル人の文化的アイデンティティに関する）

研究領域

日本の主流的なエスニック・アイデンティティのイデオロギーはどのように日本社会・政治文化と、さらに、在日マイノリティ・グループに影響をあたえるか。特に戦後日本社会・文化の歴史的な発展を調査。それから、一般的に、文化・カルチャーと多文化主義の概念は何か？最近、今までの多文化主義の一つの欠点は個人より、団体のアイデンティティが優先されている。個人と団体アイデンティティはどのように関係性を研究している。

研究業績

『21世紀とノーベール・エライアス』（共）成文堂
『Nikkeijin in Japan: A Challenge to Nationalist Discourses of Identity』日本大学精神文化研究所紀要第37集
『スティグマしゃがいぐについて』日本大学精神文化研究所紀要第39集
『ノーベール・エライアスという社会学者における、グローバル化、スポーツ、文化と歴史の始点からみる』（共）DTP出版社
『多文化主義と多文化社会』（共）DTP出版社

社会活動

エスニシティとナショナリズム学会（ASEN）委員
日本移民学会 委員



ソコワ山下聖美

（山下聖美） 専任

生年月日

昭和47年08月26日生

略歴

平成07年03月
日本女子大学文学部英文学科卒業
平成12年04月
日本大学芸術学部副手
平成13年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了。博士（芸術学）取得
平成14年04月
日本大学芸術学部助手
平成19年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成23年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

・宮沢賢治、夏目漱石を中心とした日本近代文学
・林芙美子、樋口一葉、平塚らいてう、尾崎翠、野上弥生子、群ようこなどを中心とした近現代女性作家研究
・文学における共感覚
特に最近では林芙美子の研究に専念している。

研究業績

『女脳文学特講 芙美子・翠・晶子・らいてう・野枝・弥生子・みすゞ』三省堂
『新書で入門 宮沢賢治のちから』新潮新書
『賢治文学「呪い」の構造』三修社
『一●●年の坊っちゃん』D文学研究会
『検証・宮沢賢治の詩(2)』鳥影社
『宮沢賢治を読む』D文学研究会

社会活動

日本近代文学会会員



楊 逸

（百木逸楊） 専任

生年月日

昭和39年06月18日生

略歴

平成07年03月
お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業
平成21年04月
関東学院大学文学部客員教授
平成24年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成27年04月
日本大学芸術学部特任教授
平成28年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

創作・比較文学
言語と生活習慣などによる「異」は、価値感や思想にどう影響を与え、またどう表現されるべきかについて研究し、異文化を一つのディテールとして創作活動をしている。授業では「外向きの目」を重視して指導している。

研究業績

『ワンちゃん』文藝春秋社 文学界新人賞受賞
『時が滲む朝』文藝春秋社 芥川賞受賞
『孔子さまへの進言』文藝春秋社
『楊逸が読む「聊斎志異」』明治書院
『すき・やき』新潮社
『流転の魔女』文藝春秋社
『蚕食鯨吞』岩波書店
『エーゲ海に強がりな月が』潮出版社
未来型ウェブ文芸誌「トゥヌーヴ」主催

社会活動

日本ペンクラブ会員
日本文芸家協会会員
お茶の水地文学会会員

Literary Arts



上坪裕介

専任

生年月日

昭和55年06月17日生

略歴

平成16年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成18年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了
平成22年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了(博士(芸術学))
平成22年04月
日本大学芸術学部助手
平成25年04月
日本大学芸術学部助教
平成27年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成31年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域・概要

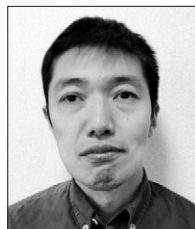
博士論文のテーマである庄野潤三の研究を継続しつつ、第三の新人の作家(特に小沼丹、小島信夫、安岡章太郎、吉行淳之介、遠藤周作、島尾敏雄)を中心に研究。その他に、三浦哲郎など「私小説」に関する考察。

研究業績

「庄野潤三研究―場所論的考察」江古田文学74号
「庄野潤三の本 山の上の家」(共著)夏葉社
「庄野潤三の世界」(共著)徳島県立文学書道館
「三浦哲郎「忍ぶ川」試論」日本大学芸術学部紀要58号
「多種多様な作家たち―庄野潤三から第三の新人を紐解く」三田文学108号
「山の上の物語 庄野潤三の文学」松柏社

社会活動

日本近代文学会会員
帝塚山派文学学会運営委員
江古田文学会常任理事



谷村順一

専任

生年月日

昭和48年06月01日生

略歴

平成10年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成10年04月
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程入学
平成12年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了
平成12年04月
日本大学芸術学部副手
平成17年11月
日本大学芸術学部臨時職員
平成19年09月
法政大学文学部日本文学科兼任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部助教
平成25年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成30年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域・概要

文芸同人雑誌掲載作品で扱われるテーマや発行動向の分析を通して、現代日本文学の潮流について考察している。

研究業績

「同人雑誌季評」『季刊文科』(平成26年01月)から 鳥影社
「同人雑誌」『文藝年鑑2017』『文藝年鑑2018』『文藝年鑑2019』 日本文藝家協会編 新潮社

社会活動

日本文学協会
あしへいの会



伊藤博明

非常勤

生年月日

昭和30年04月14日生

略歴

昭和52年03月
北海道大学文学部哲学科 卒業
昭和54年03月
北海道大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻 修了
昭和59年～昭和61年
フィレンツェ大学留学(イタリア政府給費留学生)
昭和61年03月
北海道大学文学部文学研究科博士後期課程単位取得退学
昭和61年04月
北海道大学文学部哲学科助手
昭和63年04月
埼玉大学教養学部講師
以降、同大学教養学部助教授、教授、教養学部長、副学長
平成30年04月
専修大学文学部教授

研究領域・概要

思想史・芸術論。とりわけ、ルネサンスからバロックにおける、イメージとテキストの関係をめぐる諸問題。

研究業績

「象徴と寓意」(「アートギャラリー10」集英社)
「ルネサンスの神秘思想」(講談社学術文庫)
「ヨーロッパ美術における寓意と表象」(ありな書房)
「綺想の表象学」(ありな書房)、
「ルネサンス」(「哲学の歴史4」、編著、中央公論新社)

社会活動

新プラトン主義協会会長
日本学術会議連携会員



植月恵一郎

非常勤

生年月日

昭和31年01月22日生

略歴

昭和54年03月
神戸大学理学部地球科学科卒業
昭和57年03月
千葉大学人文学部人文学科卒業
昭和60年03月
立教大学大学院博士前期課程修了
昭和63年03月
学習院大学大学院博士後期課程満期退学
平成元年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成07年04月
日本大学芸術学部助教授
平成13年04月
日本大学芸術学部教授
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域

イギリス文学の自然文化誌を研究対象としている。特にイギリス・ルネサンスからロマン派までの200年くらいの間に書かれた韻文を中心に、そこに描かれた自然観の変遷、庭園・楽園表象、動物・植物表象、エコロジカルな観念などを中心に分析している。文学ジャンルで言えば、牧歌、農耕詩、地誌詩なども含む。最近では児童文学も視野に入れて研究を進めている。キース・トマス『人間と自然界―近代イギリスにおける自然観の変遷』を超えることが目標である。

研究業績

『博物誌の文化―動物篇』共著、弓ブレス、2003年。
『農耕詩の諸変奏』共著、英宝社、2008年。
『ロマン主義エコロジーの詩学』共著、鶴見書店、2015年。
『旅と文化―英米文学の視点から』共著、鶴見書店、2018年。
The Expanding World of the Gothic From England to America. joint work, Asahi Press, 2020.

社会活動

イギリス・ロマン派学会理事
欧米言語文化学会顧問



清水 正

非常勤

生年月日
昭和24年02月08日生

略歴
昭和46年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
昭和55年04月
日本大学芸術学部助手
昭和57年03月
日本大学芸術学部専任講師
昭和63年04月
日本大学芸術学部助教授
平成06年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
平成31年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
ドストエフスキーの全作品、宮沢賢治の童話作品を研究、批評してきた。近年はつげ義春、浦沢直樹、望月峯太郎、業田良家、白土三平、日野日出志などの漫画作品に関する批評、また北野武、今村昌平、宮崎駿などの映画作品に関する批評、暗黒舞踏家土方寅一についての批評、グリム童話や阿部定に関する批評も展開してきた。最近興味をもっている日本の作家に遠藤周作・志賀直哉・萩原朔太郎・椎名麟三、林芙美子などがいる。これらの作家をドストエフスキーとの比較において論じている。

研究業績
「清水正・ドストエフスキー論全集」D文学研究会
「つげ義春を読む」現代書館
「宮沢賢治とドストエフスキー」創樹社
「今村昌平を読む」鳥影社
「ウラ読みドストエフスキー」清流出版

社会活動
D文学研究会主宰
日本文芸家協会会員



野村康治

非常勤

生年月日
昭和41年03月28日生

略歴
昭和63年03月
日本大学文理学部心理学科卒業
平成02年03月
日本大学大学院文学研究科博士前期課程修了
平成08年03月
日本大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学
平成09年04月
日本大学文理学部助手
平成13年04月
日本大学文理学部非常勤講師
平成22年09月
沖縄県立芸術大学非常勤講師
平成27年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成29年04月
松蔭大学講師

研究領域
認知心理学ならびに感覚・知覚心理学的なアプローチにより主に映像表現に関する研究を専門とする。アマチュアの写真撮影に関する実態と意識調査、アニメーションに関する印象評定調査などを行ってきた。現在は映像に限らず、広く芸術表現に関する心理学的諸問題に関心を持っている。

研究業績
著書
「アニメーションの心理学」(共著)誠信書房
「アニメーションの心理学的研究」執筆担当)
「アニメーションの事典」(共著)朝倉書店
「アニメーションの発達心理学(2) 子供向けアニメーション」, 「友情と恋愛のアニメーション」, 「アニメーションにおける「動き」表現の検討」執筆担当)
論文
「ビデオ撮影時における時間評価」心理学研究 第68巻第3号
「写真撮影時の記憶についてー静物を被写体としてー」(共著)日本大学心理学研究 第23号
「アニメーションにおける「歩き」表現の検討」(共著)アニメーション研究 第6巻第1号

社会活動
日本アニメーション学会理事



藤代裕之

非常勤

生年月日
昭和48年02月01日生

略歴
平成08年
広島大学文学部哲学科卒業
平成18年
立教大学21世紀社会デザイン研究科前期課程修了
平成08年
徳島新聞入社。社会部、文化部などで記者
平成17年
NTTレゾナント入社。ニュース編集、新規事業の開発、研究支援などを担当
平成25年
法政大学社会学部メディア社会学科准教授
令和02年
法政大学社会学部メディア社会学科教授

研究領域
ソーシャルメディアにより変化する社会とジャーナリズムについて研究しています。ミドルメディアによるインターネットのニュースの構造を明らかにしました。数年はフェイクニュースの生成・拡散につて調査を行っています。

研究業績
「発信力の鍛え方」PHP
「地域ではたらく『風の人』という新しい選択」(共著)ハーベスト出版
「ソーシャルメディア論:つながりを再設計する」青弓社
「ネットメディア覇権戦争:偽ニュースはなぜ生まれたか」光文社
「ソーシャルメディア論・改定版:つながりを再設計する」青弓社
「アフターソーシャルメディア:多すぎる情報といかに付き合うか」(編著)日経BP

社会活動
日本ジャーナリスト教育センター(JCEJ)運営委員



堀 邦維

非常勤

生年月日
昭和29年07月13日生

略歴
昭和55年03月
早稲田大学第一文学部英文学科卒業
昭和57年03月
早稲田大学文学研究科英文学専攻修士課程修了
昭和61年03月
早稲田大学文学研究科英文学専攻博士課程満期退学
昭和63年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成06年04月
日本大学芸術学部助教授
平成12年04月
日本大学芸術学部教授
令和02年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域
現代ユダヤ文化・比較文学
現代の欧米文化全般を広く研究。ここ20年ほどはユダヤ系知識人を中心に近現代文化の変遷を追う。その傍ら、比較文学の視点から戦後日本文学を研究している。

研究業績
『ユダヤ人と大衆文化』(単著)ゆまに書房
『ニューヨーク知識人——ユダヤ的知性とアメリカ文化』(単著)彩流社
『マージナリア——隠れた文学／隠された文学』(共著)鶴見書店
『ノルベルト・エリアスと21世紀』(共著)成文堂
『現代の英米作家100人』(共編著)鷹書房弓プレス

社会活動
比較思想学会会員
日本ユダヤ学会会員
日本英語文化学会会員

Literary Arts



松本 洸

非常勤

生年月日
昭和22年01月16日生

略歴
昭和44年03月
日本大学文学部心理学科卒業
昭和46年03月
日本大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和49年03月
日本大学大学院文学研究科博士課程満期退学
昭和49年04月
社団法人社会開発統計研究所主任研究員
昭和52年08月
日本大学芸術学部専任講師
平成02年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
クオリティ・オブ・ライフ (QOL) における指標化が主要なテーマである。心理学研究法、環境心理学が専門分野であるため、芸術作品の印象測定、癒しの心理尺度化などに取りくんでいる。これまでの研究領域として環境心理学サイドからの住民意識と自治体行政との関連分析を長く研究していたため、社会調査法、コミュニケーション論などへのアプローチも行なっている。

研究業績
「社会開発政策」(共著) 青林書院新社
「老年心理学」(共著) 朝倉書店
「クオリティ・オブ・ライフ」(編著) 福村出版
「人間関係と生徒指導」(共著) 学術図書出版
「発達と学習」(共著) 八千代出版
「応用心理学事典」(「映像コミュニケーション」)、「ロハス」(項目執筆) 丸善

社会活動
日本心理学会会員
日本応用心理学会会員
日本老年社会科学会会員(論文査読委員)
日本芸術療法学会会員
臨床心理士



三宅理一

非常勤

生年月日
昭和23年12月23日生

略歴
昭和47年05月
東京大学工学部建築学科卒業
昭和49年03月
東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
昭和54年12月
パリ・エコール・デ・ポワール卒業
昭和56年03月
東京大学大学院工学系研究科博士課程修了(工学博士)
平成02年04月
芝浦工業大学工学部教授
平成11年09月
慶應義塾大学大学院政策メディア研究科教授
平成20年10月
パリ国立工芸院教授
平成24年04月
藤女子大学副学長
平成29年04月
東京理科大学客員教授

研究領域
建築史・地域計画・デザイン理論
建築デザインの美学を中心とした芸術理論が専門である。主に西洋の環境デザインが中心であるが、西洋から日本、そして中東と世界的な規模で、社会・環境・都市の中における芸術表現を研究している。

研究業績
「世紀末建築」(全6巻) 講談社
「エビキュリアンたちの首都」学藝書林
「都市と建築コンペティション」(全7巻) 講談社
「秋葉原は今」芸術新聞社
「パリのグランド・デザイン」中央公論新社
「限界デザイン」TOTO 出版
「安藤忠雄 - 建築を生きたる」みすず書房

社会活動
日仏工業技術会理事
瀋陽市栄誉市民
日本エチオピア協会理事
日本建築学会建築博物館幹事
日本建築文化保存協会理事
都市化研究公室理事



山内 淳

非常勤

生年月日
昭和26年10月29日生

略歴
昭和51年03月
早稲田大学第一文学部仏文科卒業
昭和60年12月
ディジョン大学(現ブルゴーニュ大学)文学部
大学院博士課程修了(文学博士号取得)
昭和63年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成06年04月
日本大学芸術学部助教授
平成12年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域
長い間フランスは、自らのアイデンティティをローマに求めてきたが、一方ではケルトの民としての伝統は途切れることなく受け継がれてきた。たとえばトリスタンとイゾー、アーサー王、蛇姫メリュージヌなどをはじめとするケルト系の伝説は、シャトーブリアン、ノディエ、ネルヴァルなどのロマン派をはじめ、20世紀のブルースト、フルトン、グラックなどを深く魅了した。現代に続くケルトの精神を、フランス人作家の作品の中に見ていきたい。

研究業績
Le Peuple chez Charles Nodier (Université de Dijon (Bourgogne))
啓蒙のユートピア(共訳) 法政大学出版局
フランス民話 フルターニュ幻想集(共訳) 社会思想社
フランス怪奇民話集(共訳) 社会思想社
二つのケルト その個性と普遍性(編著) 世界思想社
フルターニュ古謡集/パルガス=ブレイス(監訳) 彩流社

社会活動
日本フランス語フランス文学会
日本フランス語教育学会
比較文明学会



山本雅男

非常勤

生年月日
昭和25年07月25日生

略歴
昭和49年03月
中央大学文学部哲学科卒業
昭和51年03月
日本大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和55年03月
日本大学大学院文学研究科博士課程満期退学
昭和55年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成06年04月
静岡県立大学国際関係学部助教授(大学院兼任)
平成09年10月
日本大学芸術学部助教授
平成14年04月
日本大学芸術学部教授
平成31年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
現代のイギリス社会や文化の核心部分は18世紀に形づくられたと考えられる。とりわけ社会生活や文化活動の末端にまで浸透している階級性の端緒を、当時のジェントルマン層の動向に焦点を当てつつイギリス文化の全体像を見通そうとしている。文化の現象と基層を貫く基本的構造の分析が当面の課題である。近代文化の批判的考察を通し、文化基礎論の構築を目指す新たな視点を模索中である。

研究業績
『ヨーロッパ「近代」の終焉』 講談社
『ダービー卿のイギリス』 PHP 研究所
『競馬の文化誌』 松柏社
『近代文化の終焉』 彩流社
『イギリス文化と近代競馬』 彩流社
『倫敦路地裏犯科帖』(翻訳) 東洋書林
『英国競馬事典』(編訳) 競馬国際交流協会

社会活動
日本シェイクスピア協会会員
日本スポーツ社会学会会員
日本ウマ科学会会員
(社) 日英協会会員
日本文藝家協会会員
日本中央競馬会委員会委員
(公財) 競馬国際交流協会評議員

Image Arts



秋元貴美子

専任

生年月日
昭和45年04月06日生

略歴
平成06年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
平成08年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程映像芸術専攻 修了
平成11年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程芸術専攻 単位修得退学
平成28年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
写真表現研究・写真表現文化研究・写真教育工学

研究業績
(作品)
「化生する光景」ポートレートキャリアー／2012年10月
「クララの街」写真展「My Works」アイデムフォトギャラリー「シリウス」／2018年5月アイデムフォトギャラリー「シリウス」
「Light's Edge」Nikon 新宿フォトブロード／2018年6月
「Malta はちみつ色の街」／2021年2月(論文)
「土門拳、そのリアリズムとメンタリティ」(日本大学芸術学部紀要論文篇2015年10月)
「高等学校における次世代写真部活動の模索と可能性」(日本大学芸術学部紀要第70号2019年11月)

社会活動
日本写真家協会会員
美学会会員



浅井 譲

専任

生年月日
昭和31年11月02日生

略歴
1980年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
1980年04月
(株) ポーラ化粧品入社 宣伝部制作室フォトグラファー
1995年10月
(株) ポーラ化粧品 宣伝部制作アートディレクター(フォトグラファー兼務)
2002年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
2004年01月
ポーラ化成工業(株) デザイン研究所 転籍
2004年03月
ポーラ化成工業(株) デザイン研究所 退社
2004年04月
日本大学芸術学部助教授
2007年04月
日本大学芸術学部准教授(呼称変更)
2009年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
写真表現研究・広告写真研究

研究業績
・浅井譲写真展「対話」愉しむ写真へ 銀座コダックフォトサロン2004-5/26～6/1
・浅井譲写真展「対話」愉しむ写真へⅡ 銀座コダックフォトサロン2007-6/6～12
・浅井譲写真展 「take a picture」愉しむ写真へ 富士フィルムフォトサロン(東京) 2011・4/22-28
・Jing 展(共同) 桜・夏・いろ色・特別展 年3～4回 Space Jing (渋谷・神宮前) 2015-3～2020-3
・「SKY Ⅲ 日本大学芸術学部写真学科教員作品展」ソニーイメージングギャラリー銀座 2020-12/4～10
・日本大学芸術学部紀要(創作篇)29～33号・35号～39号・41号～43号・45号

社会活動
公益社団法人日本広告写真家協会 正会員
日本写真芸術学会



佐藤英裕

専任

生年月日
昭和37年12月04日生

略歴
1985年03月
早稲田大学法学部卒業
1996年03月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修了
1999年03月
日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻満期退学
2000年04月
日本大学芸術学部助手
2004年04月
日本大学芸術学部専任講師
2008年04月
日本大学芸術学部准教授
2014年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
現代写真表現研究、及び写真の表現構造研究

研究業績
・写真に於ける視覚経験の構造に関する一考察 日本写真芸術学会誌第6巻第1号
・写真における作者の存在とその機能に関する一考察 日本写真芸術学会誌第10巻第2号
・写真表現における記憶の機能に関する一考察 日本写真芸術学会誌第17巻第1号
・現代写真作品表現にみる「リアル」と「オリジナル」の変容に関する一考察 日本写真芸術学会誌第21巻第1号
・写真史及び写真論におけるモダニズムとポストモダニズムの相違に関する一考察 日本写真芸術学会誌第22巻第1号

社会活動
日本写真芸術学会理事
日本映像学会会員



田中里実

専任

生年月日
昭和35年05月25日生

略歴
平成17年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
平成19年03月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻博士前期課程修了
平成21年01月
日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻博士後期課程中退
平成21年04月
日本大学芸術学部助教
平成24年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成28年04月
日本大学芸術学部准教授
令和03年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
写真表現研究・写真表現・写真技術史
19世紀の写真技法の研究とその再現を試み、初期写真技法が写真表現へ与えた影響を考察研究している。また現代において19世紀写真技法を用いた写真表現に取り組んでいる。

研究業績
個展
・「a flower is not a flower」練馬区立美術館
・「鉄・彫・写」星と森の詩美術館
・「SKY Ⅲ 日本大学芸術学部写真学科教員作品展」ソニーイメージングギャラリー銀座
・「Salt and Egg」GALLERY STORKS 論文
・「含密局必携」前篇三付録「撮形術ボトガラヒー」ー現代語訳ー
日本写真芸術学会誌ー第17巻・第1号ー
・「遠西奇器術」直写鏡タゲウロテービーー現代語訳ー
日本大学芸術学部 紀要第56号

社会活動
日本写真学会員
日本写真芸術学会員

Image Arts



西垣仁美

専任

生年月日

昭和36年06月07日生

略歴

昭和59年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和61年03月
日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻修了
平成02年04月
日本大学芸術学部助手
平成07年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成14年04月
日本大学芸術学部助教授(現 准教授)
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

近代および現代写真の写真思潮、表現研究。
20世紀以降の写真作品の表現と作者の思想研究。過去作品の研究と同時に現代写真を日本の作家を中心に研究している。研究が主であるが創作活動も作家の心を考えるために続けている。

研究業績

学術論文
・マン・レイの写真作品における現代性の考察(日本写真芸術学会誌第17巻第2号)
評論
・「2020年写真の動向」10写真芸術
日本写真学会誌第84巻第3号(2005年～2021年毎年執筆)
出版
・「50冊で学ぶ写真表現入門」(共著)日本カメラ社、2019年
・「[超]写真表現力 カメラワークの新思考法」(共著)青弓社、2019年
・「写真の百科事典」(共著)朝倉書店、2014年作品発表
・日本大学芸術学部写真学科女子卒業生有志の会 あじさい会写真展に出品(1984年～2021年)
・日本大学芸術学部紀要「創作篇」に発表(1987年～2021年)

社会活動

日本写真芸術学会副会長
日本写真学会会員
日本映像学会会員
(公社)日本写真協会会員



服部一人

専任

生年月日

昭和36年05月07日生

略歴

昭和59年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和59年04月
(株)日本デザインセンター入社
制作局写真部フォトグラファー
平成05年04月
独立行政法人国際協力機構(JICA)により
ケニア国ナイロビ市ケニア国立博物館へ派遣
平成14年12月
タイ国チェンマイ山岳民族博物館へ派遣
平成18年03月
タイ国アユタヤ歴史研究センターへ派遣
平成27年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成31年04月
日本大学芸術学部准教授
令和02年04月
金沢大学国際文化資源学研究所センター客員准教授

研究領域

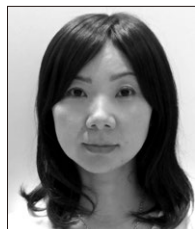
スナップショットを題材にした銀塩写真(モノクロ・カラー)の写真表現の研究。特に暗調再現を重視した暗室技術の探求。
他にタイ北部、ラオス北部の少数民族を対象とした映像人類学研究。この地域で継続してフィールドワークを実施し、記録映像を通じて生活の変化を調査している。

研究業績

[民族誌映像]
・「森の再生 言葉の再生」2013(NPO法人メコン・ウォッチ共同制作)
・「ソククラン 新年を迎える儀式 タイチェンマイ」2012(金沢大学共同制作)
[写真展]
・「Days in Africa」2020/ギャラリストークス
・「駅・雑踏・トラム」2019/ソニーイメージングギャラリー
・「ジェニファーの結婚式・モゴの結婚記念日」2018/ギャラリストークス

社会活動

日本写真芸術学会会員
(公社)日本写真協会会員
東京都写真美術館外部評価委員



大谷尚子

専任

生年月日

昭和48年11月27日生

略歴

平成09年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成10年04月
日本大学芸術学部副手
平成15年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成22年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

映画演技。主に映像と演劇の演技の特徴、相違について俳優の視点から実践に基づき研究している。また、映画俳優論についての研究も行っている。さらには俳優にとって必要不可欠である発声、発音について、人体構造の仕組みに基づき、無理のない発声や発音、滑舌法の研究を行っている。

研究業績

「とことこそ沢探偵社」(ケーブルテレビメディアアッティ所沢(現J:COM)太田ひばり役
「土井さんの不幸」(劇場用映画 女子女子over8) 幸江役
「それぞれの立場 それぞれの気持ち ～職場で考えるダイバーシティと人権～」(東映教育ビデオ) 岡真理子役
「即身仏を訪ねて一涅槃の考古学」ナレーション
「我が町がひるさとところざわまつり」ナレーション
日本弁護士連合会「あなたの安心のために」ナレーション
トランス☆プロジェクト第6回公演「カミングアウト」出演
劇団おしゃれ大学第8回公演「リア王」ゴネリル役

社会活動

言語聴覚士(病院、福祉施設において言語指導)
日本言語聴覚士協会会員
国際パフォーマンス学会会員
言語発達障害研究会会員



奥野邦利

専任

生年月日

昭和44年04月18日生

略歴

平成05年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修了
平成07年04月
日本大学芸術学部補助員
平成08年04月
日本大学芸術学部副手
平成10年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成15年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成23年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

メディアアートを中心とした映像表現
1960年代に登場したビデオアートが、現在のメディアアートへと拡大して行くプロセスに光を当て、エレクトロニクスとアートの関係、マスメディアとパーソナルメディアの関係、コンテキストと物語の関係などを探求している。創作としてはシングルチャンネルのビデオ作品の他、インスタレーションも手掛けており、近年はコンサートや演劇とのコラボレーションにも積極的にアプローチしている。

研究業績

評論
「映像領域におけるデジタル化と前衛」映像学102号(2019)
創作
オムニバス映画「見るということ」(共同監督)
山形国際ドキュメンタリー映画祭・企画上映(2009)
映像作品「喪失の記憶」(監督)
ブルックリン国際映画祭正式上映(2010)
実験映画・ビデオフェスティバル イン ソウル 正式上映(2010)

社会活動

日本映像学会会員
日本アニメーション学会会員
日本映画テレビ技術協会会員



上倉 泉

専任

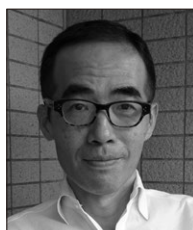
生年月日
昭和47年03月20日生

略歴
平成06年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成11年04月
日本大学芸術学部助手
平成16年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成24年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画技術、おもに映画の録音の研究。各国のエンジニアとディスカッションをしながら映画のアナログサウンドトラック、シアンダイトラックの研究を主に行い、さらに年間数十本の映像作品を制作している。

研究業績
「アナログシアンダイトラックの再生に関する諸問題」(映画テレビ技術誌)
「ふるさとをください」 富永憲治監督 ジェームス三木脚本 文部科学省選定映画 ステレオ/モノミックスミキサー
「喪失の記憶」 録音・ミキサー
「Pray for Japan Film」 Stu Levy監督 ミキサー
「Little kyota Neon Hood」 Satsuki Okawa監督 ミキサー
「旅するボール」 Jリーグ20周年記念特別ショートフィルム 大川五月監督 ミキサー

社会活動
日本映画テレビ録音協会会員
日本映像学会会員
日本映画テレビ技術協会評議員
ISO(国際標準化機構)／TC36 国内委員



古賀 太

専任

生年月日
昭和36年06月15日生

略歴
昭和61年03月
九州大学文学部仏文学科卒業
昭和62年03月
早稲田大学文学部大学院芸術学専攻修士課程中退
昭和62年04月ー平成05年09月
国際交流基金勤務
平成05年10月ー平成21年03月
朝日新聞社勤務(文化事業部企画委員及び文化部記者)
平成09年04月ー平成16年03月
東京大学非常勤講師(表象文化論)
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画史の新たな読解をテーマとする。現在は、初期映画の図像学的解釈や海外における日本映画の評価の歴史、戦時中の日本映画などを調査中。
また映画興行や映画祭など映画上映のマネージメント面からの研究をサブテーマとする。

研究業績
主な著書
『美術展の不都合な真実』新潮社
『映画伝来』(共著)岩波書店
『魔術師メリエス』(翻訳)フィルムアート社
『リュミエール元年』(共訳)筑摩書房
『日本映画史叢書(15) 日本映画の誕生』(共著)森話社
『日本映画の海外進出』(共著)森話社
『日本戦前映画論集』(共著)ゆまに書房
『戦時下の映画』(共著)森話社
そのほか、朝日新聞社において「ジャン・ルノワール、映画のすべて」「イタリア映画祭」など20以上の映画祭を企画・運営し、カタログを編集・執筆。
また「朝日新聞」紙面に多数記事を書く。

社会活動
フランス政府より国家功労勲章シュヴァリエ(騎士)章
イタリア政府より「イタリアの星」勲章カヴァリエーレ(騎士)章
日本映像学会副会長



齊藤裕人

専任

生年月日
昭和40年12月25日生

略歴
平成02年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
平成07年04月
日本大学芸術学部助手
平成10年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程満期退学
平成10年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成15年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専門分野:映画演出・映画制作
物語の構成や画面構成、カメラワークなどにおける映画演出の研究を主として、映画制作の創作的なあり方を研究テーマとしている。また、ドキュメンタリーや短編映画など長編劇映画以外の分野に関する研究を行っており、様々な映像制作法を考察することもテーマの一つである。

研究業績
「酒中日記」劇映画(編集)
「こころ豊かに」PRビデオ(構成・演出・編集)
「幸せの黄色い自転車」広報ビデオ(構成・演出・編集)
「星になったおじいちゃん」ビデオ作品(共同脚本・監督・編集)
「Gyraton」ミュージッククリップ(ライブアクションディレクター)
「シネマ・ヨーロッパ#1〜6」テレビ番組(日本語版監修)

社会活動
日本映像学会会員
美学会会員



志村三代子

専任

生年月日
昭和44年03月01日生

略歴
平成13年03月
早稲田大学文学研究科演像映像専修修士課程卒業
平成17年04月ー平成19年03月
早稲田大学演劇博物館演劇研究センター客員研究助手
平成18年07月ー平成18年12月
コロンビア大学東アジア言語学科客員研究員
平成21年03月
早稲田大学文学研究科演像映像専修修士後期課程単位取得満期退学
平成22年06月
博士(文学)号取得(早稲田大学)
平成27年04月ー令和03年03月
都留文科大学文学部比較文化学科准教授
令和03年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
日本文学と日本映画の相関関係、特に1920年代から現代までのメディア・ミックスに関する動向と、菊池寛、川端康成、松本清張など映画界に深く関わった作家と映画界との関係を中心に研究。他には映像メディアに表れた日米関係、とりわけ占領期以後の日本映画のなかのハワイ表象に注目している。

研究業績
単著
『映画人・菊池寛』藤原書店
共編著
『渋谷実 巨匠にして異端』水声社
『大学的富士山ガイド』昭和堂
『川島雄三は二度生まれる』水声社
『リメイク映画の創造力』水声社
『淡島千景 女優というプリズム』青弓社
『映画俳優 池部良』ワイス出版
主要論文
「冷戦初期における米国防総省の映画製作 - 『二世部隊』の製作協力をめぐって」
『Intelligence』15号、2015年、20世紀メディア研究会
平成23年11月
第7回河上肇賞受賞
社会活動
日本映像学会理事
日本近代文学会会員
昭和文学会会員

Image Arts



玉木則順

専任

生年月日

昭和37年07月20日生

略歴

昭和62年03月
京都教育大学教育学部特修理学科卒業
以後、中学校理科教員、プラネタリウム解説員、
CG制作会社、ノンリニア編集機メーカー、海
外映像機器の輸入代理店を経て、国内の撮影
所、放送局、ポストプロダクションのデジタル
システムの構築に関わる
平成23年04月
日本大学芸術学部特任教授
平成23年09月
日本映画大学非常勤講師
平成26年04月
日本大学芸術学部任期制教授

研究領域

ポストプロダクションのデジタル技術全般
フィルムが作り上げた色彩表現の遺産をデジ
タル技術で引き継ぐとともに、その先の表現
の可能性について、カラーマネージメント技術
を基盤に人間の知覚特性（記憶色）に適合し
た手法を考察している

研究業績

東宝スタジオ 新ポストプロダクションセン
ター構築(映像&ネットワーク担当)
REDカメラ・RAW現像ソフトウェア
「simple@post」プロトタイプ制作
「Avidでの24p編集と音処理」録音166号
「Avidでの24p編集—最近の動向—」録音170
号



鳥山正晴

専任

生年月日

昭和36年05月14日生

略歴

昭和60年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成03年04月
日本大学芸術学部助手
平成07年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成12年04月
日本大学芸術学部助教授
平成18年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

映画を主とする映像作品の演出と研究、及び
それに関わるシナリオの創作。古今東西の映
画作家たちの映画演出法の共通点を、作家と
観客という枠組みの中でアプローチしている。
また、映画を専攻しはじめた頃から実験映
画／アヴァンギャルドムービーを研究し、それ
までの資料等をもとに、それらを系統的に分
類し、演出手法・内包するメッセージ等の研究
をしている。

研究業績

シナリオ「もりもりぼっくん」
東映テレビ・フジテレビ放映
PR ビデオ(19分)「モクネット21 ニつ井」
構成脚本・演出
ドキュメンタリー (20分)「震災の記憶、記憶の
未来—語りの底力」構成・演出・編集
論文
「映像ストーリーミング配信サービスの現状と
今後」
(日本大学芸術学部紀要第69号)
「マンブルコア映画はどこに向かうのか? ~
ジョー・スワンバークの映画を中心に~」(日本
大学芸術学部紀要第71号)
・Global Chinese Univ. Student Film and
Television Festival (香港) 審査員(2009年)
・2009 Taipei Country Film Festival,
International Student Film Golden Lion
Award (台湾) 審査員(2009年)

社会活動

日本映像学会理事
日本映画テレビ技術協会員



増田治宏

専任

生年月日

昭和55年1月28日生

略歴

平成14年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成18年04月
日本大学芸術学部助手
平成19年04月
日本大学芸術学部助教
平成21年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成24年04月
日本大学芸術学部准教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

映画製作における撮影、照明、映画技術を研究
しているが、創作を主にしている。撮影機材、
機器の発達により、新たな映像表現へのアプ
ローチをしている。

研究業績

短編映画
「青い魚」「夢に向かって」の撮影。
「米粒の神様」の照明。
コマーシャル
東京弁護士会コマーシャル撮影
日本新聞協会
「いい日々を届けてくれる人がいる」撮影・グ
レーディング
「いつでもどこでも」撮影・グレーディング
「見てくれる人がいる」撮影・グレーディング
ドキュメンタリー
「A Hundred-year Journey of the Family」
カラーコレクション担当。
映画
「酒中日記」カラーグレーディング担当。
他PRビデオ、記録映像、撮影、カラーコレ
クション担当。

社会活動

日本映画撮影監督協会会員
映画テレビ技術協会理事
日本映像学会会員



松島哲也

専任

生年月日

昭和35年05月11日生

略歴

昭和57年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和57年04月
映画テレビ制作会社ティンダーボックス入社
平成05年03月
フリーとなり、映画、テレビドラマ、ドキュメン
タリーの監督、脚本に従事
平成11年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成18年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

映画演出及び脚本表現研究
劇場用映画の脚本・監督を行っている。
多様化する映像メディアの作術・演出術を研
究しながら、進化を遂げるデジタルシネマの
制作も行っている。
テレビドラマの変遷を研究し、新たな企画立
案から制作・プロデュースに至る表現研究を
行っている。

研究業績

作品
テレビドラマ「めくもり」
日本テレビ火曜サスペンス劇場
劇場用映画「新しい風」
松竹全国公開作品 ヒューストン国際映画祭
グランプリ
テレビドラマ「親子弁護士の探偵帖」
TBS月曜ドラマスペシャル
劇場用映画「ゴヤーちゃんぶるー」
東京都写真美術館公開作品
劇場用映画「ソ満国境 15歳の夏」
全国公開作品

社会活動

日本映像学会員
日本映画監督協会常務理事



清水和貴

専任

生年月日
昭和54年05月08日生

略歴
平成14年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成18年04月
日本大学芸術学部副手
平成19年04月
日本大学芸術学部助手
平成23年04月
日本大学芸術学部助教
平成26年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成30年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
創作を主とし映画制作における演出・編集を研究テーマとしている。

研究業績
作品
「米粒の神さま」
短編映画(脚本・監督・編集)
SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2009
国内コンペティション短編部門ノミネート
「いい日々を届けてくれる人がいる」
ショートムービー(脚本・監督・編集)
一般社団法人日本新聞協会 第22回新聞配達に関するエッセーコンテスト受賞作品の映像化
「いつでも どこでも」
ショートムービー(脚本・監督・編集)
一般社団法人日本新聞協会 第23回新聞配達に関するエッセーコンテスト受賞作品の映像化
「飛べ!ダコタ」
劇場用映画(編集)
2013年劇場公開
「ソ満国境 15歳の夏」
劇場用映画(編集)
2015年劇場公開

社会活動
日本映画テレビ技術協会会員
日本映像学会会員



安部 裕

専任

生年月日
昭和42年05月09日生

略歴
平成03年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成03年04月
株式会社共同テレビジョン入社
取材技術部配属 カメラマン
平成08年07月
アトランタ五輪フジテレビ取材団カメラマン
平成09年10月
フジテレビ報道局取材撮影部に出向
報道カメラマン
平成10年04月
共同テレビジョン映像取材部
テレビカメラマンとしてドキュメンタリー、情報、バラエティー番組に従事
平成26年04月
日本大学芸術学部准教授
令和03年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
テレビ番組をテーマにした映像技術・音響技術・照明技術の研究及び最新システムを利用した放送技術全般の研究

研究業績
「ザ・ノンフィクション」フジテレビ、撮影多数
「めざましテレビ」『とくダネ!』フジテレビ、撮影多数
「NONFIX〜松下浩二の卓球」フジテレビ、企画・演出・撮影
「放送番組における、簡易スタジオシステムー考察」芸術学部紀要第61号
「フジテレビの報道番組・情報番組から見る簡易IP中継技術」芸術学部紀要第66号
大地の芸術祭「日芸フィスティバル」奴奈川放送局開設
「東日本大震災取材備忘録〜災害取材に挑むカメラマンの辛苦」映画テレビ技術誌
「日本のテレビ放送はどこへ向かうのか」日本映像学会報

社会活動
日本映像学会
文化庁芸術祭執行委員会委員
日本映画テレビ技術協会会員



兼高聖雄

専任

生年月日
昭和35年02月02日生

略歴
昭和57年03月
慶應義塾大学文学部心理学専攻卒業
昭和59年03月
慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了
平成02年03月
慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了(社会学博士取得)
平成02年04月
尚美学園短期大学専任講師
平成05年04月
尚美学園短期大学助教授
平成12年04月
尚美学園大学総合政策学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
現実の放送表現とその効果について、受け手の心理プロセスを軸にして考えている。できるだけ表現そのものについて、コミュニケーションの枠組みからとらえている。また、メディアによる表現全般や文化・社会現象について、実証的な社会心理学の手法で研究している。

研究業績
「広告表現の制作プロセスの心理学的検討」放送と表現 Vol.1
「受け手の特性から見た広告メッセージのリーチについて」放送と表現 Vol.2
「広告コミュニケーションにおける受容者の自己過程について」広告科学 Vol.27
「若年層の広告接触と消費態度」平成国際大学論集3
「活字表現の印象:書体・字体・サイズの効果」尚美学園短期大学研究紀要10

社会活動
放送批評懇談会会員
FMナックファイブ番組審議委員



金 龍郎

専任

生年月日
昭和35年07月09日生

略歴
昭和60年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成09年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成12年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成18年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
令和03年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
テレビ番組の企画構成および放送表現と人権の研究。各種番組作品の企画構成に着目し、表現手法・演出手法、制作のスタンス、番組枠としての特徴等を検証・考察している。また、「表の自由」「報道の自由」と人権との調整について、主に差別表現や報道被害の事例研究を通してガイドラインを探っている。

研究業績
「興行としての格闘技イベントとそのテレビ中継に関する一考察」芸術学部紀要第40号
「報道の品性に関する一考察〜報道不信の要因として」芸術学部紀要第43号
「スタジオ・ドキュメンタリー番組の可能性に関する一考察」芸術学部紀要第49号
「ドキュメンタリー番組におけるナレーションの演出的側面」芸術学部紀要第64号
「テレビならではの旅の魅せ方と「旅番組」の真相」芸術学部紀要第70号
創作(ゲームソフト、番組企画構成等)
「バス旅スト」TOKYO FM
「アंक2〜ツタンカーメン王の謎」レイ・コーポレーション
「新格闘技伝説」TBS
「小椋佳 青春のかほり・ほのかに」NHK衛星第二
「木内みどりの元気診断」日本テレビ 等多数

社会活動
日本映像学会会員

Image Arts



鈴木康弘

専任

生年月日

昭和33年09月06日生

略歴

昭和57年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和63年04月
日本大学芸術学部助手
平成04年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成08年04月
日本大学芸術学部助教授
平成15年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

映像演出、映像作品制作及び作品研究。
研究テーマとして扱っている作品分野は、ドキュメンタリーやテレビドラマである。ドキュメンタリーについては、テレビ・ドキュメンタリーの問題と可能性について探っている。また、映像人類学や映像文化の視点からのアプローチも試みている。テレビドラマについては、テレビの発展史を概観しながら社会との相関関係を考察している。

研究業績

「テレビ・ドキュメンタリー論再考
～知のドキュメンタリーに向けて～」
日本大学芸術学部紀要第37号
「編集技法指南～映像編集の基本的な考え方を学ぶ」12回シリーズ 写真工業出版社
「日本のテレビ放送におけるドキュメンタリー番組の位置」日本大学芸術学部紀要第60号
ドキュメンタリー作品
「秘境の村のくらし～パキスタン・シムシャル村～」NHK教育テレビ
「道と電気が変えた村の風景～秘境の村は近代化をどう受け入れるか～パキスタン・シムシャル村」、『カンテス少年少女合唱団』、『入善四季物語』、『カンテスファミリー～その成功と秘密に迫る～』ほか

社会活動

ハンガリー音楽教育の取材活動およびそれに関するドキュメンタリー作品等ビデオ作品の制作(日本ハンガリー合唱交流委員会)
日本映像学会会員



中町綾子

専任

生年月日

昭和46年08月生

略歴

平成06年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成08年03月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻博士前期課程修了
平成08年04月
日本大学芸術学部助手
平成12年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成16年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

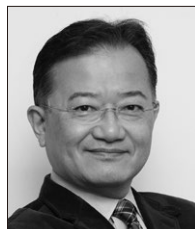
テレビ番組の分析を行う。
主として、テレビドラマの脚本領域、および映像(演技、演出、ストーリーを含む)を分析・読解する。テレビドラマは制作される時代の影響を強くうけるメディアである。時代的な背景、あるいは表現技法(技術)を前提として、そこに表現されるメッセージを読み解く。

研究業績

『国際演劇年鑑』(共著)国際演劇協会 日本センター
『なぜ取り調べにはカツ丼が出るのか?』(メディアファクトリー新書)
『ニッポンのテレビドラマ21の名セリフ』(弘文堂)
「テレビドラマに見る食の諸相」『放送と表現』Vol.1
「日本のテレビドラマにおけるメロドラマ概観」日本大学芸術学部紀要
「あのドラマこのセリフ」日本経済新聞(連載)

社会活動

日本マス・コミュニケーション学会
放送批評懇談会
BS朝日番組審議委員
ファミリー劇場番組審議委員



星野 裕

専任

生年月日

昭和36年04月24日生

略歴

昭和60年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和60年04月
第一企画株式会社入社 CMプランナー、コピーライター、プロデューサー
平成元年08月
株式会社電通入社 CMプランナー
その後クリエイティブディレクター、シニアクリエイティブディレクター
平成17年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成25年04月
株式会社電通クリエイティブX 執行役員
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

広告ビジネスにおけるコミュニケーション全般。現場経験を活かした視点からの考察を得意とする。
放送広告の表現と社会的役割の変遷に関する研究、広告表現のクリエイティブなアイディア発想の源泉についての研究などを行う。

研究業績

カタログハウス「通販生活」
再春館製菓所「ドモホルンリンクル」
イトーヨーカドー「いってみヨーカドー！」
ニベア花王「ニベアクリーム」など
わかりやすく広告効果の高いテレビCM等広告作品を多数企画、制作。
ACC賞、電通賞、読売広告大賞、カンヌ国際広告祭銀賞、IBA等国内外広告賞多数受賞。
日本大学芸術学部創設100周年記念産官学連携プロジェクト推進。

社会活動

日本広告学会
日本映像学会
一般財団法人こまつ里山SDGs倶楽部顧問



森中愼也

専任

生年月日

昭和35年08月05日生

略歴

昭和60年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和60年04月
札幌テレビ放送株式会社入社
アナウンサーとして主に情報番組、ニュースに従事。
平成25年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

現代マスメディアにおけるテレビ報道分析および情報番組の音声表現法の考察による現代キャスター論。テレビ史。

研究業績

日本テレビ系列共同制作『ズームイン!!朝!』『ズームイン! SUPER』『ズームイン! サタデー』、『第1回北方領土ビザなし渡航』取材・報道、「第4回世界陸上競技選手権シュトゥットガルト大会」取材・報道
「東日本大震災」NNN取材班にて報道
「生放送～最高権力者との6分間～」放送と表現 Vol.18
産学共同制作番組TOKYO FM「バス旅スト」メインパーソナリティー

社会活動

日本映像学会会員



茅原良平

専任

生年月日
昭和55年02月27日生

略歴
平成14年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成14年04月
日本大学芸術学部副手
平成18年04月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻入学
平成20年03月
同上修了
平成20年04月
日本大学芸術学部助教
平成24年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成29年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
ラジオ番組、ラジオドラマを中心に、音響演出、作品制作、作品研究を専門としている。また、ラジオの社会的機能の変遷、番組の功績を辿り、後世への教訓を見出す中で、ラジオの将来や可能性を考えるラジオ史の研究もしている。

研究業績
JFN38局「バス旅スト」演出
「AM深夜放送の変遷にみる『笑い』の一考察」放送と表現 Vol.8
「サラウンド研究(1)、(2)、(3)」芸術学部紀要第49号、51号、54号
「若者向けラジオ番組研究(1)、(2)、(3)」芸術学部紀要第64号、67号、71号
「ラジオ放送の現状と課題 手掛けなければならないこと」GALAC2015年4月号
「ステイホームでラジオリスナー増加」GALAC2020年10月号

社会活動
放送批評懇談会会員(理事、報道活動部門委員長)
日本音響学会会員



相内啓司

非常勤

生年月日
昭和24年06月12日生

略歴
昭和48年03月
東京藝術大学美術学部絵画科(油画)卒業
平成16年03月
放送大学大学院文化科学研究科修了
平成19年03月
東京大学大学院総合文化研究科 超域文化科学専攻後期博士課程 単位取得満期退学
昭和63年03月
女子美術大学造形科 非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部 非常勤講師
平成12年04月
多摩美術大学造形表現学部 非常勤講師
平成17年04月
早稲田大学川口芸術学校 客員教授
平成18年04月
京都精華大学芸術学部メディア造形学科教授
平成25年04月
京都精華大学大学院芸術研究科・研究科長
令和02年04月京都精華大学 名誉教授

研究領域
芸術としての映像表現の研究、映像芸術制作

研究業績
受賞
東京国際ビデオエンナーレ 審査員特別賞
CVKNHK ビジネスビデオコンテスト 優秀賞
キャノン・イメージランドフォーラム 金賞
神奈川県芸術祭・映像コンクール 最優秀賞
論文
「ビル・ヴィオラ『ミレニアムの五天使』、一遍在する『問い』とレイヤー構造について(その間、天使、ことば、映像(イマージュ))」(『273℃映像芸術研究所』)
「い(ま)えIN BETWEEN-存在とイマージュの境域」(ミストラルジャパン)
「メディアアートの世界」(国書刊行会)
「21世紀における芸術の役割」(未来社)

社会活動
2005年「25FPS ザクレブ国際実験映画祭」
日本プログラム企画・キュレーター
2013年「瀬戸内国際芸術祭」能舞台「水軍女王」舞台美術・プロデュース
日本映像学会会員、表象文化論学会会員、日本アニメーション協会会員



青木研次

非常勤

生年月日
昭和33年01月31日生

略歴
昭和55年03月 日本大学芸術学部映画学科卒業。昭和60年より放送作家として数多くのテレビ番組を手がける。
平成10年より映画脚本を手がける。
平成19年より日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
映画映像に於ける脚本という言葉による表現についての分析、研究。コンストラクションとテーマの関係についてのプロット論。ストーリーとドラマツルギーの関係についての研究分析。

研究実績
映画
「独立少年合唱団」ベルリン国際映画祭アルフレート・バウアー賞受賞作
「いつか読書する日」モントリオール映画祭審査員特別賞受賞作 菊島隆三賞 ヨコハマ映画祭脚本賞 芸術選奨文部科学大臣新人賞
「家路」新藤兼人賞受賞作
「友だちと歩こう」
テレビ
「私立探偵濱マイク」(読売テレビ)
「青い眼の少年兵」(NHK)
「この街の命に」(WOWOW)日本民間放送連盟賞最優秀ドラマ など
著作
小説「独立少年合唱団」(角川書店)
シナリオ本「いつか読書する日」(愛育社)

社会活動
協同組合日本シナリオ作家協会会員
日本脚本家連盟会員



落合賢一

非常勤

生年月日
昭和24年08月04日生

略歴
昭和47年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和54年04月
日本大学芸術学部助手
昭和56年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和63年04月
日本大学芸術学部助教授
平成07年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和02年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
テレビ映像技術全般が専攻分野であるが、その中で特にテレビ映像の記録及び保存技術を主な研究対象としている。VTRやHD、メモリーに代表されるテレビ映像の保存技術は長期保存に疑問がある。テレビ映像は文化遺産として極めて価値が高い。従って、その保存性は長期間、安定なものでなければならないと考えている。
さらに、4K、8Kなどの高画質化が、テレビ番組制作や、視聴者にどのような変革や影響をもたらしているかについても研究中である。

研究業績
著書
「新版ニューメディア用語辞典」(共著)
「図解テレビ制作ハンドブック」(共訳)
「科学技術用語辞典」(共著)
論文
「音声情報記録とその保存性についての一考察」日本大学芸術学部紀要

社会活動
日本音響学会会員
映像メディア情報学会会員
日本映像学会

Image Arts



眞道正樹

非常勤

生年月日

昭和43年03月21日生

略歴

平成01年03月
日本映画学校卒業
平成01年04月
東映東京撮影所で音響効果の仕事始める
平成13年06月
東映東京撮影所仕上センター課長代理
平成22年04月
東映デジタルセンター室長代理
平成23年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

映画制作における音響分野の役割

研究業績

・音響効果担当作品
『静かなるドン』
『今日から俺は！』
『セイラム2』
『ハカイダー』
『あぶない刑事 リターンズ』
『鉄と鉛』
『新・湘南爆走族 荒くれKNIGHT』
『ねじ式』
『共犯者』
『あぶない刑事 フォーエバー』
『無頼 人斬り五郎』
『修羅伝説 極道の地獄』
・東映東京撮影所仕上センター課長として
ポストプロダクションのデジタル化
デジタルセンターの立ち上げ
ツークン研究所の立ち上げ
・執筆
『予告編とシネアートのデジタル上映について』
（『録音』185号）
『2015 NAB Show レポート』（月間『放送技術』）
『G Suiteを使った映像制作』（『録音』216号）

社会活動

日本映画・テレビ録音協会会員



高橋則英

非常勤

生年月日

昭和28年12月09日生

略歴

昭和53年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
平成02年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成08年04月
日本大学芸術学部助教授
平成14年04月
日本大学芸術学部教授
平成26年04月
東京大学史料編纂所画像史料解析センター共同研究員
平成31年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授・日本大学上席研究員

研究領域

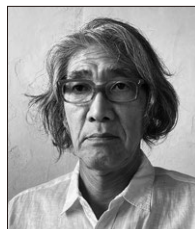
写真史および画像保存。
19世紀の発明から今日へ至る歴史的経過の分析を通じて写真の本質と価値を研究する。写真史は日本および欧米の写真史全般であるが、幕末の導入期から明治における発展期に至る日本初期写真史に重点を置く。またコロジオン湿板法や鶏卵紙など、初期写真技法の復元再生の研究も実施。同時に記録や芸術作品として歴史的に貴重な写真画像を次世代に確実に継承するため、その保存方法や保存環境、修復などの研究を継続して行う。

研究業績

『文化財としてのガラス乾板－写真が紡ぎなおす歴史像』（編著）勉誠出版、2017年
『写真技法と保存の知識 デジタル以前の写真－その誕生からカラーフィルムまで』（翻訳監修）青幻舎、2017年
『レンズが撮らえた 日本人カメラマンの見た幕末明治』（編著）山川出版社、2015年
『E・ブラウン・ジュニアのタゲレオタイプ』（研究論文）『日本写真芸術学会誌』、1998年
『写真の保存・展示・修復』（日本写真学会画像保存研究会編著）武蔵野クリエイイト、1996年

社会活動

日本写真芸術学会会長
文化庁文化審議会専門調査委員



近森眞史

非常勤

生年月日

昭和33年01月10日生

略歴

昭和57年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和57年04月
フリーランスの撮影助手
平成07年06月
フリーランスの撮影監督
平成11年04月
日本大学芸術学部映画学科非常勤講師

研究領域

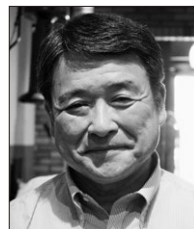
商業映画の撮影を手掛けながら、映画における芸術性を探ってみる。近年のデジタル化による表現手法の多様性と原点であるモノクロフィルムにおける表現の比較を通して映画の撮影現場における技術力とポストプロダクション作業の可能性を高める研究に取り組みながら、東欧の映画教育機関から輩出されたような人材群に負けない人材の育成にも取り組んでいこうと、可能性を探っている。

研究業績

「おとうと」日本批評家大賞、日本アカデミー賞受賞
「東京家族」
「小さいおうち」
「母と暮せば」
「家族はつらいよ」
「家族はつらいよ2」
「男はつらいよ お帰り寅さん」
以上日本アカデミー賞受賞

社会活動

日本映画撮影監督協会会員



手塚昌明

非常勤

生年月日

昭和30年01月24日生

略歴

昭和52年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和52年05月
フリーの助監督として映画・TV等の現場に従事。
平成06年
(株)東宝映画に入社
平成14年08月
(株)東宝映画を退社
平成14年09月
(株)東宝映画と監督契約
平成18年08月
(株)東宝映画との監督契約終了
平成23年04月01日
日本大学芸術学部常勤講師

研究領域

映画・テレビ・イベント等の演出。
映像内におけるSFX・特撮技術の検証と継承及び実践。

研究業績

監督作品『ゴジラ×メガギラスG消滅作戦』
『ゴジラ×メカゴジラ』
『ゴジラ×モスラ×メカゴジラ東京SOS』
『戦国自衛隊1549』
『空へ・救いの翼』『絆・再びの空へ』

社会活動

日本映画製作者連盟主催『城戸賞』審査員
日本映画監督協会会員



寺脇 研

非常勤

生年月日
昭和27年07月13日生

略歴
昭和50年03月
東京大学法学部卒業
昭和50年04月
文部省入省
平成11年04月
文部省大臣官房政策課長
平成13年01月
文部科学省大臣官房審議官生涯学習政策担当
平成14年08月
文化庁文化部長
平成16年04月
日本大学芸術学部研究所教授(非常勤)
平成26年
日本大学芸術学部客員教授

研究領域

映画をはじめとする文化行政を担当した立場から、日本の文化政策の全体像及びその中で映画を取り巻く行政的環境と今後の方向性。韓国との文化交流に携わる立場から韓国映画の状況、産業構造及び日本映画との関係。映画評論家として8千本を超す日本映画を観てきた立場から、観客の側から見た映画の在り方について。ジャパンフィルムコミッション前理事長の立場から、日本及びアジアのフィルムコミッションの状況。近年プロデューサーとして映画製作に当たる立場から、現在の日本映画の制作、配給、興行の状況。

研究業績

「映画を追いかけて」 弘文出版
「映画を見つめて」 弘文出版
「映画に恋して」 弘文出版
「韓国映画ベスト100」 朝日新書
「新編 ロマンポルノの時代」 光文社知恵の森文庫
「昭和アイドル映画の時代」 光文社知恵の森文庫

社会活動

一般社団法人落語協会外部顧問
NPO 日本映画映像文化振興センター顧問
公益社団法人「小さな親切」運動本部理事
NPO 青春基地幹事



野田慶人

非常勤

生年月日
昭和25年05月12日生

略歴
昭和50年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和57年04月
日本大学芸術学部助手
昭和60年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成04年04月
日本大学芸術学部助教授
平成10年04月
日本大学芸術学部教授
平成21年04月～平成26年03月31日
日本大学総合学術情報センター長
平成17年09月～平成29年09月
日本大学理事・評議員
日本大学芸術学部長・日本大学大学院芸術学研究科長
平成29年09月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

テレビCMの発想法、表現法の研究。
日本のテレビCMを中心に、今日までの変遷をふり返ると共に、諸外国のCMと比較して、多角的にその発想法、表現法を考察することにより、日本のテレビCM表現の課題と可能性を追求したい。

研究業績

「20世紀放送史」(共著)
日本放送協会
「広告白書」(共著)
日経広告研究所
「テレビ史ハンドブック改訂増補版」(共著)
自由国民社
「メディアと情報のマトリックス」(共著)
弘文堂
「不可解な成熟期を迎えたテレビCM」(単著)
日経広告研究所報175号

社会活動

(社)衛星放送協会理事
(株)スーパーネットワーク(Super! ドラマTV 番組審議委員長)
(株)囲碁将棋チャンネル放送番組審議委員
公益財団法人 板橋区文化・交流財団理事



花柳貴答

(鈴木 昭)

非常勤

生年月日
昭和25年12月13日生

略歴
昭和45年06月
国立劇場歌舞伎俳優養成所入所 第一期生
昭和47年04月
同所卒業 歌舞伎俳優となる
昭和48年02月
花柳流名取試験合格 花柳貴答を名乗る
昭和48年05月
八世坂東三津五郎師に入門
昭和50年02月
八世逝去の為、九世坂東三津五郎師に入門
昭和53年02月
歌舞伎俳優から日本舞踊家に転業
昭和58年02月
花柳流師範合格
平成23年11月
久留米市功労者の称号を贈られる

研究領域

日本の伝統的な演劇・舞踊の表現様式。能・狂言、民族芸能、歌舞伎、文楽＝人形浄瑠璃、新派、新国劇、日本舞踊、また、講談、落語、浪曲、近年では映画、西洋の演劇・舞踊などとの関係性。ことに歌舞伎はその演出法や演技の所作・台詞廻しなどが上記の他のジャンルとの関係が深く、大きく影響を与えられ、また与えている。その表現方法の関係性の体得の仕方と伝達の仕方を、刻々と変わる時代と共に探っていく。

研究業績

H4 日中国交回復20周年記念北京公演出演
H5 文化庁派遣歌舞伎レクチャー欧州巡業公演出演
H14 会津田島屋山歌舞伎 演出振付
H14 京わらべ唄ミュージカル「優女」振付
H20 NHKBS「写楽」演出、振付
H20 真贋絵金現世話 演出、振付
H21 本物の舞台芸術体験授業「二人袴」脚本補綴、演出、振付、出演
H27 東大レクチャー 神田祭の舞踊「三番叟 常磐色」振付
その他、各地の舞踊界出演多数、各地の地芸居の脚本、演出、振付多数。

社会活動

日本舞踊協会会員
全日本郷土芸能協会会員



原 直久

非常勤

生年月日
昭和21年08月16日生

略歴
昭和44年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和47年06月
日本大学芸術学部助手
昭和55年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和61年04月
日本大学芸術学部助教授
平成06年04月
日本大学芸術学部教授
平成28年08月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

写真表現及び写真表現研究
写真表現の原点であるオリジナルプリントの価値と芸術性を追求し、ハイクオリティーな作品作りのため、特に大型カメラでの制作を中心に、ファインプリントによるバライタ紙やプラチナプリントでのイメージ表現の可能性を探究している。写真表現研究はE.アッジェをはじめ20世紀前半のバリを中心に活躍した写真家の研究。

研究業績

個展
「ヴェネツィア」虎の門・P. G. I 他多数
学術論文
「アッジェの撮影機材(レンズ)に関する研究」日本写真芸術学会誌第5巻第1号
「アッジェの仕事とその方法についての考察」日本写真芸術学会誌第9巻第1号
「アッジェ研究Ⅲ」日本写真芸術学会誌第9巻第1号
出版
「時の遺産＝ヨーロッパとの出会い」光村印刷(株)発行

社会活動

日本写真芸術学会理事
日本写真学会会員
日本映像学会会員
日本写真協会顧問

Image Arts



福田卓郎

非常勤

生年月日

昭和36年05月16日

略歴

昭和61年03月 日本大学芸術学部映画学科卒業
大学卒業後、東宝株式会社演劇演出部を経て、自ら主宰する劇団を結成。
平成01年より、シナリオライターとして数多くの映画、テレビドラマ、ラジオドラマ、戯曲を執筆する。
平成12年より日本大学芸術学部映画学科 非常勤講師

研究領域

映像作品における脚本の創作。及びその構造の分析と研究。過去から現在に至る様々な映画を通して、そこに共通する「面白さ」を創り出している要因を探る。

研究業績

映画
「就職戦線異状なし」
「愛を積む人」
テレビ
「トリック2」(テレビ朝日)
「仮面ライダーゴースト」(テレビ朝日)
「噂の女」(テレビ東京)
ラジオ
「12歳の成人式」(NHK)
「ライオン子供はみがき」ACC最優秀スポットCM賞
著作
「仰げば尊し」(社神社)
「脚本家になる方法」(青弓社)

社会活動

日本脚本家連盟 会員
日本劇作家協会 会員



宮沢誠一

非常勤

生年月日

昭和24年08月18日生

略歴

昭和47年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成06年04月
日本大学芸術学部教授
平成17年09月
日本大学芸術学部次長
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和02年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

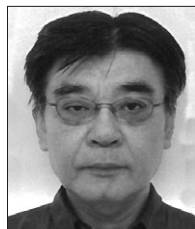
映画監督・製作・編集を行なっているが、特に創作が中心である。創作領域は、劇場用映画、ドキュメント・PR・CM・TV・ミュージッククリップなど広範囲にわたり、デジタルシネマの製作にも取り組んでいる。

研究業績

「夏の別れ」35mm劇場用映画 編集担当
1981年上映
「TECHNO ADVENTURE」16mmPR映画
脚本・監督・編集担当
1981年度産業映画コンクール奨励賞
「絵の中のぼくの村」35mm劇場用映画
ネガ編集担当
1996年度ベルリン国際映画祭銀熊賞
「田中純一郎〜人と仕事 映画にかけた生涯〜」16mm記録映画 監督・編集担当
1999年度産業映画コンクール奨励賞
「宇宙の夏」デジタルシネマ(30分) 劇映画
製作・編集担当 2003年度WORLD FEST
HOUSTON GOLD SPECIAL JURY
AWARD(審査員特別賞)
「飛べ!ダコタ」2013年劇場用映画、DCP上映作品、118分、編集担当
「ソ満国境15歳の夏」2015年劇場用映画、DCP上映作品、94分、編集・制作担当

社会活動

日本映画・テレビ編集協会
日本映画テレビ技術協会



村山匡一郎

非常勤

生年月日

昭和22年11月27日生

略歴

昭和46年03月
早稲田大学第一政治経済学部経済学科卒業
昭和48年10月
早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻修士課程(演劇)修了
昭和55年04月
フリーの映画評論家、研究者として本格的に活動始める
平成12年04月
武蔵野美術大学造形学部映像学科非常勤講師
平成15年04月
多摩美術大学美術学部芸術学科非常勤講師
平成19年04月
多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科客員教授
平成21年04月
東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科非常勤講師
平成25年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年11月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

劇映画・ドキュメンタリー・アニメーション・実験映像などの分野を問わず、映画史・映画理論・映画批評を横断しながら映画のあり方を研究。近年は映画と時代の関係に焦点を当てドキュメンタリー映画やアヴァンギャルド映画に関心を寄せている。

研究業績

「世界映画全史」(12巻、共訳) 国書刊行会
「映画100年STORY まるかじり」朝日新聞社
「映画史を学ぶクリティカル・ワーズ」(編著) フィルムアート社
「映画における意味作用に関する試論」(共訳) 水声社
「日本映画叢書⑤映画は世界を記録する」(編著) 森話社

社会活動

日本映像学会会員
NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭理事
一般社団法人コミュニティシネマセンター顧問



山田 均

非常勤

生年月日

昭和24年03月06日生

略歴

昭和48年3月
千代田学園 映画録音研究科卒業
昭和48年7月
アオイスタジオ 音響技術部入社
平成2年7月
アオイスタジオ 音響技術部退社
平成2年7月
フリー録音技師
平成23年4月
日本大学芸術学部映画学科 非常勤講師

研究領域

映像音響の収録から最終仕上げ全般

研究業績

劇映画「稲村ジェーン」 監督 桑田圭祐
「MAX『小さな世界から』 監督 山田太一
劇映画「ピンポン」 監督 曾利文彦
劇映画「カミュなんて知らない」監督 柳町光男
劇映画「ソ満国境 15歳の夏」 監督 松島哲也

社会活動

日本映画・テレビ録音協会



横田正夫

非常勤

生年月日

昭和29年01月28日生

略歴

昭和51年03月

日本大学芸術学部映画学科卒業

昭和54年03月

日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士

前期課程修了

昭和57年03月

日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士

後期課程満期退学

昭和57年04月

群馬大学医学部精神神経医学教室教務員

平成04年04月

日本大学文理学部専任講師

平成06年04月

日本大学文理学部助教授

平成12年04月

日本大学文理学部教授

令和03年04月

日本大学文理学部特任教授

研究領域

アニメーションの心理学的研究を行っている。
たとえば、キャラクターの好み、悪玉の印象評価の検討や作り手と創造性、ライフ・サイクルの関係など。

研究業績

アニメーションの前向き行動力：主人公たちの心理分析（単著・金子書房、2021）

Animating The Spirited（共編著、University Press of Mississippi, 2020）

「アニメーションの心理学」（共編著、誠信書房、2019）

「大ヒットアニメで語る心理学：『感情の谷』から解き明かす日本アニメの特質」（単著、新曜社、2017）

「メディアから読み解く臨床心理学 漫画・アニメを愛し、健康なこころを育む」（単著・サイエンス社、2016）

社会活動

一般社団法人日本心理学諸学会連合理事

日本アニメーション学会理事

日本映像学会監事

Fine Art and Design



大熊敏之

専任

生年月日

昭和34年01月01日生

略歴

昭和57年03月
早稲田大学美術史学専攻卒業
昭和58年04月
北海道立近代美術館学芸員
平成04年04月
北海道立近代美術館主任学芸員
平成05年04月
宮内庁三の丸尚蔵館研究員
平成10年01月
宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官
平成17年10月
富山大学芸術文化学部准教授
平成23年04月
富山大学大学院芸術文化学研究科准教授
平成26年01月
富山大学大学院芸術文化学研究科教授
平成31年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

日欧近世近代美術交流史と伝統的造形芸史を主な研究分野とする。江戸後期以降の日本美術を対象とした歴史研究にみられる記述手法の問題点を多角的に検証する一方、置物やレリーフ画、額縁等のこれまで日本美術史では論じられることの少なかった複数の造形分野の境界線上に存立する造形物や書、生花、盆栽、人形、模型、手芸など美術史記述の枠外に排除されてきた多様な視覚・造形領域を史的に位置づけ直す試みを研究課題としている。

研究業績

「美術のゆくえ、美術史の現在－日本・近代・美術」（共著）平凡社
「感覚と構成のはざまで－1930年代の日本画のモダニズム」（日本美術院百年史第6巻）日本美術院
「工芸と美術史学：絵画性と彫刻性の相克－近代日本における浮彫表現の位相をめぐって」（日本における美術史学の成立と展開）東京国立文化財研究所
第4回 倫雅美術奨励賞・美術史研究評論部門受賞

社会活動

富山県立近代美術館収蔵作品評価委員ほか



大槻孝之

専任

生年月日

昭和32年01月03日生

略歴

昭和54年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成03年04月
日本大学芸術学部助手
平成07年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成11年04月
日本大学芸術学部助教授
平成17年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

主に鉄を素材として彫刻の制作発表を行っている。現在、彫刻と場との関係性について興味をもっている。無機質なホワイトキューブの美術の展示のために用意された空間や公園などの認知された公共の場ではなくて、日々移り変わる自然の中であるとか、歴史や文化を紡いできた日常の空間に直接に関わり、彫刻を通して特定の場を意識化していくことに彫刻の新たな可能性を探っている。

研究業績

「満ち潮を待って－Ⅱ」個展 メタルアートミュージアム光の谷
「水の風景」第22回現代日本彫刻展－07 宇部市野外彫刻美術館
「満潮を待って」個展 ギャラリー GAN
「風をのせて」NEW HEAVY展 神戸市CAP HOUSE
「迷宮の小径」雨引の里と彫刻展 茨城県大和村

社会活動

鉄の造形ワークショップ（神戸市CAP HOUSE）
N＋N展ワークショップ（練馬区立美術館）
日本美術家連盟会員



鞍掛純一

専任

生年月日

昭和42年09月24日生

略歴

平成元年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成03年04月
跡見学園短期大学生生活造形科実習助手
平成04年04月
日本大学芸術学部学科補助員
平成06年04月
日本大学芸術学部非常勤助手
平成07年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成09年04月
武蔵野美術大学特別講師
平成13年04月
日本大学芸術学部助手
平成16年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成24年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

鉄を主な表現素材とし、自然から受け取るものを作品に置き換えることを日常制作の元に行っている。近年は個人の制作活動のみならず、ワークショップをはじめ、多くの人数で一つのものを造り上げる制作方法も同時に行っており、過疎化地域におけるアート制作による地域活性化を目標にしている。

研究業績

柳瀬荘アート・教育プロジェクト
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ／脱皮する家2006／コロックハウス2009／やまのうえした2012／大地のおくりもの2015
大地のおくりもの2018／はなするべ
瀬戸内国際芸術祭2013夏

社会活動

KEENパートナー
星峠の棚田を守る会



笹井祐子

（奥村祐子）

専任

生年月日

昭和41年12月19日生

略歴

平成02年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成07年04月
日本大学芸術学部副手
平成12年04月
日本大学芸術学部助手
平成16年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

平面による版画・絵画表現を専門としている。絵画表現では、線によるドローイングを中心に植物や人物といった生命力をかたちに表現している。版画表現では、版を使って「写す」ことをテーマに凹版、凸版、平版といった様々な版種を使い表現している。特に版画と活字を組み合わせた表現の研究を試みている。

研究業績

「現代日本の美術の動勢 版/写すこと/の試み」富山県立近代美術館
「現代版画の潮流展」町田市立国際版画美術館・松本市美術館
「ドローイングをめぐって」茨城県つくば美術館
「一期一会」メキシコ自治大学チョッポ美術館
「第28回損保ジャパン美術財団選抜奨励展」損保ジャパン東郷青児美術館
「第77回日本版画協会展 招待作家」東京都美術館

社会活動

版画学会



瀬島 匠

専任

生年月日
昭和37年08月05日生

略歴

平成元年03月
武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業
平成元年04月
武蔵野美術大学短期大学部美術科助手
平成08年04月
武蔵野美術大学短期大学部通信美術科コース
非常勤講師
平成14年04月
武蔵野美術大学造形学部通信教育課程油絵学
科絵画コース非常勤講師
平成22年04月
横浜美術大学絵画コース非常勤講師
平成23年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成24年04月
東北芸術工科大学芸術学部洋画非常勤講師
平成25年04月
東北芸術工科大学芸術学部洋画コース画准教授
平成31年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

多様化する表現素材の研究
科学の進歩にともない、絵具となる素材も幅
広く開発され、様々な表現方法が生まれてき
た。伝統的な素材と新素材を組み合わせる中
で、新たな可能性を持った独創的な絵画空間
を追求していく。

研究業績

瀬島匠個展 落石岬 無線局跡 根室市
北海道「90」
「表現としての場」6人展 広島現代美術館「93」
瀬島匠個展 シテ・インターナショナル・デザ
ール、パリ フランス「95」
62回独立展 安田火災美術財団奨励賞「95」
瀬島匠個展 ピカソ洗濯船 パトラーボア
モンマルトル パリ フランス「2000」
71回独立展独立賞受賞 東京都美術館「03」
損保ジャパン大賞展 東郷青児美術館「11」
29回上野の森美術館大賞展 大賞受賞「11」
都美セレクション新鋭美術家作品展「15」
第五回 蔵と現代美術展 「響き合う空間」
招待作家 川越市「07」

社会活動

フランス美術家協会会員「99～01」
独立美術協会会員「04～」



福島唯史

専任

生年月日
昭和42年03月28日生

略歴

平成01年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成04年04月
日本大学芸術学部実習助手
平成07年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成08年04月
日本大学芸術学部助手
平成12年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成16年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

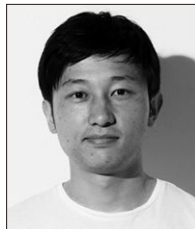
油彩画による絵画制作。
特に基底材及び溶材の研究が、油彩画の技法
やマティエールに与える影響を試みている。
油彩画の生命線とも言える堅牢な絵具のつ
き、それに伴う絵具の美しさを大切に思いな
がら、特に色面、空間感、コンポジションに重
きを置いて制作している。

研究業績

第29回昭和会展日動美術財団賞受賞「94」
福島唯史展(日動画廊 東京/名古屋)「97」
前田寛治大賞展(日本橋高島屋)「98'01'04」
和の会招待出品(銀座和光)「99～'01」
立軌会同人となる「01～」
日本現代洋画の精鋭(笠間日動美術館)「01」
福島唯史展(日動画廊)「07」
昭和会受賞作家選抜展(笠間日動美術館)「11」
福島唯史展"PARIS-MAROC"(日動画廊)「11」
N+N展 油絵の魅力(練馬区立美術館)「14」
福島唯史展"GRIS CHIC"(日動画廊)「16」
福島唯史ドローイング展(ギャリリ・サロンドエス)「20」
稜の会(日本橋高島屋/大阪、名古屋を巡回)「21～」
その他、個展、グループ展

社会活動

立軌会運営委員
前田寛治大賞展推薦委員(倉吉博物館主催)
未来展実行委員、審査委員(日動画廊主催)



飯田竜太

専任

生年月日
昭和56年08月生

略歴

平成16年03月
日本大学芸術学部美術学科彫刻コース卒業
平成18年04月
日本大学芸術学部美術学科臨時職員
平成19年01月
静岡県立沼津商業高等学校常勤講師
平成21年
八戸学院短期大学幼児保育学科専任講師(現
八戸学院大学短期大学部)
平成26年03月
東京藝術大学大学院美術研究科先端藝術表現
専攻修了
平成27年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成31年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域

文字や言葉を媒介とした本・雑誌・紙などを用
いた彫刻作品の制作、グラフィックデザイナー
と共に写真を用いた半立体作品の制作を通じ
て、新たな芸術分野、芸術思想、芸術思考の確立
を研究する。作品素材に時間軸を封入すること
で、素材に意味・思想・情報を必然的に付与し、
多様な方法と掛け合わせ作品を制作する。

研究業績

【のどの文字、間の無光】八戸ブックセンター
(2017年)
【釘がな い の で】BEPPU PROJECT
KASHIMA レジデンス成果報告展(Nerhol
として)(2018年)
「私たちの愛するこの街が止まらないよう
にー」富士の山ピエナーレ(2019年)
「VOCA展2020」(Nerholとして)
「New Photographic Objects 写真と映像
の物質性」埼玉県立近代美術館(Nerhol と
して)(2020年)

社会活動

平成19年 田中義久とNerholを結成
平成21年 第12回岡本太郎現代芸術賞 入選
令和02年 Voca賞(nerholとして) 第八次
椿会(杉戸洋、中村竜治、Nerhol(ネルホ
ル)、ミヤギフトン、宮永愛子、目[mé](nerhol
として)



笠井則幸

専任

生年月日
昭和47年03月24日生

略歴

平成07年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成07年04月
株式会社 アド・ギルド入社
平成08年10月
株式会社 日本デザインセンター入社
平成19年04月
和光大学表現学部専任講師
平成23年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成25年04月
日本大学芸術学部准教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

専攻:グラフィックデザイン
近年、グラフィックデザインは平面のみなら
ず、あらゆるメディアを媒介としたコミュニ
ケーションデザインとして必要性を増してい
る。特にタイポグラフィはメディアにより視認
性が大きく変化するので、美しいデザインと
時代性に沿った情報伝達の在り方を考え、実
践しなければならない。

研究業績

文化庁メディア芸術祭推薦作品推挙
東京モーターショー トヨタブースカタログ、
サインデザイン SDA賞 準優秀賞
ミッドランドスクエア名古屋 ワールドマップ
デザイン(トヨタ自動車) SDA賞 最優秀賞
Graphis Poster Annual 2012 Platinum
award(最高賞) 受賞(NY)
第64回全国カレンダー展 日本商工会議所会
頭賞/第3部門金賞受賞
日本タイポグラフィ年鑑2017 研究実験部門
ベストワーク受賞
ASIA DESIGN PRIZE グランプリ

社会活動

日本グラフィックデザイナー協会会員
日本タイポグラフィ協会会員
日本デザイン学会会員
ANBD JAPAN 常任理事
China International Design Educator
Association 会員

Fine Art and Design



木村政司

専任

生年月日

昭和30年11月29日生

略歴

昭和54年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和59年06月
米国ワシントン州立大学大学院修士課程修了
MFA取得
昭和60年12月
米国スミソニアン協会国立自然人類歴史博物館インターン修了
昭和63年10月
(株)アーリーボード設立(代表取締役 現在非常勤)
平成05年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年09月
日本大学理事・評議員
日本大学芸術学部長・日本大学大学院芸術学研究科長
平成30年04月
金沢工業大学コンテンツ&テクノロジー融合研究所客員教授
令和元年09月～令和02年08月
日本大学副学長
令和03年03月～
日本大学第三学園理事

研究領域

Scientific Illustration Communication Design

研究業績

A digital timeline of 4 billion years of biological evolution

社会活動

○JSTサイエンスウインドウ委員会委員
○板橋区教育科学館指定管理者選定委員
○日本サイエンスコミュニケーション協会会員
○日本グラフィックデザイナー協会会員
○日本大学第三学園理事



佐藤 徹

専任

生年月日

昭和43年11月29日生

略歴

平成03年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成03年04月
三菱電気デザイン研究所勤務
平成11年04月
日本大学芸術学部助手
平成15年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成20年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

持続可能なライフスタイルの実現に向けて、工業製品による環境負荷やエコロジー素材、再利用法などをエコデザインの観点から研究。JIDA環境委員会にて学生指導や主催展示も行っている。また工業デザインの現場におけるコンピュータの活用状況を調査し、3Dデータによる模型製作などを実践、検証している。

研究業績

「美しい椅子がわかる本」(共著)成美堂出版社
「エコデザイン」(共著)日本デザイン学会誌特集号
「conof. シリーズ」シュレッター、電話機、デスクライトのシリーズ
「Slow coffee style シリーズ」ドリップパー、カフェ、マグ等のシリーズデザイン
「libro シリーズ」ソファベンチ、ソファテーブル等のシリーズデザイン

社会活動

日本デザイン学会会員
日本インダストリアルデザイナー協会 環境委員会副委員長



長瀬浩明

専任

生年月日

昭和38年08月17日生

略歴

平成元年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成元年04月
日本大学芸術学部美術学科補助員
平成04年04月
東京都立工業技術センター研究員
平成07年04月
長野県情報技術試験場研究員
平成17年04月
長野県工業技術総合センター研究員
平成22年04月
日本大学芸術学部准教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

感性工学や人間工学に基づくユーザー志向のものづくり(プロダクトデザイン、UXデザイン)を専門としている。筋電計やモーションキャプチャ等の生体計測技術を応用した製品や試作品等の定量的検証を通じ、福祉機器や生活支援用具等の研究開発を実践している。また企業や地域と連携して製品開発やブランド構築の支援やプロデュースを手掛けている。

研究業績

「姿勢調節障害のリハビリテーション装置の開発—実証試験方法の確立のための予備的検討—」人間生活工学. Vol.9, No.1 (2008)
「Lateral Inclination of the Trunk and Falling Frequency in Parkinson's Disease Patients」Electromyography and Clinical Neurophysiology. 50 (2010)
「Postural Control While Sitting and Its Association with Risk of Falls in Patients with Parkinson's Disease」INTECH. (2011)
「動作解析とインタビューによる起立補助椅子の有効性評価」日本感性工学会論文誌. Vol.11, No.1 (2012)
「欧州における福祉機器の市場動向 — REHACARE INTERNATIONAL の調査から—」日本大学芸術学部紀要第66号 (2017)

社会活動

日本感性工学会会員
公益財団法人共用品推進機構理事



森 香織

専任

生年月日

昭和36年01月27日生

略歴

昭和62年03月
筑波大学大学院芸術研究科修士課程修了
昭和63年04月
東京純心女子短期大学美術科助手
平成01年04月
東京純心女子短期大学美術科専任講師
平成06年04月
東京純心女子短期大学美術科助教授
平成08年04月
東京純心女子大学現代文化学部助教授
平成15年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

専攻分野:基礎デザイン・視覚伝達デザイン・デザイン教育
デザイン・造形の基盤となる形態や色彩の研究を通して美的秩序や構成を、歴史的・地域的・文化的などの多方面から探求する。また、近年では大学教育におけるデザインの基礎学力について、カリキュラムや課題を通しての新しい可能性を探る試みを各国での実践例などと比較しながら構築している。

研究業績

○「グラフィックデザイン全史」(共訳) 淡交社
○「日本のかたちⅠ—構成要因と分類—」東京純心女子短期大学紀要3
○「日本のかたちⅡ—連続と間—」東京純心女子短期大学紀要4
○エディトリアルデザイン:雑誌「アイデア」[MJ無縁と実験](誠文堂新光社)、雑誌「Agora」(日本航空)
○「造形基礎と基礎デザイン—デザイン分野における基礎教育の目的と可能性」日本大学芸術学部紀要48号

社会活動

○日本デザイン学会代議員(教育部会幹事)
○基礎デザイン学会理事(運営委員)
○日本色彩研究所評議員
○日本色彩教育研究会理事



山本守和

専任

生年月日
昭和46年08月18日生

略歴
平成06年03月
日本大学理工学部海洋建築工学科卒業
平成08年03月
日本大学大学院理工学研究科修士課程修了
平成08年04月
大日本コンサルタント株式会社勤務
平成14年03月
日本大学大学院理工学研究科博士課程修了
平成15年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成28年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
津波発生時における避難行動に関する研究を行っている。災害時の状況、避難手法に関して、統計データや地理データなどを、地理情報システム (GIS) 及びコンピュータシミュレーションを用いて、分析している。また、コンピュータに関連する研究として、芸術作品作成を目的としたWebサイトの構築及び運用・管理、教育におけるWebサイトの利用なども行っている。

研究業績
津波発生時における自動車避難シミュレーションによる避難経路の分析 千葉県長生郡一宮町を対象として、日本建築学会環境系論文集
津波災害時における自動車避難の対象地域に関する分析、日本建築学会大会
津波災害に対する防災計画を考慮した集落の分類手法に関する研究、日本建築学会大会
芸術学部における情報講義の授業改善に関する取り組み、日本大学FD研究

社会活動
日本建築学会会員
情報処理学会会員



池田光宏

専任

生年月日
昭和44年11月23日生

略歴
平成06年03月
日本大学芸術学部美術学科ビジュアルコミュニケーションデザイン専攻卒業
平成07年04月
東京芸術大学大学院美術研究科入学
平成09年03月
東京芸術大学大学院美術研究科修了
平成24年04月
長岡造形大学造形学視覚デザイン学科非常勤講師
平成26年04月
長岡造形大学造形学視覚デザイン学科准教授
令和02年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
「見ること」「見られること」「想像すること」をテーマにアートプロジェクト、インスタレーション、グラフィックアート、コミッションワークなどを制作、研究。

研究業績
文化庁新進芸術家海外研修制度にてスウェーデンに滞在。
〈主要な展覧会〉
「大地の芸術祭・越後妻有トリエンナーレ」、
「こもれび展」水戸芸術館、「府中ピエンナーレ」府中市美術館、「CAFE in 水戸」水戸芸術館、「六本木アートナイト」六本木ヒルズ、「公開制作」府中市美術館、「Homemade Landscape」(大地の芸術祭冬) まつだい農舞台、「こどもハウス劇場」東京都現代美術館、「きっとそれも誰かの仕業」長岡市栃尾美術館、恵比寿映像祭地域連携プログラムなど。
〈主要な受賞歴〉
毎日広告賞奨励賞、環境色彩コンペティション優秀賞、新潟アートディレクターズクラブ準グランプリ、NADC賞受賞、審査員特別賞、世界ボスタートリエンナーレ トヤマ入選など。



若原一貴

専任

生年月日
昭和46年10月12日生

略歴
平成06年03月
日本大学芸術学部 美術学科 住空間デザインコース卒業
平成06年04月
株式会社 横河設計工房 入社
平成12年05月
株式会社 若原アトリエ 設立
平成30年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成31年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
専攻分野:建築設計
テーマは「現代小住宅における新しい設計手法」。空間を構成する寸法や光のグラデーションによって生まれる多様な心地よい「居場所」について考察。また、小住宅に適した構造形式や素材および現代の生活様式を反映したプランニングなど、これからの「小住宅」におけるスタンダードになり得る設計手法を研究。

研究業績
作品
あがり屋敷の家(東京都) 2002年竣工
南沢の小住宅(東京都) 2010年竣工
清瀬の小住宅(東京都) 2017年竣工
霧ヶ丘の家(神奈川県) 2017年竣工
辻堂の家(神奈川県) 2017年竣工
著書
小さな家を建てる

社会活動
目黒区美術館建築ボランティア班
一般社団法人東京建築アクセスポイント理事
一般社団法人エコハウス研究会理事



出羽 尚

非常勤

生年月日
昭和52年07月28日生

略歴
平成12年03月
東京外国語大学外国語学部英語専攻卒業
平成14年03月
日本大学大学院芸術学研究科修了(修士)
平成17年11月
リーズ大学大学院修了(MA)
平成18年03月
日本大学大学院芸術学研究科修了(博士)
平成20年04月
武蔵大学文学部非常勤講師
平成26年04月
宇都宮大学国際学部講師
平成29年04月
放送大学客員准教授
平成30年04月
宇都宮大学国際学部准教授

研究領域
西洋美術史・イギリス美術史
特に18、19世紀のイギリス風景画作品を主な研究対象とする。ほかにも、風景画と関連する美術理論、文芸、地誌といった領域や、自然と関係を持つ建築、庭園、デザイン、現代美術にも関心を持つ。

研究業績
「イメージ制作の場と環境」中央論美術出版
「多文化共生をどう捉えるか」下野新聞社

社会活動
美術史学会会員
日本18世紀学会幹事
栃木県文化振興審議会委員

Fine Art and Design



赤木範陸

非常勤

生年月日

昭和36年09月29日生

略歴

昭和63年03月
東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
平成02年03月
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了
平成07年09月
ドイツ政府給費 (DAAD)/ミュンヘン国立芸術大学満期卒業 Dipl.M.A.取得、マイスターシューラー称号授与
平成08年04月
広島市立大学芸術学部非常勤講師(平成14年迄/平成24年～現在)
平成14年04月
尾道大学芸術文化学部非常勤講師(現在に至る)
平成16年
横浜国立大学教育人間科学部助教授
平成19年04月
横浜国立大学教育人間科学部准教授
平成24年04月
横浜国立大学教育人間科学部教授

研究領域

古代、及び古典絵画技法、材料に於ける当時の使用方法に関する文献研究を基礎研究と位置づけている。金地テンペラではボロスの代替品として蜜蝋を用いる研究、エンカウステイクに於いては、下層画きに色を排除した技法研究をしている。メチエとしての使用には換骨奪胎が必要であり、私たちが生きる時代にふさわしい肉付けの後、後代に伝える価値が生まれる。古典技法の自己作品への応用では西洋の過去の真似にしかない。

研究業績

美術館企画展：
赤木範陸－鍊金術師の軌跡－展(大分市美術館、2001年)
赤木範陸－湯あみ－展(浅倉文夫記念美術館、2002年)
赤木範陸展：濡れ色の神秘－ENKAUSTIK(MOU 尾道市立大学美術館、2012年)
赤木範陸－蠟山水－展(国立寧波美術館、2019年)
赤木範陸展(ヤンファン美術館、2019年)

社会活動

日本美術家連盟会員、UNESCO 国際美術家連盟会員、大学美術教育学会会員、DAAD (ドイツ学術交流会) 会員、教育大学協会美術会員



大西若人

非常勤

生年月日

昭和37年05月13日生

略歴

昭和61年03月
東京大学工学部都市工学科(都市デザイン研究室) 卒
昭和62年03月
東京大学大学院修士課程中退
昭和62年04月
朝日新聞社に入社、宮崎支局記者
平成02年04月
朝日新聞西部本社芸芸部記者
平成06年04月
朝日新聞東京本社芸芸部記者
平成11年05月
朝日新聞大阪本社芸芸部記者
平成13年09月
朝日新聞東京本社芸芸部(のち文化部) 記者
平成16年09月
朝日新聞東京本社文化部次長
平成19年09月
朝日新聞東京本社文化部記者
平成22年04月
朝日新聞編集委員

研究領域

美術、建築、写真などの領域に関し、長年取材・執筆してきた経験を踏まえ、こうした視覚表現を現代文化、社会全体のなかに位置づけることを目指す。とりわけ、領域を横断する軸として、「身体」を巡る表現に着目。一方、こうした表現が生まれる背景となっている様々なシステムや文化的、社会的意志の存在も注視している。

研究業績

朝日新聞紙上での執筆のほか、『大地の芸術祭——越後妻有アートトリエンナーレ』(現代企画室)、『リファイン建築へ 青木茂の全仕事』(建築資料研究社)、『文藝別冊 〔永久保存版〕 荒木経推』(河出書房新社) などに寄稿。シンポジウムなどへの参加も多数。

社会活動

ヒロシマ賞選考委員



大庭英治

非常勤

生年月日

昭和25年05月30日生

略歴

昭和49年03月
東京芸術大学美術学部絵画科卒業
昭和51年03月
東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了
昭和52年06月
フランス政府給費留学
(国立マルセイユ高等美術学校)
平成16年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成17年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成22年04月
日本大学芸術学部教授
令和03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

専攻分野：絵画
多種多様にわたる現代絵画の表現の中で、古い時代から用いられてきた油彩絵の具を材料として、その古典的な技法をベースに、自らの「造形意識」の表現を試みている。
具体的な形に拘らず、色彩の響きあい、コンポジション、マチエールなどを探究し、抽象的絵画の中に人の気配のする生活空間を描きたいと、その試行を続けている。

研究業績

個展「ヌーヴェル・ギャラリー」(フランス、1979年)
個展「ムゼウムドルフ」(ドイツ、1988年)
個展「東急Bunkamuraギャラリー」(1994年)
個展「高島屋美術画廊」(1996、1999、2001、2005、2008、2011、2015、2018、2021年)
その他、個展、グループ展、立軌展等で発表

社会活動

日本美術家連盟会員
立軌会同人
日本ガラス絵協会会員
ABC (文化系フランス政府給費留学生) の会幹事



海崎三郎

非常勤

生年月日

昭和27年04月03日生

略歴

昭和50年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和59年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成12年09月
東北芸術工科大学非常勤講師
平成16年04月
跡見学園女子大学短期大学部非常勤講師
平成16年04月
共立女子大学非常勤講師

研究領域

専攻分野は彫刻であり、表現素材は鉄である。扱い方の比較的自在である鉄に対して、負の無垢性とそこから生じるエネルギーに焦点を置きその在り方を探求している。
また、野外空間においては彫刻がもつ内と外の関係を空と大地、場所の特殊性も含めて作品化し、内側に対する志向性と現代彫刻の可能性の接点について試行している。

研究業績

「ROVER02-5」個展 ギャラリー OM
「熱より08-6」個展 ギャラリーせいほう
「左手の能力より」ねりまの美術'91—彫刻の現在— 練馬区立美術館
「ROVER03-1」TUKUBA 現代美術の磁場
2003展 茨城県つくば美術館
「ROVER03-2」NEW HEAVY展 神戸市CAP HOUSE
「ROVER05-1」麻生の道彫刻展 川崎市「能力I」雨引の里と彫刻2008 桜川市茨城

社会活動

第12回全国健康福祉祭ふくい大会美術展
彫刻部門審査員
ワークショップ 福井市立美術館



金澤健一

非常勤

生年月日

昭和31年02月11日生

略歴

昭和54年03月
東京藝術大学美術学部工芸科卒業
昭和56年03月
東京藝術大学大学院美術研究科修了
平成元年～03年
東京藝術大学美術学部デザイン科非常勤講師
平成24年04月
多摩美術大学美術学部工芸学科非常勤講師
平成24年04月
東北芸術工科大学美術科非常勤講師
平成28年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

工業製品としての金属を出発点とし、幾何学的な構成作品や、形と音の関わりをテーマとした作品を制作している。また、それらの作品をとおしてパフォーマンスや音楽家、舞踊家とのコラボレーションも行っている。金属という素材をいろいろな視点から観察し、造形の可能性やその展開を探っている。

美術教育研究の授業では、作家として美術教育の在り方を模索し、教える側と学ぶ側を超えた双方向的な授業形態を取り入れ、美術の本質や役割を共に考える授業としている。

研究業績

「第1回岡本太郎記念現代芸術大賞」準大賞
「はがねの変相—金沢健一の仕事」川崎市岡本太郎美術館
「共鳴する空間 金沢健一 音のかげら」新潟市新津美術館
「第20回記念 現代日本彫刻展」宇部市野外彫刻美術館 毎日新聞社賞、市民賞
「金沢健一「音のかげら」とワークショップ展」川越市立美術館
「金沢健一展 出発点としての鉄 1982—2011」川越市立美術館

社会活動

美術館、小学校、科学館におけるワークショップ及び大学の特別講義。



金子啓明

非常勤

生年月日

昭和22年03月01日生

略歴

昭和48年03月
慶應義塾大学文学研究科修士課程修了
昭和51年05月
東京国立博物館美術課彫刻室研究員
平成07年04月
東京国立博物館法隆寺宝物室長
平成15年04月
東京国立博物館事業部長
平成18年09月
東京国立博物館副館長
平成20年04月
興福寺国宝館長
平成22年04月
慶應義塾大学教授（有期）、日本大学芸術学部客員教授

研究領域

日本彫刻史を中心とする日本美術史の研究。文化史の新しいデザインの企画。博物館・美術館等における企画事業（実績：「東京国立博物館・法隆寺宝物館設立事業」、特別展「仏像 一木にこめられた折り」、「国宝 薬師寺展」、「国宝 阿修羅展」、「国宝 仏頭展」他）

研究業績

（著書）『運慶と快慶』小学館、『文殊菩薩』至文堂、『興福寺の仏たち』東京美術、『法隆寺の仏たち』東京美術、『仏像のかたちと心—白鳳から天平へ—』岩波書店、『運慶のまなざし』岩波書店、他。

社会活動

デジタル文化財創出機構理事、MOA美術館・箱根美術館理事、他。



木下 晋

（木下 進）

非常勤

生年月日

昭和22年06月04日生

略歴

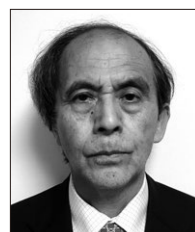
平成11年04月
東京大学工学部建築学科非常勤講師
平成13年04月
武蔵野美術大学造形学部非常勤講師
平成21年04月
金沢美術工芸大学大学院教授
平成25年04月
武蔵野美術大学造形学部客員教授
平成26年04月
金沢美術工芸大学客員教授
平成27年04月
日本大学芸術学部・日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師
平成29年04月
金沢美術工芸大学名誉客員教授

研究領域

私の作品は鉛筆画材10Hから10Bも22段階の濃淡を使い分けて制作している。だが美術の分野では、油絵の具より古い伝統ながらデッサン等の補足的画材の域を出ていないだろう。未だに文房具が主流なのだ。しかし最近画材としての鉛筆が見直され、今年から高校3年生の美術教科書にも紹介されている。私も携わるものとして啓蒙したいと思うのだ。
中学1年道德教科書記載

研究業績

個展・池田20世紀美術館、平塚美術館、沖縄県立博物館美術館
グループ展—「瀬戸内芸術祭」豊島／香川、「東京+ベルリンコミュニケーション展」FREIES美術館／ベルリン、「鉛筆のチカラ・木下晋・吉村芳生展」熊本市現代美術館／熊本
北日本新聞芸術選奨（富山県）受賞、紺綬褒章
横浜トリエンナーレ展出品
第1回「六本木クロッシング展」森美術館
「エックホム」国立国際美術館企画
東京国立近代美術館作品買上げ



木村三郎

非常勤

生年月日

昭和23年03月21日生

略歴

昭和47年03月
東京大学文学部仏文学科卒業
昭和50年03月
東京大学大学院美術史学専攻修士課程修了
昭和56年01月
パリIV大学（ソルボンヌ）文学博士取得
平成03年04月
放送大学客員教授（平成11年まで）
平成04年04月
日本大学芸術学部教授
平成07年04月
コレージュ・ド・フランス招聘客員研究員
平成10年04月
東京大学文学部講師
平成28年04月
金沢美術工芸大学客員教授
平成30年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

西洋美術史。その中でも、フランスの画家ブッサンを中心とした西洋・日本のバロック時代の図像学とアート・ドキュメンテーションを専門とする。特に、学部で、各学科の諸芸術や、文学などの人文科学を先に学んで来た学生諸君たちに、短期・集中的に西洋美術史の基礎を習得させるための方法論を特色としている。

研究業績

「ダヴィッド」美術出版社 渋沢・クロード賞
《La source écrite du Miracle de saint François-Xavier de Poussin》, La Revue du Louvre, 1988, no.5-6
「西洋絵画作品名事典」三省堂
「名画を読み解くアトリビュート」淡文社
「ニコラ・ブッサンとイエズス会図像の研究」中央公論美術出版
「17世紀フランスにおけるオウィディウスの挿絵と絵画についての総合的研究」（科研報告書・http://www.ovidmeta.jp アートドキュメンテーション学会同僚進賞）
「西洋近代絵画の見方・学び方」左右社
「フランス近代の図像学」中央公論美術出版
「イメージ制作の場と環境—西洋近世・近代美術史における図像学と美術理論」中央公論美術出版

社会活動

デジタル情報記録管理協会理事
金沢美術工芸大学名誉客員教授

Fine Art and Design



蔵屋美香

非常勤

略歴

女子美術大学卒業。千葉大学大学院修了。
東京国立近代美術館勤務を経て、2020年より横浜美術館館長。「ぬぐ絵画 日本のヌード1880-1945」(2011-12年、東京国立近代美術館)で第24回倫理美術奨励賞。第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示「Koki Tanaka: Sharing Uncertainty and Other Collective Acts」で特別表彰。

研究領域

日本近代洋画:明治期に西洋由来の技術と思想が輸入され、日本の社会に定着するまでの経緯を研究。黒田清輝、萬鉄五郎、岸田劉生など。
1960-70年代の美術動向:主に「芸術の非物質化」と総称される表現を研究。高松次郎など。
現代美術:歴史的な視点に立ち、今日の表現のありようを考察。
美術館論:その歴史と今日的なあり方について考察。

研究業績

単著「もっと知りたい 岸田劉生」(東京美術、2019年)
共著「現代アート10講」(蔵屋美香「ポスト3.11の美術—美術と社会はどう関わるべきか」、田中正之編、武蔵野美術大学出版局、2017年)
展覧会企画「熊谷守一:生きるよろこび」(東京国立近代美術館他、2017-18年)
展覧会企画「Koki Tanaka: Sharing Uncertainty and Other Collective Acts」(第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館、2013年)
展覧会企画「ぬぐ絵画:日本のヌード1880-1945」(東京国立近代美術館、2011-12年)



栗芝正臣

非常勤

生年月日

昭和48年02月25日生

略歴

平成07年03月
武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒業
平成07年04月
富士通株式会社勤務(契約)
平成08年04月
武蔵野美術大学基礎デザイン学科助手
平成12年04月
武蔵野美術大学デザイン情報学科雇員
平成14年04月
武蔵野美術大学映像学科非常勤講師
日本大学芸術学部デザイン学科非常勤講師
専修大学ネットワーク情報学部非常勤講師
平成16年03月
青山学院大学大学院文学研究科修士課程修了
平成17年04月
専修大学ネットワーク情報学部専任講師
平成20年04月
専修大学ネットワーク情報学部准教授
平成29年04月
デルフト工科大学客員研究員

研究領域

情報デザイン、インタラクションデザイン、ソーシャルデザイン、デザイン教育。地方自治体、地域の科学館、病院、児童施設など公共性の高い場において、当事者や多様なステークホルダーと協働して、サービスやプロダクトのデザインをする方法の研究開発と実践を行っている。

研究業績

「アイデアとユースナリオを共創するための支援ツールの開発」情報科学研究no.34
「能動的に見ることを育む—考現学的視点とフィールドワークを通して—」専修ネットワーク&インフォメーションno.9
「技術的熟達者から反省的実践家になるために—「問い」を生む情報デザインの学びから—」専修ネットワーク&インフォメーションno.6
「「理解を育む」ことからみる情報デザイン教育のあり方」専修ネットワーク&インフォメーションno.4

社会活動

川崎市社会教育委員会 青少年科学館専門部会委員



小林昭世

非常勤

生年月日

昭和30年10月21日生

略歴

昭和56年03月
武蔵野美術大学大学院修士課程修了
平成04年04月
武蔵野美術大学専任講師
平成08年04月
武蔵野美術大学助教
平成12年04月
武蔵野美術大学教授
この間、(株)三菱総合研究所社会システム部、育英工業高等専門学校講師、イリノイ工科大学研究員、日本大学、名古屋大学大学院、慶応義塾大学大学院、早稲田大学等非常勤講師。

研究領域

デザイン、特に、情報デザインやインタラクションデザインを対象とするデザイン方法論とその理論。また記号論に基づくデザイン理論研究。デザインという概念の成立と変遷に関する歴史、デザイン史。色と形についての、美術、表象文化、生物学等の学際的な思想とその歴史。

研究業績

『意味論的転回—デザインの新しい基礎理論』共訳、『現代デザイン事典2010』・『現代デザイン事典2015』共著、『かたち・機能のデザイン事典』共著、『グラフィックデザイン』共著、『デザイン科学事典』共著、『デザインに哲学は必要か』共著等

社会活動

日本デザイン学会、日本記号学会、ANBD (Asia Network Beyond Design) 等。



肥田不二夫

非常勤

生年月日

昭和28年10月16日生

略歴

昭和52年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和52年04月
赤井電機株式会社勤務
平成05年04月
日本大学芸術学部専任講師
早稲田大学理工学部非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部教授
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域

専攻分野: インダストリアルデザイン
医療機器、福祉機器等これからの高齢社会における道具、機器をはじめとし、生活に関わる様々なものをユニバーサルデザインの視点から調査分析を行ない、新たな製品開発及びそのデザイン手法、方法論等の、実践的研究を行っている。

研究業績

「産学コラボレーションに於けるデザイン教育効果」第58回日本デザイン学会研究発表大会
「ハンドドライヤーから考える衛生環境」第61回日本デザイン学会研究発表大会
「医学とデザイン学の融合による次世代型呼吸器診断ツールの開発」日本大学学術研究助成金総合研究(2015.4~2017.3)
産学連携デザインプロジェクト 16「車載オーディオ&エアコン操作システムのデザイン開発」(株)ナガシマ化学工業所(2017.3)
「呼吸器プロダクトの新たな可能性について(4)」日本大学芸術学部紀要第73号(2021.3)
「UD視点による呼吸器プロダクトの可能性について—6」第66回日本デザイン学会発表大会(2021.6)

社会活動

日本デザイン学会会員
人間工学会アーゴデザイン部会会員
(財) 共用品推進機構メンバー



作田 富幸

非常勤

生年月日
昭和35年01月22日生

略歴
昭和59年03月
東京造形大学美術学部版画専攻卒業
平成09年04月
共立女子大学非常勤講師
平成12年04月
創形美術学校非常勤講師
平成19年04月
横浜美術短期大学非常勤講師
平成21年04月
東京藝術大学非常勤講師
平成26年04月
女子美術大学非常勤講師
平成30年04月
東京造形大学非常勤講師

研究領域
専攻分野：版画
銅版画を中心にした制作をしている。個人的な経験や思考をもとに、人がみな感じている喜びや悲しみや孤独感などに肉薄し、昇華しようと考えている。

研究業績
第53回日本版画協会展、協会賞
第6回高知国際版画トリエンナーレ、大賞
第16回中華民国国際版画・素描ビエンナーレ、銀賞
第17回バルナ国際版画ビエンナーレ（ブルガリア）1等賞
個展 東急Bunkamuraギャラリー（2015）
個展 エカテリンブルグ美術館（ロシア）（2018）

社会活動
日本版画協会会員
日本美術家連盟会員



鷹尾 俊一

非常勤

生年月日
昭和25年02月18日生

略歴
昭和48年03月
日本大学芸術学部美術学科中退
昭和48年04月
彫刻家
平成10年10月
創価大学教育学部非常勤講師
平成13年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成27年04月
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師

研究領域
人体彫刻、人間像を主たる研究分野としている。素材はブロンズ及び樹脂を中心に制作している。
彫刻の長い歴史の中で人間像は、多くの作品と経験を持っているが、彫刻としての人間像はその内に内包される生命とその形の問題、それを形作る物質の問題、それが存在する空間の問題として捉えることが出来るだろう。この問題を変化と関係性という視点から見つめ、現代における人間像の新たな意味と可能性について探っている。

研究業績
第16回昭和会展 優秀賞 日動画廊 東京
神戸具像彫刻大賞展 優秀賞 神戸ポートアイランドパーク 兵庫
第3回高村光太郎大賞展 特別優秀賞 美ヶ原高原美術館 長野
「秘められたフォルムを刻む」鷹尾俊一彫刻展 西武アートフォーラム 東京
丸の内仲通り彫刻展 有楽町 東京
TUES1996 鷹尾俊一彫刻展 美ヶ原高原美術館 長野
鷹尾俊一彫刻展「像」 A&Dギャラリー、アートギャラリー 日本大学芸術学部 東京

社会活動
公益財団法人 東京富士美術館 理事



田口 文哉

非常勤

生年月日
昭和52年05月27日生

略歴
平成12年03月
武蔵大学人文学部日本文学科 卒業
平成15年03月
日本大学芸術学部芸術学研究科造形芸術専攻博士前期課程修了
平成21年03月
日本大学芸術学部芸術学研究科芸術専攻博士後期課程修了
平成21年12月
さいたま市 学芸員（文化部大宮盆栽美術館）

研究領域
日本のイメージ文化史（美術史）を基盤に、中近世の絵画表現を主たる研究領域として、特に図像学—図像（イメージ）の形状、形態に着目し、その変遷や表現意図等を共時的・通時的に分析—という研究手法を用いて、絵画表現の可能性を巡る研究を行っている。
主たる研究内容の一つは、いわゆる「擬人化」表現について。中世の御伽草子から現代の子ども向け絵本を対象に、図像学的見地から、「擬人化」がどのように物語を語るのかを考察してきた。
二つ目は、勤務先のさいたま市大宮盆栽美術館における、日本及び海外における盆栽の歴史・文化に関する考証。美術史研究の視点から、海外研究者とも連携して盆栽文化史の構築を目指している。

研究業績
「『擬人化』の図像学、その物語表現の可能性について—御伽草子『弥兵衛鼠』を主たる対象として—」、『美術史』160号
「盆栽の図像学—浮世絵に見る江戸・明治の盆栽」、『近代盆栽』連載
「盆栽の物語—盆栽のたどった歴史」大宮盆栽美術館
「山BONSAN—屏風に息づく中世の盆栽」大宮盆栽美術館
「海を越えた盆栽家 吉村西二—ニューヨーク、1958」大宮盆栽美術館

社会活動
美術史学会会員
盆栽文化等に関する出演・解説、講演活動



寺内 曜子

非常勤

生年月日
昭和29年07月27日生

略歴
昭和52年03月
女子美術大学芸術学部造形学専攻卒業
昭和53年03月
女子美術大学芸術学部造形学専攻研究科修了
昭和56年07月
英国 Saint Martin's School of Art 彫刻専攻 Postgraduate Advanced Course 修了
昭和58年09月-昭和59年08月
ヘンリー・ムーア財団フェローとして、アーティスト・イン・レジデンス（ロンドン）
平成02年02月-平成09年01月
英国 Winchester School of Art 非常勤講師
平成11年04月-平成13年03月
実践女子短期大学非常勤講師
平成14年10月-平成19年03月
愛知県立芸術大学美術学部油画専攻助教授
平成19年04月-令和02年03月
愛知県立芸術大学美術学部油画専攻教授
令和02年04月-
愛知県立芸術大学名誉教授

研究領域
専攻分野：美術（彫刻・インスタレーション）
「物」を創るというよりも、「事」から必然的に表れる形や状況を提示する方法で制作をしている。観客の立つ展示空間ごと巨大な作品に取り込んでしまう場所限定のインスタレーションで、見える世界がいかに見えないままにあるかを体験させる場を提供する等、素材や媒体にこだわらずに、私たちの世界認識の限界を具現化することを試行している。

研究業績
「The Sculpture Show」Hayward Gallery
「色彩とモノクローム」東京国立近代美術館
「空間体験」国立国際美術館
＜個展＞ かんらん舎／Victoria Miro／ギャラリー小柳／Chisenhale Gallery／メンヒェングラッドバッハ市立美術館 他
＜パブリックコレクション＞国立国際美術館／Victoria& Albert Museum 他多数

社会活動
第47回神奈川県美術展審査員
国際芸術祭「あいち2022」組織委員会アドバイザー会議委員

Fine Art and Design



西尾 彩

非常勤

生年月日
昭和47年05月19日生

略歴
平成07年03月
武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学
科卒業
平成13年07月
Guildford College of Further & Higher
Education, Diploma in Fine Bookbinding
and Conservation修了
平成14年07月
London College of Printing, BA Book
Arts and Crafts修了
平成15年09月
文化庁芸術家在外研修員(英国)
平成16年09月
武蔵野美術大学非常勤講師
平成25年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
西洋の伝統的な製本技術をベースに、少数
の特装本などの製本・製函を行なっている。
本の形態や特性を生かして作品の魅力をより
高めることや、作品との接し方の可能性につ
いて、制作を通じて取り組んでいる。

研究業績
The Bookbinding Competition 2001
Best Book in the Competition
大英図書館
The Bookbinding Competition 2004
Folio Society Prize for the Set Book
大英図書館
Designer Bookbinders International
Competition 2009
ボドリオン図書館
公益財団法人服部植物研究所
展示物制作



西川 潔

非常勤

生年月日
昭和21年05月27日生

略歴
昭和44年03月
東京教育大学教育学部美術学科卒業
昭和46年03月
東京教育大学教育学部研究科修士課程修了
昭和54年07月
筑波大学講師芸術学系
平成08年04月
筑波大学教授芸術学系
平成09年03月
博士(デザイン学)取得(筑波大学)
平成16年04月
国立大学法人筑波大学芸術専門学群長
平成21年04月
国立大学法人筑波大学副学長
この間信州大学、長崎大学、愛知県立芸術大
学、武蔵野美術大学の非常勤講師や銘伝大学、
ブライントン大学の客員教授を務める

研究領域
視覚伝達デザイン分野。特に環境に関わるサ
イン計画、環境グラフィック、色彩計画、屋外
広告景観等の調査及び制作に努める。また
Shared Spaceの研究にも取り組んでいる。

研究業績
著書:「広告景観」2015 ぎょうせい「屋外広
告の知識・デザイン編」監修/執筆 2006 ぎょ
うせい「医療施設のサイン計画デザインマ
ニュアル」2002 学芸出版社「ビレッジ サ
イン/英国フォークロアのデザイン」(共著)
1987 玉川大学出版会
学術論文:「交通機関のサインフェイスデザ
インリニューアル試案」(共著) 2005 筑波大学芸
術学研究(JR東日本と共同研究成果の一部)
制作:「横浜市立市民病院サイン計画ディレク
ション」共同 2019「ひたち医療センターサ
イン・アート計画」2014「東京都立健康長寿
医療センターサイン・アート計画」2013「文
京区サイン計画」共同 2012「筑波大学学生
宿舎色彩計画」共同 2011「つくば市サイン
計画」共同 2009(日本デザイン学会作品賞)
社会活動:「首都高中央環状線換気棟デザイン
選考委員」共同 2010 グッドデザイン大賞
守谷市景観審議会会長
日本デザイン学会名誉会員



野口玲一

非常勤

生年月日
昭和39年08月13日生

略歴
昭和63年03月
東京芸術大学美術学部芸術学科卒業
平成04年03月
東京芸術大学大学院美術研究科修了
平成05年04月
東京都新美術館準備室(平成07年04月から東
京都現代美術館) 学芸員
平成08年10月
東京芸術大学芸術資料館(平成11年04月から
大学美術館) 助手
平成16年04月
文化庁 芸術文化課調査官
平成23年04月
三菱一号館美術館 学芸員

研究領域
日本の近世から近代の絵画史、その延長上
にある現代美術。日本近世絵画/浮世絵/版画/
日本画/近代絵画/現代美術。専門職と行政職
の経験から、フィールドワークに基づく美術
行政や美術館についての研究を行う。

研究業績
「1964年の日本美術—アンフォルメル」の影、その
後の展開—、『日本の美術—よみがえる1964
年』展図録、東京都現代美術館、1966年。『カリ
キュラムとしての自画像とその変貌』、『＜洋
画＞の青春群像—油画的卒業制作と自画像』
展図録、東京藝術大学大学美術館、2002年。
『現代美術にみる浮世絵』、『浮世絵Floating
World 珠玉の斎藤コレクション』展図録、三
菱一号館美術館、2013年。『コンドルと曉斎
が遺したもの—フェノロサ、芳崖と対して』、
『画鬼・曉斎—KYOSAI 幕末明治のスター絵
師と弟子コンドル』展図録、三菱一号館美術館、
2015年。『加山又造—過去と現在の対話』、『加
山又造展—生命の煌めき』展図録、アート・ベ
ンチャー・オフィスショウ、2017年。

社会活動
a r t-Link 上野・谷中 実行委員
(公財)美術文化振興協会 評議員
版画学会 運営委員
日本版画協会 外部理事
アートアワードトーキョー丸の内 審査員



松下サトル(松下 悟) 非常勤

生年月日
昭和32年12月19日生

略歴
昭和56年03月
東京芸術大学美術学部絵画科卒業
昭和58年03月
東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了
昭和63年04月
創形美術学校非常勤講師
昭和63年04月
女子美術大学非常勤講師
昭和63年04月
女子美術大学短期大学部非常勤講師
平成24年04月
了徳寺大学非常勤講師
平成25年04月
東洋美術学校非常勤講師
平成26年04月
多摩美術大学非常勤講師
平成26年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
専攻分野: 版画
日本の伝統的な水性木版画技法を使用して木
版画を制作している。記号的な人物や静物・風
景などを組み合わせて、レトロなイメージを
模索している。

研究業績
第49回日本版画協会展奨励賞
Contemporary Japanese Printmakers
大英博物館
第2回さっぽろ国際現代版画ビエンナーレ展
大日本印刷賞
第3回川上澄生美術館木版画大賞展準大賞
日本の木版画100年展名古屋美術館

社会活動
日本版画協会会員
版画学会会員



松本 有

非常勤

生年月日
昭和27年12月02日生

略歴
昭和53年03月
東北工業大学工学部工業意匠学科 卒業
昭和59年10月
フォルムデザイン有限会社を設立、
代表取締役社長
平成15年07月
株式会社フォルム に社名及び組織変更
平成17年04月
東北工業大学ライフデザイン学部兼任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部デザイン学科非常勤講師
平成22年04月
日本大学芸術学部デザイン学科ゼミ担当講師
平成22年04月
長岡造形大学
プロダクトデザイン学科非常勤講師
平成27年04月
青山学院大学
法学研究科ビジネス法務専攻非常勤講師
平成27年11月
放送大学非常勤講師
令和03年04月
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師

研究領域
デザインにおける知的財産権の活用や、デザインマネジメント。商品開発（企画、リサーチ、外観デザイン、内部機構、設計、量産サポート、販売サポート）。開発分野は医療機器、家庭用品、文具、ベビー用品、ペット用品、車両関係、地域開発まで多岐にわたる。

研究業績
OXO社 POP コンテナ
三菱レイヨンクリンスイ社 浄水器
郵便事業株式会社 集配用キャリアボックス
貝印社 セレクト100シリーズピーラー
良品計画社 ジョイントタップコンセント
等をデザイン開発。手がけた製品は、
Goodデザイン賞、IF universal design、
Red dot design award等、国内外の賞を多数受賞。

社会活動
特許庁/特許等取得活用支援マネジメント
強化事業 委員
巡回特許庁PR検討委員会 委員
「チーム伴走型知財経営モデル支援事業」
運営委員会・委員



八木なぎさ (篠崎なぎさ) 非常勤

生年月日
昭和36年06月26日生

略歴
昭和60年03月
女子美術大学芸術学部絵画科卒業
昭和62年03月
多摩美術大学美術研究科(版画)修了
平成05年10月
横浜ファッションデザイン専門学校講師
平成10年04月
多摩美術大学非常勤講師
平成12年04月
女子美術大学短期大学部非常勤講師
平成19年04月
創形美術学校非常勤講師
平成25年04月
女子美術大学短期大学部准教授
平成28年04月
女子美術大学短期大学部教授

研究領域
主にモノトーンの平版(リトグラフ)を制作している。近年は版によって一度定着したイメージを複数枚合わせることで、イメージの解放と閉鎖を繰り返す。その行為によって一つの静止したイメージが攪拌され、再び静止していく過程で、様々なものの拮抗する力が積み重なり、より緊張感が高まっていくことに興味を持っている。

研究業績
表層の冒険ー抽象のミュートロギーギャラリー一鶴(東京)
第1回中日現代版画展中国版画博物館(深圳)
現代日本版画展 国立ドゥブロンニク現代美術館(クロアチア)
今日の版画・TENー10人の版画家がおくる今と明日へのメッセージー
南魚沼市立今泉博物館(新潟)
第5回国際グラフィックアートトリエンナーレソフィア(ブルガリア)
第12回具象版画展グランプリ
第55回版画展版画協会賞

社会活動
日本版画協会理事
版画学会会員
学生相談学会会員
日本美術家連盟会員



山中敏正

非常勤

生年月日
昭和32年生

略歴
昭和55年03月
千葉大学工学部工業意匠学科卒業
昭和57年03月
千葉大学工学研究科工業意匠学修了
昭和57年04月
旭光学工業株式会社(現リコー株式会社)工業デザイン室
平成02年10月
イリノイ工科大学特別研究員
平成06年02月
筑波大学芸術学系講師
平成14年04月
デルフト工科大学招待研究員
平成17年03月
博士(感性科学)(筑波大学)
平成17年04月
筑波大学人間総合科学研究科教授
平成23年10月
筑波大学芸術系教授

研究領域
デザインプロセスにおける感性の働き方、感性情報の働きおよび感性による評価について、デザイン方法論と人間工学/認知科学/感性科学の立場から研究を進めている。また、情報デザイン/プロダクトデザインの実践に、感性科学の知見を応用している。

研究業績
学術論文・著書
山中敏正:カメラデザインにおける設計要件の構造的分析,日本デザイン学会,1989
山中敏正:プロダクトデザインの広がり 第2部 統合化技術としてのデザイン、第3部 デザインの仕事は考えること、工業調査会,2000
LEVY Pierre, YAMANAKA Toshimasa, Kasnei Studies Description and Mapping through Kansei Study Keywords, Kasnei Engineering International Journal vol.8 No.2, Japan Society of Kansei Engineerig, 2009/05

社会活動
国際デザイン学会連合会長(2020-)
日本デザイン学会会長(2012-2015)
グッドデザイン賞審査員(2001, 2003)
日本感性工学会参与



吉岡正人

非常勤

生年月日
昭和28年08月15日生

略歴
昭和55年03月
武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業
昭和57年03月
筑波大学大学院芸術研究科修了
昭和60年04月
埼玉大学教育学部講師
昭和61年04月
埼玉大学教育学部助教授
平成04年08月
文化庁芸術家在外研修員として渡伊(〜平成05年08月)
平成09年04月
東京学芸大学大学院連合学校博士課程S教員併任(〜平成31年03月)
平成13年04月
埼玉大学教育学部教授(〜平成31年03月)
平成24年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成28年04月
武蔵野美術大学非常勤講師(〜平成31年03月)
平成31年04月
埼玉大学名誉教授
平成31年04月
早稲田大学理工学術院非常勤講師(〜現在)

研究領域
専攻分野:絵画(洋画)
主に卵テンペラと油彩による絵画作品を制作している。平面としての強さと美しさを求めており、その絵画性をもって深い精神性の追求を目的としている。古典から近代の絵画を研究し絵の具の扱い方と平面性の関係を研究している。

研究業績
二紀展に於いて文部科学大臣賞他受賞
第3回前田寛治大賞展大賞受賞(1995年)
個展「バラツツオブレトリオ」(イタリア1998年)
個展「日本橋三越本店」(1991年より7回)
「思い出のファンタジー二人展」(バラツツオベネチア国立美術館・イタリア)
作品収蔵・文化庁、埼玉県近代美術館他
著書「モネ・名画に隠れた謎を解く」(中央公論新社・平成19年) 他

社会活動
一般社団法人二紀会理事
越生町教育委員会委員(平成7年〜16年)

Fine Art and Design



渡部 葉子

非常勤

生年月日

昭和36年08月18日生

略歴

昭和62年09月

東京都美術館就職(学芸員)

昭和63年03月

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了

平成04年04月

新美術館準備室に移り、平成07年03月東京都

現代美術館開館に伴い同館学芸員となる。

平成17年03月

東京都現代美術館退職。

平成18年04月

慶應義塾大学アート・センター専任教員兼キュ

レーターとなり現在に至る。

平成31年04月

慶應義塾ミュージアム・コモンズ副機構長を

兼任

研究領域

近現代美術史。特に1960年代末―1970年代初頭に研究的関心を置いているが、近年は展覧会史研究の観点から研究に取り組んでいる。慶應義塾大学アート・センター所管のアーカイブを通して、現代芸術のアーカイブの問題にも関わり、アーカイブと展示やワークショップを結びつけた実践に取り組んでいる。また、美術館のマテリアルを教育に活かす方法論としてのObject Based Learning にも関心を広げ、その実践にも取り組んでいる。

研究業績

『展覧会企画と出版』『構造と記憶——戸谷成雄・遠藤利克・剣持和夫』（東京都美術館、1991年）

『レボリューション／美術の60年代』（東京都現代美術館、1995年）

『同時代の眼V プリンキー・パレルモ』（慶應義塾大学アート・センター以下KUAC、2015年）

『東京ビエンナーレ' 70 再び』（KUAC、2016年）

『Standing Point 1 寺内曜子』（KUAC、2017年）

『河口龍夫 鯉呼吸する視線【記録集】』（KUAC、2021年）

『河口龍夫 無呼吸』（KUAC、2021年）

社会活動

美術史学会会員

美学会会員

日仏美術学会会員

近現代建築資料館運営委員 他

Musical Arts



伊藤弘之

専任

生年月日
昭和38年04月01日生

略歴
昭和61年03月
山形大学教育学部卒業
昭和62年08月
東京音楽大学研究科中退
平成01年06月
カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部
大学院修士課程修了(MAを得る)
平成06年09月
カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部
大学院博士課程修了(PhDを得る)
平成14年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成22年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
作曲。「揺れるイメージ」「フラジャイルな美しさ」というコンセプトのもと、独奏、室内楽、合唱、オーケストラと多様な編成で作品を書いている。邦楽器を用いた作品もある。細部まで緻密に構成し四分音を多用する音響づくりが特徴的である。現代の記譜法の研究、作曲ツールとしてのコンピュータの使用、コンサートのプロデュース活動なども行っている。

研究業績
受賞歴: 芥川作曲賞、ヌオヴェシクロニ国際作曲コンクール第1位、他
作品: オーケストラのための「ミラー II」(サントリー音楽財団委嘱、新日本フィルハーモニー交響楽団により初演)、「弦楽四重奏曲」(武生国際音楽祭委嘱、アルディッティ弦楽四重奏団により初演)、他多数
CD: 「伊藤弘之作品集:Swaying time, Trembling time」(ミュージックステイブ)、「伊藤弘之作品集:Swaying into Darkness」
「伊藤弘之合唱作品集」(フォンテック)、他
論文: "Swaying Sensation and Fragile Beauty" in *Music of Japan Today* (Newcastle: Cambridge Scholars Publishing, 2008), 6-11.

社会活動
芥川作曲賞選考委員
日本音楽コンクール(作曲部門) 審査員
武生国際作曲ワークショップ講師
アンサンブル・コンテンポラリーα副代表



川上 央

専任

生年月日
昭和43年08月08日生

略歴
平成14年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程中退
平成17年07月
フランス国立音楽音響研究所(IRCAM) 招聘研究員
平成24年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
生態音響学をベースにした音の研究。
音とは物質の振動によるものであり、物質の振動には励起が必要である。この生態音響学的な考え方をベースにして、振動に関わる諸情報を分析し、コンピュータによってシミュレーションを行っている。また、バーチャル環境とリアル環境での音の知覚の違いを検討することによって、より人間の知覚に基づいた音の研究を行う。

研究業績
・小西、福本、三浦、三戸、川上、「平均モーシオン法を用いたスネアドラム練習曲における感情演奏の動作解析」、音楽知覚認知研究、17(1&2), pp.35-40, 2012
・Tardieu, J., Susini, P., Poisson, F., Kawakami, H., McAdams, S. (2009). The design and evaluation of an auditory way-finding system in a train station, *Applied Acoustics*, Vol.70 (9), 1183-1193
・Kawakami, H. (2009). Research on reduction of unpleasantness while continuous listening to Acoustic Signs. *Proceedings of the 10th Western Pacific Acoustics Conference*.

社会活動
日本音響学会幹事
日本音楽知覚認知学会常任理事



齊田正子

専任

生年月日
昭和33年09月25日生

略歴
昭和57年03月
東京芸術大学音楽学部声楽科卒業
昭和59年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
昭和63年04月
昭和音楽大学非常勤講師
平成04年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了(博士(音楽))
平成12年04月
日本大学芸術学部研究所助教授(非常勤)
平成20年04月
日本大学芸術学部任期制教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
学生からの研究テーマとして、修士課程ではヴェルディのオペラ、博士後期課程では19世紀イタリアペルカントオペラを取り上げ、オペラにおける発声法及び歌唱法について研究を続けている。国際文化教育交流財団の奨学生としてイタリアにて(1984~86) 研鑽を積み日本における数々のオペラやコンサートへの出演を通し、留学前からの課題としての現代における日本のオペラのあり方及び上演方法について、その発声法及び演奏法について研究を続けている。

研究業績
1. 第35回ミュンヘン国際音楽コンクール声楽部門第2位入賞他、国内外のコンクールにて入賞
2. エクソンモービル音楽奨励賞他数々の賞を受賞
3. 藤原歌劇団公演オペラ「椿姫」ヴィオレッタ役でデビュー後、数々のオペラコンサートに出演

社会活動
国際文化教育交流財団評議委員
日本演奏連盟会員
藤原歌劇団正団員



高久 暁

専任

生年月日
昭和37年11月14日生

略歴
昭和62年03月
東京大学理学部地学科卒業
平成元年03月
東京大学文学部第一類美学芸術学専修課程卒業
平成03年04月
東京芸術大学大学院音楽研究科修了
平成13年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
20世紀西洋芸術音楽史・演奏史。批判校訂版楽譜の作成も行う。過去に手掛けた研究主題として、近現代ギリシャ芸術音楽史研究、亡命移民ロシア人音楽家研究、日本での外来音楽家の活動に関する研究、近現代日本の作曲家研究、台湾での日本の音楽文化の影響についての研究など。またアジア諸国におけるピアノ文化に関心を持ち、歴史的研究やフィールドワークを行っている。

研究業績
著書
『日本戦後音楽史』(平凡社・共著)
『青春の音楽・原田力男の仕事』(共著)
『篠原眞の電子音楽』(Engine Books・共著)
校訂・編集楽譜
ニコライ・メトネル『忘れられた調べ 第1巻』op.38 (全音楽譜出版社)
マルク=アンドレ・アムラン『コン・インティミッシモ・センチメント』(音楽之友社/Edition Peters)
訳書
サックス『トスカニーニの時代』
バーノ『回想・モスクワの音楽家たち』(音楽之友社)
クログ『ギリシャ近現代史』(新評論)

社会活動
日本音楽学会会員、東洋音楽学会会員、日本ギリシャ語・ギリシャ文学会会員
郭芝苑音楽協進會(台湾) 理事、京都国際音楽コンクール顧問
音楽評論活動

Musical Arts



田代幸弘

専任

生年月日

昭和33年06月15日生

略歴

昭和57年03月 日本大学芸術学部音楽学科卒業
昭和59年04月 日本大学芸術学部副手
昭和63年04月 日本大学芸術学部助手
平成05年04月 日本大学芸術学部専任講師
平成11年04月 日本大学芸術学部助教授
平成19年04月 日本大学芸術学部教授

研究領域

ピアノ奏法および教育法の研究
バロックでは、バッハ、古典派では、ハイドン、ベートーヴェン、ロマン派では、ショパン、シューマン、ブラームス、近・現代では、ラフマニノフ、スクリャービン、ドビュッシー、ラヴェルの楽曲を研究し、様式感、心理的高揚の表現法を探究する。ピアノ、ソロ曲に限らず、室内楽曲にまで幅を広げている。

研究業績

- ・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成04年11月 FM東京ホール
- ・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成11年12月 ルーテル市ヶ谷センター
- ・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成17年12月 IMAホール
- ・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成19年11月 オペラシティ・リサイタルホール
- ・オデッサ第6回室内楽フェスティバル2台ピアノ・リサイタル 平成25年11月

社会活動

- ・公益財団法人日本ピアノ教育連盟評議員
- ・北関東コンクール審査委員長
- ・国際デュオ協会理事
- ・日本演奏連盟会員



萩原貴子

(緒方貴子)

専任

生年月日

昭和45年09月25日生

略歴

平成06年03月 東京藝術大学音楽学部器楽科卒業
平成03年06月 ミュンヘン音楽大学中退
平成09年03月 東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程修了
平成09年09月 武蔵野音楽大学非常勤講師
平成12年04月 洗足学園音楽大学非常勤講師
平成27年09月 日本大学芸術学部非常勤講師
平成28年04月 日本大学芸術学部教授
平成28年04月 洗足学園音楽大学客員教授

研究領域

フルート奏法及び、フルート教育法研究。バロックから現代までの幅広いレパートリーに対応した演奏表現の実践。
“人の心に響く” “音を出す”ということが何であるか、特に、管楽器奏法の基礎である呼吸法、物理的に理にかなった体の動かし方と結びつけることを研究テーマにしている。

研究業績

第61回日本音楽コンクールに於いて、当時史上最年少優勝。加藤賞受賞。ソリストとして国内外の主要オーケストラや演奏家とコンチェルトや室内楽を演奏する。
CD 美空ひばりオン・フルート「愛燦燦」(日本コロムビア)
CD カルメンファンタジー2001(日本コロムビア)
CD モーツァルトフルート四重奏曲集 with ギルトブルク・モーツァルトテウム弦楽四重奏団〜トルコ行進曲〜(日本コロムビア)
CD アジアに吹く風(NHK-BSサウンドトラック) など録音活動は全24枚に及ぶ。
バンドジャーナル連載
ワンポイントレッスン

社樹活動

全日本学生音楽コンクール審査員
全日本吹奏楽コンクール審査員
大学評価・学位授与機構音楽部会委員
アジアフルート連盟理事



吉野大輔

専任

生年月日

昭和50年08月16日生

略歴

平成10年03月 中央大学文学部教育学科心理学コース卒業
平成12年03月 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程修了
平成15年03月 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了
平成15年04月 電気通信大学SVBL中核的研究機関研究員
平成17年04月 日本大学文理学部情報科学研究科ポスト・ドクター
平成21年04月 日本大学若手特別研究員
平成23年04月 埼玉医科大学神経精神科心理士
平成24年03月 放送大学大学院文化科学研究科臨床心理学プログラム修了
平成24年04月 日本大学芸術学部非常勤講師
平成29年04月 日本大学芸術学部准教授
令和03年04月 日本大学芸術学部教授

研究領域

実験心理学領域にて研究を行ってきたが、臨床心理学領域に転じてからは多くの心理相談業務に携わってきた。芸術表現と心理的な成長、心身症状の回復を研究テーマとしている。最近では特に意識と無意識のゆらぎ、洞察の過程、物語の役割に焦点を当てている。

研究業績

- ・Yoshino, D., Kimura, A., & Noguchi, K. Visual Illusion and Aesthetic Preference Have a Common Perceptual Structure: Prägnanz Tendency. Gestalt theory, 31, pp29-42, 2009.
- ・Yoshino, D., Idesawa, M., Kanazawa, S., & Yamaguchi, KM. Infant perception of the rotating Kanizsa square. Infant behavior and development, 33 pp196-208, 2010.
- ・自閉スペクトラム症における身体感覚への気づきの困難さに関する一考察 ～感覚統合不全がもたらす区切りのない世界と自我境界の不安定さ～ 日本大学芸術学部紀要 71, 75-80, 2020.

社会活動

臨床心理士・公認心理師・産業カウンセラー
山王教育研究所・監事
放送大学臨床心理学研究会評議員・監事



大寺雅子

専任

生年月日

昭和49年02月12日生

略歴

平成08年03月 武蔵野音楽大学音楽学部音楽教育学科 卒業
平成12年08月 Florida State University, School of Music, Master's Program in Music Therapy (フロリダ州立大学大学院音楽学部音楽療法専攻修士課程・米国) 修了
平成19年03月 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻博士後期課程 修了
平成22年04月 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻音楽音響医学分野 助教
平成23年03月 放送大学大学院文化科学研究科文化科学専攻修士課程臨床心理学プログラム 修了
平成27年04月 四国大学短期大学部幼児教育保育科 准教授 四国大学学生相談室 相談室長
平成31年04月 日本大学芸術学部 准教授

研究領域

専門領域は臨床心理学と音楽療法。高齢者を対象とした音楽療法の事例研究や音楽療法をめぐる諸問題に関する理論研究を行ってきた。また、大学生を対象とした学生相談に携わった経験から、芸術系学生を対象とした心理的支援に関する研究に取り組んでいる。

研究業績

編著 医学的音楽療法－基礎と臨床－ 平成26年07月 北大路書房
翻訳 対人援助のための受容的音楽療法 令和2年03月 北大路書房
論文 地方小規模私立大学に不本意入学した学生の不本意感にまつわる体験プロセス 令和元年11月 学生相談研究 40 (2)
論文 Clinical characteristics of home-based music therapy in supporting personhood in people with dementia. 令和2年09月 The Arts in Psychotherapy 70.

社会活動

臨床心理士、公認心理師、日本音楽療法学会認定音楽療法士、米国資格認定委員会認定音楽療法士(MIT-BC)。米国音楽療法協会学術誌 Music Therapy Perspectives 編集委員。



三戸 勇気

専任

生年月日

昭和53年08月11日生

略歴

平成13年03月 日本大学芸術学部音楽学科卒業
 平成15年03月 日本大学大学院芸術学研究科音楽芸術専攻修士課程修了
 平成18年03月 日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻博士課程修了(芸術学博士 取得)
 平成18年04月 文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業 ポスト・ドクトラル・フェロー
 平成22年04月 一橋大学大学院法学研究科情報技術助手
 平成24年04月 日本大学芸術学部助教
 平成27年04月 日本大学芸術学部専任講師
 平成31年04月 日本大学芸術学部准教授

研究領域

音楽心理学をベースとした音の研究。
 音楽の演奏における感情表現は、演奏において重要なポイントのひとつである。しかし、研鑽過程の演奏家では、この「感覚」を理解できないことが少なからず生じている。そこで、「感情」と、その感情を表現する「動作」、そしてそこから表出される「音」の関係を検討することにより、誰もがより良い演奏を目指していくための指標を提示し、演奏音そのものをデザインする契機となると考えた。その研究成果から今後の演奏音をデザインする過程までを検討を行う。

研究業績

・“Differences in the performance motion of several keyboard instruments”, International Symposium on Performance Science 2019, 2019
 ・「音楽演奏における音のデザインの可能性」, 日本音響学会誌, 74巻11号, pp.613-617, 2018

社会活動

・日本音響学会 音のデザイン分野 委員
 ・日本音楽知覚認知学会 幹事



今泉 久

非常勤

生年月日

昭和28年08月27日生

略歴

昭和51年03月 日本大学芸術学部音楽学科卒業
 昭和53年03月 日本大学芸術学部芸術研究所修了
 昭和58年04月 日本大学芸術学部助手
 昭和63年04月 日本大学芸術学部専任講師
 平成08年04月 日本大学芸術学部助教授
 平成18年04月 日本大学芸術学部教授
 平成31年04月 日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

指揮と打楽器を研究領域とする。指揮についてはこれまでオーケストラ、吹奏楽、オペラ、打楽器アンサンブル、フルートオーケストラ、合唱等の指揮活動を行ってきた。打楽器については独奏曲、打楽器合奏曲、オーケストラ等の打楽器パートの演奏法の研究をしている。「今泉久とパーカッション・グループ“打弾打団”」を主宰している。

研究業績

演奏会
 第2回打楽器リサイタル
 練馬文化センター小ホール 1987
 新星日本交響楽団演奏会
 五反田ゆうぼうとホール 1994
 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団特別演奏会 新宿文化センター大ホール2002
 今泉久とパーカッション・グループ“打弾打団”演奏会 浜離宮朝日ホール 2004
 フランス近代の室内管弦楽の愉しみ 石橋メモリアルホール 2004

社会活動

日本管打・吹奏楽学会会員
 吹奏楽コンクール審査員
 日本クラシック音楽コンクール審査員



岩宮 眞一郎

非常勤

生年月日

昭和27年11月22日生

略歴

昭和50年03月 九州芸術工科大学芸術工学部音響設計学科卒業
 昭和52年03月 九州芸術工科大学芸術工学専攻音響設計学専攻修了
 昭和52年05月 九州芸術工科大学芸術工学部助手(音響設計学科)
 平成15年10月 平成03年01月 九州芸術工科大学芸術工学部助教授(音響設計学科)
 平成10年04月 九州芸術工科大学芸術工学部教授(音響設計学科)
 平成15年10月 九州大学大学院芸術工学研究院教授(音響部門)
 平成30年03月 九州大学退職
 平成30年04月 九州大学名誉教授、日本大学芸術学部特任教授

研究領域

音の主観的印象と音の物理特性の関係の体系化、テレビや映画などの映像作品における音が果たす役割、音と映像の調和感をもたらす要因、メッセージを伝えるサイン音のデザイン手法、製品音の快適化、音環境と人間の関わり、日本の音文化の特徴、音のプロフェッショナルに必要な聴能形成訓練に関する研究に取り組んできた。音が人間の感性にアピールするチカラを解明したいと思っている。

研究業績

音のデザインー感性に訴える音をつくるー(九州大学出版会, 2007)
 音楽と映像のマルチモーダル・コミュニケーション 改訂版(九州大学出版会, 2011)
 音のチカラを感じる。楽しむ。そして活かすー(コロナ社, 2018)
 音と音楽の科学(技術評論社, 2020)
 音楽の仕組みと科学(秀和システム, 2020)

社会活動

日本音響学会評議員
 日本音楽知覚認知学会監事



江間 孝子

非常勤

生年月日

昭和31年01月05日生

略歴

昭和53年03月 国立音楽大学教育音楽学科第Ⅱ類リトミック専攻卒業
 昭和53年07月ー平成15年03月 国立音楽大学音楽教室講師
 昭和55年03月 国立音楽大学大学院音楽研究科音楽教育学専攻修士課程修了(芸術学修士)
 昭和59年09月ー昭和64年03月 日本幼児教育専門学院(ヒューマンライク総合学園)非常勤講師
 平成05年04月ー平成06年03月 聖学院大学人文学部児童学科非常勤講師
 平成06年04月 日本大学芸術学部非常勤講師
 平成13年04月ー平成20年03月 江原音楽療法専門学校非常勤講師
 平成14年04月ー平成22年03月 聖学院大学人間福祉学部児童学科非常勤講師

研究領域

ジャック＝ダルクローズの音楽教育(リトミック)を理論実践両面から研究。日本へ導入された経緯及び当時の指導の様子等歴史的背景も探求。日本人特有の音楽と動きの関連について考察する為、フィールドワークに基づく民俗学的研究を実施。他、物語にピアノ曲を多数作曲し、語り手とのコラボを各所で開催

研究業績

共著
 リトミック12か月(チャイルド本社)音楽基礎研究文献集全18巻別巻解説(大空社)
 論文
 リトミック教育の概念に関する諸問題「リトミック教育の現在」平成15年(開成出版)、埼玉県狭山市入曽の獅子舞における音楽と身体運動の関連について1、2『国立音楽大学大学院研究年報』第18、19輯平成18、19年、小林宗作による(「J＝ダルクローズ教育思想の捉え方」に関する一考察『リトミック教育研究』平成27年(開成出版)

社会活動

日本音楽教育学会会員
 日本ダルクローズ音楽教育学会理事
 日本ジャック＝ダルクローズ協会(FIER日本支部)会員

Musical Arts



笠羽映子

非常勤

生年月日

昭和24年06月25日生

略歴

昭和47年03月
東京芸術大学音楽学部楽理科卒業
昭和51年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
昭和56年03月
パリ第4大学音楽学研究科博士課程修了
昭和58年04月
早稲田大学社会科学部専任講師
昭和60年04月
早稲田大学社会科学部助教授
平成02年04月
早稲田大学社会科学部教授
令和02年04月
早稲田大学名誉教授

研究領域

西欧近・現代の芸術音楽史及び作品研究
ドビュッシーからブーレーズに至るフランスの作曲家の作品研究及び音楽思想の研究を軸に、幅広く西欧音楽芸術の変遷を考察しつつ、日本における音楽芸術の諸問題や芸術・文化の国際交流なども探究している。

研究業績

学術論文
《La musique de Debussy au Japon》
(Cahiers Debussy No 10)
《Retour sur Le Martyre de Saint Sébastien》
(Cahiers Debussy No 24)
Claude Debussy, 《Le Martyre de saint Sébastien》
(Œuvres Complètes de Claude Debussy, Série VI, volume 4, édition de Pierre Boulez et Eiko Kasaba, Éditions Durand, 2009)
訳書
ドビュッシー『ドビュッシー書簡集』
ルシュール『伝記クロード・ドビュッシー』(以上音楽之友社)
ストラヴィンスキー『音楽の詩学』(未來社)
ブーレーズ/ケージ『往復書簡』(みすず書房) 他

社会活動

日本音楽学会会員
Société Française de Musicologie 会員



北岡晃子

非常勤

生年月日

昭和41年09月08日生

略歴

平成02年05月
テキサスキリスト教大学音楽学部ピアノ科卒業
平成02年09月—平成03年09月
カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA)
大学院音楽学部修士課程在籍
平成04年05月
南カリフォルニア大学大学院音楽学部修士課程修了
平成12年04月—平成13年03月
仁愛女子短期大学非常勤講師
平成12年05月
ボストン大学大学院音楽学部音楽芸術博士課程修了
平成15年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成21年04月
宮城大学共通教育センター准教授
平成24年04月
東京福祉大学准教授

研究領域

芸術に関する英語文献を解読して、音楽作品の創作、表現、技術、鑑賞、評論を研究する。
日常から、音楽学、理論、音楽教育、情報音楽、音楽療法など、音楽家としての知識・教養を与えるものから作品分析や演奏解釈まで、幅広い内容と多様な形式の英語文献に触れ、通訳・翻訳も数多く手がける。特にピアノ音楽の研究講演と演奏に力を注ぎ、国内外で活動している。

研究業績

論文「Study of Beethoven's String Quartet Op.131 No.1」
「The Piano Works of Akio Yashiro」
ブラソスバリー交響楽団演奏会「モーツァルトピアノ協奏曲」

社会活動

日本ピアノ教育連盟中央運営委員
日本音楽学会会員
Pi Kappa Lambda 会員
国際ピアノデュオ協会会員



佐々木 伸

非常勤

生年月日

昭和31年01月06日生

略歴

昭和53年03月
武蔵野音楽大学卒業
昭和55年07月
藤原歌劇団入団
第20回日伊声楽コンクール(東京)1位入賞後ミラノに6年間在住
平成03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成20年
洗足学園音楽大学非常勤講師

研究領域

演奏家育成のための歌唱法指導を研究領域とするため、学生を数々の演奏会へ招致するなど、より実践的な指導を実施する。また門下生にはコンクールにて入賞等の実績を収める。演奏家育成に際し、学生個々の特性を活かした5段階の歌唱法指導が必要と考え、基礎面としての呼吸法の見直しにはじまり、それぞれの芸術性と個性を観客に理解してもらうための演奏法及び舞台マナーまでを教示する。28年間の歌唱法指導の経験に基づき、自身執筆論文でも取り上げた、イメージ伝達指導法も交えながら、学生育成に努める。

研究業績

第20回日伊声楽コンクール(東京)1位入賞。
イタリアにてベニ・ミーノ・ジュー国際コンクール2位入賞及びTV・ラジオ等に出演。
オペラ「蝶々夫人」にタイトルロール出演等、オペラ公演に多数出演。論文「声楽家育成における発声テクニックのイメージ伝達」。
門下生のコンクール実績一部抜粋:全日本学生音楽コンクール入選・日本クラシック音楽コンクール入賞/入選・日本声楽コンクール入選/読売新人演奏会出演等。

社会活動

藤原歌劇団団員
日本クラシックコンクール審査員



平野 昭

非常勤

生年月日

昭和24年09月21日生

略歴

昭和54年03月
武蔵野音楽大学大学院音楽研究科音楽学専攻修了
昭和54年04月
武蔵野音楽大学音楽学科学研究員
昭和56年04月
武蔵野音楽大学教育文化研究所助手
平成元年04月
尚美学園短期大学講師・翌年助教授
平成08年04月
沖縄県立芸術大学音楽学部助教授
平成11年04月
沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科教授
平成12年04月
静岡文化芸術大学文化政策学部教授
平成21年04月
静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科長
平成23年04月
慶應義塾大学文学部美学美術史学教授

研究領域

西洋音楽史学及び美学。音楽学全般と音楽評論。専門研究対象は18世紀及び19世紀の音楽様式変遷、とりわけ古典派とロマン派の器楽作品の様式研究。J.S.バッハから新ウィーン楽派にいたるドイツ・オーストリアの音楽史を作品研究だけではなく、社会学的観点から音楽受容史と文化史の脈絡で読み直している。ベートーヴェン研究を生涯課題とし、特に交響曲、弦楽四重奏曲、ピアノソナタ創作に共通する表現語法と理念を探究したい。

研究業績

編著訳書:『音楽キーワード事典』(春秋社)
『ベートーヴェン』(新潮社)、『鳴り響く思想:現代のベートーヴェン像』[ベートーヴェン事典](東京書籍)、『ベートーヴェン大事典』(平凡社)、『人と作品:ベートーヴェン』(音楽之友社) 他。
論文:『19世紀のベートーヴェン受容:楽譜出版から見えてくるもの』、『21世紀のベートーヴェン像:新しい評価の可能性』、『もうひとつのディアベリ変奏曲』、『ベートーヴェン神話の形成とその音楽』。

社会活動

日本音楽学会会員、国際音楽学会会員、日本18世紀学会会員、三田芸術学会会員、浜松市楽器博物館運営協議会委員、日本製鋼文化財団洋楽委員。芸術文化振興基金専門委員、神奈川県芸術文化プログラム委員、音楽評論活動。



松本 明

非常勤

生年月日

昭和34年12月31日生

略歴

昭和59年03月
東京芸術大学音楽学部器楽科卒業
昭和61年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
平成02年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成18年04月
川村学園女子大学教育学部非常勤講師

研究領域

ピアノ奏法の研究特にベートーヴェンからリスト、その後の19世紀後半から第2次大戦のころまでの奏法の発展過程を注視しそれを現代の演奏に生かしていく方法を探求している。
19世紀に盛んに出版された指の技術を高めるための数多くの教本を研究することによってピアノ奏法の体系的な技術の習得を目指している。
特にベートーヴェン、シューベルト、リスト、ドビュッシーを中心にその作品の分析と演奏方法について研究を行っている。

研究業績

東京文化会館小ホールにおいて計15回のピアノソロリサイタル。他室内楽のコンサート出演多数。
雑誌「ムジカノーヴァ」「レッスンの友」にピアノ奏法についての執筆多数。
紀要論文「幼児教育学生のピアノ演奏技術向上についての考察」（川村学園女子大学紀要第28巻3号2017年3月）

社会活動

日本ピアノ教育連盟会員
全日本ピアノ指導者協会正会員
国際ピアノデュオ協会監事
栃木県ピアノコンクール審査員
ピティナピアノコンペティション審査員
教育連盟ピアノオーディション審査員
日本クラシックコンクール審査員



楊 麗貞

(蛭子麗貞)

非常勤

生年月日

昭和24年03月07日生

略歴

昭和46年03月
桐朋学園大学音楽学部卒業
昭和49年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成03年04月
桐朋学園大学音楽学部非常勤講師
平成05年04月
日本大学芸術学部研究所教授(非常勤)
平成22年04月
日本大学芸術学部任期制教授
平成31年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

古典から近現代まで幅広い音楽の研究に取り組んでいる。その中でロマン派音楽、特にショパンにおいては、大半の曲を演奏会で取り上げ思考を重ねている。演奏するにあたり、それぞれの作曲家の生きて来た背景、音楽感を考えてみる。また、実際の演奏上の奏法、レガート、強弱、ニュアンス、美しい音色、タッチ、充実感のある音、歌心…と、ピアノの可能性を十分に引き出す魅力ある演奏を追求していきたい。

研究業績

第36回日本音楽コンクール第1位
第1回日本ショパン協会賞受賞
リサイタル
東京文化会館、紀尾井ホール、カザルスホール、N響、都響、読響、日本フィル、新日フィル、東フィル等主要オーケストラと共演
公開講座開催
CD「ショパン名曲集」 ピクチャー
CD「24の前奏曲」 アートユニオン
CD「ワルツ集」 キング
CD「ショパンアルバム」 ライヴノート
CD「ショパン、4つのバラード」 ライヴノート

社会活動

日本音楽コンクールを始め、各コンクール・オーディション審査員
毎年チャリティコンサートを企画、出演
日本演奏連盟会員
(公財)日本ピアノ教育連盟会員
日本ショパン協会理事

Performing Arts



奥山 緑

専任

生年月日

昭和37年06月07日生

略歴

昭和61年03月
お茶の水女子大学文教育学部教育学科
教育学専攻教育心理専修卒業
昭和61年04月
株式会社西武百貨店入社。銀座センソ劇場勤務。
西武百貨店退職後、翻訳業開始。
平成07年05月
舞踏・山海塾制作
平成10年09月
コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ
アーツ・アドミニストレーション・プログラム
修士課程留学(11年08月同課程退学)
平成11年11月
有限会社アムアーツ創立(現在非常勤)
平成16年04月
財団法人神奈川芸術文化財団演劇部門プロ
デューサー
平成18年04月
財団法人せたがや文化財団入社。世田谷パ
ブリックシアター制作課長、制作部長を経る(平
成22年06月退職)
平成14年04月以降日本大学芸術学部演劇学
科、早稲田大学第一・二文学部、多摩美術大学
造形表現学部映像演劇学科、玉川大学芸術学
部パフォーマンス学科で非常勤講師を務める。
平成31年04月日本大学芸術学部教授

研究領域

演劇・舞踊企画制作プロデュース。舞台芸術マ
ネジメント。
人口縮小社会における公共劇場運営。

研究業績

「ジャポニスム」現代演劇部門コーディネート
「1万人のゴールドシアター2016 金色交響曲」
プロデューサー
世田谷パブリックシアター「現代能楽集」シリ
ーズ制作
『親指こそぞう』プロデュース
太陽劇団公演招聘コーディネート
舞踏・山海塾制作
共著「アート・プロデュースの現場」(論創社)

社会活動

日本芸術療法学会



尾崎弘征

専任

生年月日

昭和32年12月25日生

略歴

早稲田大学第二文学部卒業
令和02年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

演劇、舞踊、ミュージカルなど舞台芸術に不可
欠である電気音響学について、現実的かつ実
際的に、理論と技術、並びに音響心理を研究す
る。デジタル・コンピュータ・ネットワーク・AI、
技術革新は歩みを止めることを知らない。し
かし、我々の聴覚が感知する「音」の原理は不
変である。音楽や効果音が及ぼす心理効果を
もとに、デジタル処理の過程で失われる請わ
ば「音の形容詞」の存在を理解し、舞台芸術及
び生活空間に流れる音をデザインする方法を
探求する。

研究業績

上演発表
演劇公演の音響プラン・オペレート
奈良橋陽子演出「The Winds of God」
文化庁芸術祭受賞作品 平成03年10月

演劇公演の音響プラン・オペレート
野村萬斎演出「敦・山月記・名人伝」
朝日舞台芸術賞受賞作品 平成17年09月

演劇公演の音響プラン・オペレート
野村萬斎演出「マクベス」平成21年03月
世田谷パブリックシアター

演劇公演の音響プラン
野村萬斎演出「子午線の祀り」平成29年07月
読売演劇大賞最優秀作品賞受賞作品

演劇公演の音響プラン・オペレート
小山ゆうな演出「チック」平成29年08月
読売演劇大賞優秀演出家賞受賞作品

教育業績
舞台音響技術講習会講師
「舞台音響家のための公開講座基礎コース」
企画・(公社)日本舞台音響家協会
平成15年～29年(年1回)



小林直弥

専任

生年月日

昭和44年07月10日生

略歴

平成04年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成04年04月
日本大学芸術学部演劇学科補助員
平成08年03月
日本大学大学院芸術学研究科舞台芸術専攻修了
平成08年04月
日本大学芸術学部副手
平成12年04月
舞踊文化研究所主任研究員
平成14年03月
日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻
満期退学
平成14年04月
日本大学芸術学部助手(助教)
平成18年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部准教授
平成26年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

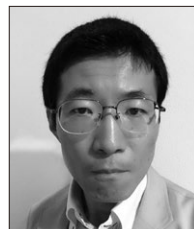
日本の演劇史及び芸能史、また民俗芸能の立
場から日本芸能や日本舞踊をはじめとする我
が国の舞踊文化について研究している。また、
中国や韓国をはじめ、広くアジアの舞踊・芸能
との身体的かつ歴史的な観点からの比較研究
や実践的な文化交流を行いながら、これか
らの日本の舞踊文化における創作舞踊領域の可
能性について実践的な作品創作も行いながら
研究している。

研究業績

『風流踊りー考察ー阿波踊りの特徴と特性を中
心にー』日本大学芸術学部紀要第70号
令和元年度日本大学芸術学部研究費(個人)
研究成果発表「第2回創作舞踊詩作品展」令和
2年1月26日於 日本大学芸術学部江古田校
舎中ホール

社会活動

日本演劇学会会員
舞踊学会会員
民族芸術学会会員
藝能学会会員



櫻井 歓

専任

生年月日

昭和47年07月02日生

略歴

平成08年03月
東京大学教育学部教育学科教育学コース卒業
平成11年03月
東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専
攻教育学コース修士課程修了
平成16年03月
東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専
攻教育学コース博士課程満期退学
平成17年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成20年04月
日本大学芸術学部准教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

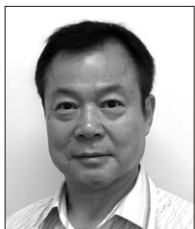
近代日本の思想・哲学のテキストより、人間
形成(人格の発達や変容、教育)の思想を読み
解く研究を続けている。とりわけ西田幾多郎
(1870-1945)のテキストを人間形成論として、
近代日本における個の形成の思想として読む
試みをライフワークとしている。学問的な出
自を教育学に持つ立場から、演劇的行為の人間
形成的意義、そもそも人が人となることの
演劇的性格などに関する哲学的考察にまで思
考の射程を広げようとしている。

研究業績

『西田幾多郎 世界のなかの私』[新版](朝文
社、2010年)
『「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関
係性』(世織書房、2015年、共著)
『「おのすから」より「みすから」へ——「自律」
概念への場所論的アプローチ』[日本大学芸術
学部紀要]第62号(2015年)
『西田幾多郎による書の制作と贈与』[北陸宗
教文化]第27号(2014年)
『歴史的生命的表現としての芸術——後期西
田哲学にみる自己形成概念の二重性』[日本
大学芸術学部紀要]第52号(2010年)

社会活動

日本教育学会会員
教育思想史学会会員
教育科学研究会「道徳と教育」部会世話人



范 旅 (FAN LYU)

専任

生年月日
昭和34年07月20日生

略歴
昭和59年07月
国立北京舞蹈学院卒業
昭和59年09月
中国広東省歌舞劇院入団
昭和63年09月
留学のため来日
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
平成07年04月
日本大学芸術学部演劇科副手
平成11年04月
日本大学芸術学部助手
平成14年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成24年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
アジアの文化と伝統芸能の視点から、東洋的な身体表現法を中心に、その歴史と体系、現状と形態を研究する。また従来の東洋的な表現特徴を分析しながら西洋の身体論と比較し、現代における舞踊表現の可能性と作品創作法を探索。

研究業績
論文
「胡楽・胡舞～日・中芸能史研究の課題として～」日本大学芸術学部紀要第32号
「時代に翻弄された京劇舞台の裏表」日本大学芸術学部紀要第56号
「身体表現の視点から“演劇の未来の表現”をどう創造するか」平成30年度学部長指定研究創作
身体表現演劇『蛛網』総合演出・振付
舞踊創作『ミズカガミ』/演出・振付
現代舞踊作品『極』『砂塵』『輪』等
身体表現演劇『ecstasy～方円の恍惚』総合演出・振付

社会活動
アジア演劇教育研究センター日本支部連絡担当



藤崎周平

専任

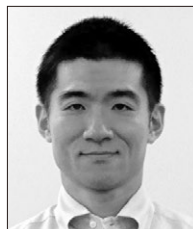
生年月日
昭和32年06月29日生

略歴
昭和55年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成02年12月
日本大学芸術学部助手
平成06年12月
日本大学芸術学部専任講師
平成13年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
現代演劇における演技及び方法の研究。
近代以降の主にナチュラリズムの表現のための基幹となったスタニスラフスキーの方法論及び、その派生であるメソッド演技の実践研究。それらの方法を土台とした演技訓練法の開発など。

研究業績
A・チェーホフ作『かもめ』演出における一考察 日本大学芸術学部紀要23号
Animal Exercise—その内容と実践について— 日本大学芸術学部紀要33号
「役」と「演じる役者」の関係について 日本大学芸術学部紀要45号
演劇の「専門」学科における「基礎」教育をめぐる問題 演劇学会紀要44号
新演技の基礎のキノ(単著)

社会活動
日本演劇学会理事
東京演劇大学連盟理事



小沢 徹

専任

生年月日
昭和55年04月06日生

略歴
平成15年03月
日本大学文理学部体育学科卒業
平成17年03月
日本大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修了
平成20年03月
日本大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程修了
平成22年04月
日本大学芸術学部助教
平成25年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成30年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
運動生理学、健康科学。脳波を用いて、アスリートの脳活動やタイミング調節に関与する脳活動の研究を行ってきた。現在では、大学生における身体活動と身体組成および機能の関係について研究を行っている。

研究業績
・若年者における身体組成の変化と身体活動量の関係 日本大学芸術学部紀要68号
・大学生における現在の体格と理想の体格の調査 日本大学芸術学部紀要66号
・体育実技授業による受講生の身体組成および身体機能の変化 日本大学芸術学部紀要64号
・日本舞踊における「腰」に関する動作の考察—スポーツ動作との比較— 日本大学芸術学部紀要59号

社会活動
日本健康行動科学学会評議員
Society for Neuroscience 会員
舞踊学会会員



中野成樹

専任

生年月日
昭和48年08月25日生

略歴
平成07年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成08年04月
日本大学芸術学部演劇学科副手
平成14年03月
日本大学大学院芸術研究科舞台芸術専攻修了
平成21年04月
有明教育芸術短期大学専任講師
平成26年04月
有明教育芸術短期大学准教授
平成28年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成30年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
舞台演出：戯曲よりドラマトゥルギーの抽出とその立体化。具体的には①戯曲読解 ②演技指導 ③空間処理 ④時間編集の方法論。
現代演劇：①いま観ることのできる演劇 ②現代をモチーフとした戯曲の上演 ③近代劇に対する戯曲・演技・美術・音響効果などの形式の分析・解説。
小劇場：大に対する小の発想、表現、認識などの分析・解説。①大に対する小 ②中央に対する辺境 ③表に対する裏、など。

研究業績
平成22年～24年
アジア舞台芸術祭[Waiting～]
平成25年～29年
としまアート夏まつり『おぼけ教室』他
平成25年10月
フェスティバル／トーキョー『四家の怪談』
平成28年05月
日本・シンガポール共同制作『DRUMS』
平成29年10月
フェスティバル／トーキョー『半七半八』
以上全て作・構成・演出

社会活動
日本演劇学会会員

Performing Arts



大久保恵児

非常勤

生年月日

昭和28年02月11日生

略歴

昭和52年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
以後、ホログラフ作家を目指し渡米。
昭和55年
(株)ノーマンインターナショナル(セルスブ
ロモーション)入社
昭和57年
(株)共立 舞台照明契約社員
以後フリーランスとして多数の音楽イベン
ツァー、ミュージカル等々にオペレーター・ブ
ランナーとして従事する。
平成12年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成18年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成24年04月
日本大学芸術学部教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域

各ジャンルに於ける舞台照明デザイン。舞台
上で使用される光に関わる視覚表現全般につ
いてのデザインを対象としている。

研究業績

串田和美演出『コビュ王』、照明デザイン
加藤直演出『周辺飛行』<ボクたちの安部公
房>—イメージの展覧会より—照明デザイン
加藤直演出『地図マニア』—ボクたちの
Nowhere Land 韓国公演(韓国ソウル 中央
大学校アートセンター大劇場)照明デザイン。
加藤直演出『地図マニア・扉編』(日中韓合同公
演)照明デザイン

社会活動

照明学会会員



小田幸子

(渡辺幸子)

非常勤

生年月日

昭和24年03月14日生

略歴

昭和47年03月
立教大学文学部日本文学科卒業
昭和47年04月
法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻
修士課程入学
昭和56年03月
法政大学大学院博士課程単位修得
平成10年03月
法政大学より(博士論文提出)文学博士号授与
平成04年04月
聖徳大学助教授
平成12年04月
東京文化財研究所芸能部調査員
平成14年04月
日本女子大学非常勤講師
平成20年04月
明治学院大学非常勤講師
平成29年12月
第39回観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞

研究領域

能狂言研究・演劇批評
能狂言の作品研究および演出史。
型付・装束付等の演出資料をもとに、能の古
態を究明し、現在に至る変化の相を辿る。平
成12年以降、古典劇を取り入れた現代劇に関
する批評を執筆。復曲・新作・古演出のドラマ
トゥルクなど、古典と現代、研究と舞台を橋渡
しする活動を行なう。

研究業績

学術論文
「能の舞台装置—作り物の歴史的考察—」
「能の演技と演出—装束付・型付をめぐる諸問題—」
「修羅能出立の変遷」
「女能のエロティシズム」
「シェイクスピア狂言の可能性—『国盗人』を中心に—」

社会活動

平成22～24年 文化庁主催芸術祭 審査員(演
劇部門)
平成26～令和元年 芸術文化振興基金運営委
員会伝統芸能・大衆芸能専門委員
令和元年～ 国立能楽堂専門委員
令和03年 文化庁主催芸術祭 審査員(演劇部門)



加藤みや子

(駐地みや子)

非常勤

生年月日

昭和23年05月14日生

略歴

昭和43年04月
桑沢デザインスクール卒業
昭和52年10月～同53年10月
文化庁在外派遣研修員としてNY、パリで研
修。帰国後、加藤みや子ダンススペースを設立。
平成01年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成16年09月
日本女子体育大学非常勤講師
平成19年04月
お茶の水女子大学非常勤講師
平成19年12月
文化庁在外特別派遣研修員として米、仏、独で
研鑽。アーティストインタビューを重ねる。
平成25年04月
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師
平成25年09月
日本女子体育大学非常勤講師

研究領域

・地域含めたコラボレーション活動の展開
振付家ソロダンサーとして多くの先駆的な作
品を発表し、内外に認められ多くの作品を發
表。ヨーロッパ、アメリカ等巡演。08年には
ブラジルの五都市を国際交流基金主催事業と
して巡回する。コラボレーションを作品に取り
組み、Hot Head Worksを立ち上げ、ジャン
ルを越えて地域アーティストが集結するフェ
スティバルのディレクションをする。
・ダンスアーカイブ研究
過去の発見と今の繋がりを検証。ダンス・アー
カイブ in JAPANの一員として企画実践している。
・五感ダンスワークショップとアウトリーチ活動
未来に向い五感フル活用のワークショップを
地域や学校で展開。創造力を育む教育の大切
さを伝えている。

研究業績

東京新聞主催全国舞踊コンクール三部門第一
位文部大臣賞江口隆哉賞ニムラ舞踊賞等受賞
「からだの知性が次代の文化を創造する」
gapan forram 21

社会活動

国加藤みや子ダンススペース主宰
現代舞踊協会常務理事



神永光規

非常勤

生年月日

昭和23年09月05日生

略歴

昭和47年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和49年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
昭和53年04月
日本大学芸術学部助手
昭和57年03月
日本大学芸術学部専任講師
平成元年04月
日本大学芸術学部助教授
平成07年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
平成31年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

専攻分野:演出論・日本近代演劇史
劇性が多様化し、骨太な人間が創出するドラ
マが稀薄となっている今日、近代人が刻んだ
劇的世界を検証することは大切である。そこ
から自己実現への道筋が見えてくるからであ
る。演出者とは、自他の関係において潜在下
の能力をいかに惹き出すかの一点に極まる。ド
ラマが現代に劇場性を取り戻し、その力をい
かに発揮するか普遍的問いかけとしている。
韓国を中心にアジアのコモンセンスを追求し
ている。

研究業績

「演出者・岡倉士朗の軌跡」
日本大学芸術学部紀要
「農民劇作家・大島萬世」『芸術学』
「講座日本の演劇 近代の演劇Ⅰ・Ⅱ」(共著)
勉誠社
「講座日本の演劇 現代の演劇Ⅱ」(共著)
勉誠社
「20世紀の戯曲Ⅱ 現代戯曲の展開」(共著)
社会評論社

社会活動

東洋演劇学会(在ソウル)設立など日韓演劇学
術交流



川村 毅

非常勤

生年月日
昭和34年12月22日生

略歴
昭和58年
明治大学政治経済学部経済学科卒業
昭和61年
株式会社劇団第三エロチカ設立、代表取締役
就任(平成14年株式会社ティーファクトリー
に社名変更)
平成08年
早稲田大学第二文学部非常勤講師
平成08年
アジア・カルチュラル・カウンシル グラン
ティー
平成11年
ニューヨーク大学ゲストディレクター及び客
員研究員
平成11年
早稲田大学第一文学部客員教授
平成14年
京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科准教授
平成19年
京都造形芸術大学舞台芸術学科教授及び学科長
平成20年
日本大学芸術学部演劇学科非常勤講師
平成28年
京都芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員
平成30年
桐朋学園芸術短期大学演劇専攻非常勤講師

研究領域
現代演劇に於ける劇作・演出分野

研究業績
『新宿八犬伝 第一巻 -犬の誕生-』
1985年度第30回岸田國士戯曲賞受賞
『4』
2012年度第16回鶴屋南北戯曲賞、第63回文
化庁芸術選奨文部科学大臣賞〔演劇〕受賞

社会活動
日本劇作家協会会員
日本演出者協会会員
日本文藝家協会会員



千早正美

非常勤

生年月日
昭和25年11月11日生

略歴
昭和48年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和60年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成06年04月
日本大学芸術学部助教授
平成12年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
専門分野:演出、舞台監督、劇場技術
上演芸術における舞台監督(舞台監督論・テ
クニカルディレクター論)の在り方を研究し
ている。また、多目的ホールの概念から専門
ホールへの移行、創造空間への試み、コミュニ
ティー文化の核としてのホールを中心に公立
文化ホールから公共劇場へのテアトロジーを
考察している。

研究業績
「大学における照明教育について」 舞踊学
「スタッフへの道・舞台監督を志す人へ」 テ
アトロ
「写実舞台における照明デザインの考え方～
構想と設計～」 日本大学芸術学部紀要
「光学技術と舞台芸術」 化学工学
「光と演出・中村吉蔵『剃刀』における照明の
一考察」 日本大学芸術学部紀要
「科学技術用語辞典」(共著)三修社

社会活動
公益社団法人日本照明家協会理事
日本舞台監督協会
舞踊公演等における演出・舞台監督
NBA/バレエ団評議員



貫 成人

非常勤

生年月日
昭和31年07月05日生

略歴
1980年 東京大学文学部哲学科卒業
1985年 東京大学大学院人文科学研究科哲
学専修博士課程単位取得満期退学
1988年 埼玉大学教養学部専任講師
1990年 同助教授
2000年 専修大学文学部教授

研究領域
[1] 舞踊に関しては、①舞踊の構成、また、観
客としての舞踊体験のメカニズムについて
の、現象学や哲学的美学、認知心理学、引き込
み理論などの諸観点からの分析、②日欧の舞
踊をめぐる社会史・経済史・政治史などの分
析にもとづく舞踊史の再構築、③上演実態
調査などにもとづく日欧など各国文化政策、
アートマネジメントの研究。[2] 身体文化論(哲
学、各地域の身体文化史など)、歴史理論(物
語論、世界システム論、複雑系理論など)、現象
学、哲学史研究。

研究業績
『経験の構造: フッサー現象学の新しい全体
像』(勁草書房、2003年8月)
『歴史の哲学 物語を超えて』233+xxiv、
2010年8月、勁草書房
『バレエとダンスの歴史: 欧米劇場舞踊史』鈴
木晶編、平凡社、2012年3月14日310頁、「コ
ンテンポラリーダンス」229-253頁)
「身体」の拡散とダンスの豊穣化」『Who
Dance? 振付のアクチュアリティ』早稲田大
学坪内博士記念演劇博物館、2015年12月20日、
82～92頁。
Übersetzbarkeit von Tanz: Der Fall
Butoh, in Tanz anderswo: Intra- und
interkulturell, hrsg. von K. Kruschkova
und N. Lipp, Lit Verlag, 2004, S.121-133.

社会活動
2010、2014、2018年度 京都賞選考専門委員
会委員
2015年～青山ダンスDNA実行委員会理事
2015年 ドイツ学術交流会(DAAD) 奨学生選
考委員
『照明家協会雑誌』『ダンスマガジン』『読売新
聞』などに舞踊評論執筆



法月敏彦

非常勤

生年月日
昭和26年07月01日生

略歴
昭和50年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和52年03月
日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻修了
昭和52年04月
玉川大学文学部芸術学科助手(専任講師、助教
授、教授、芸術学部教授を経て平成29年3月定年
退職)
昭和55年
国立劇場芸能調査室嘱託
平成06年以降
英国ミドルセックス大学、日本大学芸術学部、
群馬県立女子大学大学院、明治大学文学部、共
立女子大学文芸学部、桜美林大学等で非常勤
講師
平成29年04月
桜美林大学芸術文化学群教授
平成31年03月
日本大学より博士(芸術学)の学位取得

研究領域
日本演劇史を中心とする芸術史・芸術論の研
究を行っている。とくに人形浄瑠璃文楽・歌舞
伎から近代劇・現代劇に及ぶ広範囲の領域を
研究対象とし、主に観客の受容という視点か
ら演劇の本質を巨視的に追究している。

研究業績
共著『近代歌舞伎年表』八木書店
編著『浄瑠璃大系図』国立劇場
編著『増補浄瑠璃大系図』国立劇場
編著『六二連 俳優評判記』国立劇場
単著『演劇研究の核心 一人形浄瑠璃・歌舞伎
から現代演劇』八木書店

社会活動
文部科学省研究振興局拠点採択委員・プログ
ラムオフィサー
文化庁芸術祭執行委員審査委員・文化庁芸術
選奨推薦委員
日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
アーツカウンシル東京外部評価委員
ほかを歴任

Performing Arts



原 一平

非常勤

生年月日

昭和25年07月14日生

略歴

昭和49年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和51年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
昭和55年04月
日本大学芸術学部助手
昭和59年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成03年04月
日本大学芸術学部助教授
平成09年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師

研究領域

〈かぶき〉を戯曲構造の面からとらえ、鶴屋南北を始めとする18世紀以降の演劇史を専攻研究。また、民俗芸能としての地芝居・人形浄瑠璃の実情調査も行っている。さらに、京劇を始めとする中国伝統演劇にも研究領域を拡げたい。

研究業績

共著「アジアの芸術論ー演劇理論集」 勉誠社
共著「現代／実用・日本舞踊曲大全集」 組本社
論文「大鹿歌舞伎の芸能ー『六千両後日文章』を例にー」(長野県下伊那郡大鹿村教育委員会調査報告書)
地芝居、アマチュアカぶき、学生かぶき等の演出、演技指導、出演など多数
中国・中央戯劇学院客員教授、中国戯曲学院客員教授
日中演劇交流・話劇人社理事



丸茂祐佳

(丸茂美恵子) 非常勤

生年月日

昭和29年11月19日生

略歴

昭和52年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成元年04月
東京国立文化財研究所芸能部調査員(非常勤)
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
平成09年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成12年03月
韓国国立韓国芸術総合学校舞踊院招聘講師
平成13年03月
日本大学より博士(芸術学)取得
平成15年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授
令和02年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
令和02年04月
桜美林大学芸術文化学群特任教授

研究領域

動作分析を中心に日本舞踊の本質と理論を探っている。近年はモーションキャプチャを用いた舞踊研究に従事し、日本舞踊の身体的科学的な解明を試みた。それらの成果を発展させ、現在、舞踊と美術、文系と理系の融合によって日本舞踊の身体の源流を探り、日本舞踊学の確立を目指している。

研究業績

単著
「二世花柳壽應 一期一會」花柳壽應
「舞曲扇林ー日本舞踊 基本と本質ー」私家版
「おどりの譜ー日本舞踊 古典技法の復活ー」国書刊行会
「舞踊 正派若柳流史 第Ⅱ期」正派若柳会
「日本舞踊 西川流史」西川流宗家論文
「日本舞踊の基礎動作『オクリ』に現れる女らしさの特徴解析」舞踊学27

社会活動

文化審議会委員(文化功労者選考分科会)
文化庁芸術祭選奨選考委員
国立劇場舞踊公演専門委員などを歴任



宮尾慈良

非常勤

生年月日

昭和23年11月09日生

略歴

昭和51年03月
早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻修士課程修了
昭和55年06月
ハワイ大学大学院博士課程留学
ハワイ・イースト・ウエスト・センター研究員
平成03年04月
東京女学館大学助教授
平成09年04月
早稲田大学文学部非常勤講師
慶応義塾大学文学部非常勤講師
平成12年03月
博士(芸術学)取得

研究領域

日本演劇の歴史は、アジアから渡来した外来文化と固有文化の混交からなりたってきた。豊かな文化や新たな芸能は、今日では世界演劇を代表する能、狂言、文楽、歌舞伎などに発達した。現在、視点を変えて、アジア演劇のなかで、日本演劇は独自性をもつかどうかを考察してみる。アジア演劇における精神性を研究するには、民俗に根ざした芸能の伝承形態を分析することによって、明確にすることができると考える。

研究業績

「アジアの人形劇」三一書房
「アジア舞踊の人類学」PARCO出版
「宇宙を映す身体ーアジアの舞踊」新書館
「アジア演劇人類学の世界」三一書房
「アジア人形博物館」大和書店
「舞踊の民族誌」彩流社
「東南アジア演劇史の研究」鼎書房
「比較芸能論」彩流社

The Arts



草原真知子

非常勤

生年月日

昭和23年02月18日生

略歴

1983年10月
ACM/SIGGRAPH日本代表事務所、CG &
メディアアート・キュレーター
1986年04月 - 2002年03月
日本電子専門学校、IAMAS 他非常勤講師
1994年04月
東京工芸大学芸術学部助教授
1998年04月
神戸大学大学院自然科学研究科助教授
2001年09月
博士号取得(工学・東京大学)
2002年04月
UCLA 芸術学部客員教授
2003年04月
早稲田大学文学学術院教授
2018年04月
早稲田大学名誉教授
2019年04月
デジタルハリウッド大学院招聘教授

研究領域

メディアアート、現代美術、デジタルメディア
と表現、映像文化史、19-20世紀日本の大衆
文化と映像エンターテインメント。

研究業績

- ・ *Utsushie: Japanese Magic Lantern Performance as Pre-cinematic Projection Practice*, *Routledge Handbook of Japanese Cinema*, Routledge, 2020
- ・ A Virtual Tour of Japanese Panorama Halls from Fukuoka to Fukushima, *More than Meets the Eye: The Magic of the Panorama*, Büro Wilhelm Verlag, 2019, pp.46-59
- ・ 「マジック・ランタン: 光と影の映像史」展示協力と執筆(東京都写真美術館、2018)
- ・ 「デジタルメディア時代のアート」デジタル・スタディーズ第2巻 メディア表象 東京大学出版会 2016 他多数

社会活動

日本映像学会、芸術科学会、社団法人デザイン
& テクノロジー協会理事、日本バーチャルリア
リティ学会評議員

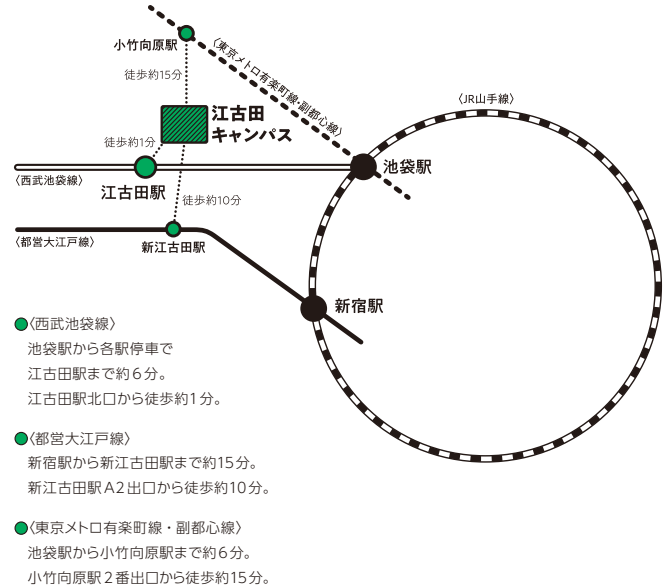
五十音順 (敬称略)

●博士前期課程と●博士後期課程を担当する教員が
見分けられるようになっています。

Pは掲載頁の場所を示します。

	博士前期	博士後期	P		博士前期	博士後期	P
相内啓司	●	—	21	鳥山正晴	●	●	18
青木敬士	●	—	10	長瀬浩明	●	—	28
青木研次	●	—	21	中野成樹	●	—	43
赤木範陸	●	—	30	中町綾子	●	●	20
秋元貴美子	●	—	15	西尾彩	●	—	34
浅井譲	●	●	15	西垣仁美	●	●	16
浅沼瑛	●	●	10	西川潔	●	●	34
(浅沼博)	●	—	—	實成人	●	—	45
安部裕	●	—	19	野口玲一	●	—	34
飯田竜太	●	—	27	野田慶人	●	●	23
池田光宏	●	—	29	野村康治	●	—	13
出羽尚	●	—	29	法月敏彦	●	—	45
伊藤博明	●	●	12	萩原貴子	●	●	38
伊藤弘之	●	●	37	(緒方貴子)	—	—	—
今泉久	●	—	39	服部一人	●	—	16
岩宮真一郎	●	—	39	花柳貴答	●	—	23
上田薫	●	●	10	(鈴木昭)	—	—	—
植月恵一郎	●	—	12	原一平	●	—	46
上坪裕介	●	—	12	原直久	●	—	23
江間孝子	●	—	39	范旅昭	●	●	43
大久保恵児	●	—	44	平野昭	●	—	40
大熊敏之	●	●	26	福島唯史	●	●	27
大谷尚子	●	—	16	福田卓郎	●	—	24
大槻孝之	●	●	26	藤崎周平	●	●	43
大寺雅人	●	—	38	藤代裕之	●	—	13
大西若人	●	—	30	星野裕	●	—	20
大庭英治	●	—	30	堀邦維	●	—	13
奥野邦利	●	●	16	増田治宏	●	—	18
奥山緑	●	—	42	松下サトル	●	—	34
尾崎弘征	●	—	42	(松下悟)	—	—	—
小沢徹	●	—	43	松島哲也	●	●	18
小川幸子	●	—	44	松本明	●	—	41
(渡辺幸子)	—	—	—	松本洸	●	●	14
落合賢一	●	—	21	松本有	●	—	35
海崎三郎	●	—	30	丸茂祐佳	●	—	46
笠井則幸	●	—	27	(丸茂美恵子)	—	—	—
笠羽映子	●	●	40	三戸勇氣	●	—	39
加藤みや子	●	—	44	宮尾慈良	●	—	46
(畦地みや子)	—	—	—	三宅理一	●	—	14
金澤健一	●	—	31	宮沢誠一	●	●	24
金子啓明	●	●	31	村山匡一郎	●	—	24
兼高聖雄	●	●	19	森香織	●	●	28
上倉泉	●	●	17	森中慎也	●	—	20
神永光規	●	—	44	八木なぎさ	●	—	35
茅原良平	●	—	21	(篠崎なぎさ)	—	—	—
川上央央	●	●	37	山内淳	●	—	14
川村毅	●	—	45	山田均	●	—	24
北岡晃	●	—	40	山中敏正	●	●	35
木下晋	●	—	31	山本雅男	●	—	14
(木下進)	—	—	—	山本守和	●	—	29
木村三郎	●	●	31	楊逸	●	●	11
木村政司	●	●	28	(百木逸楊)	—	—	—
金龍郎	●	—	19	楊麗貞	●	—	41
草原真知子	●	●	47	(蛭子麗貞)	—	—	—
久保陽子	●	—	11	横田正夫	●	—	25
鞍掛純一	●	●	26	吉岡正人	●	—	35
蔵屋美香	●	●	32	吉野大輔	●	—	38
栗芝正臣	●	—	32	若原一貴	●	—	29
肥田不二夫	●	—	32	渡部葉子	●	—	36
古賀太	●	●	17				
小林昭世	●	●	32				
小林直弥	●	—	42				
齊田正子	●	●	37				
齊藤裕人	●	●	17				
作田富幸	●	—	33				
櫻井欽	●	—	42				
笹井祐子	●	●	26				
(奥村祐子)	—	—	—				
佐々木伸	●	—	40				
佐藤徹	●	—	28				
佐藤英裕	●	—	15				
清水和貴	●	—	19				
清水正	●	●	13				
志村三代子	●	—	17				
ジュリアン・マニング	●	—	11				
眞道正樹	●	—	22				
鈴木康弘	●	●	20				
瀬島匠	●	—	27				
ソコロフ山下聖美	●	●	11				
(山下聖美)	—	—	—				
鷹尾俊一	●	—	33				
高久暁	●	●	37				
高橋則英	●	—	22				
田口文哉	●	—	33				
田代幸弘	●	●	38				
田中里実	●	—	15				
谷村順一	●	—	12				
玉木則順	●	●	18				
近森眞史	●	—	22				
千早正美	●	—	45				
手塚昌明	●	—	22				
寺内曜子	●	—	33				
寺脇研	●	●	23				

江古田キャンパス



GSA

Art Direction, Design & Digital Operation

by Masashi Kimura,

Department of Design

*Text : General Affairs Section & Academic
Affairs Section*

Printing Company : TASP

Many thanks to

*The People Who Understand
the Art & Design*

*Nihon University Graduate School of Art
October 2021.*

GSA

<https://nihon-u-gsa.com>

日本大学大学院芸術学研究科

東京都練馬区旭丘 2-42-1 〒176-8525

Telephone.03・5995・8202 Facsimile.03・5995・8209

NIHON UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF ART

2-42-1, Asahigaoka Nerima-ku, Tokyo 176-8525 JAPAN